静岡県立美術館年報 令和6年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2024

静岡県立美術館年報 令和6年度

ANNUAL REPORT OF SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART 2024

	実技・体験 ・・・・・・・・・・・・・・・・50
	学校連携普及事業(美術館教室)52
自己評価システムの体系・・・・・・5	【重点目標 2 】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等
令和 6 年度 美術館の評価活動・・・・・・・・・6	を充実します
【基本方針A】特徴あるコレクションを形成し、効果	講演会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・58
的に活用します	美術講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
【重点目標1】収集方針に従い持続的に作品を収集し	対外活動 · · · · · · · · 6′
ます	ロダン館展示・イベント・・・・・・・・・63
新収蔵品・・・・・9	【重点目標3】地域住民、企業、文化関係団体等と連
収集品点数一覧14	携した美術館活動を充実します
【重点目標2】コレクションの新たな価値を発見し広	美術館ボランティア・広報サポーター ・・・・・・・・64
く発信するとともに、適切に後世に伝	友の会活動 ・・・・・・・・・・・67
えていきます	【基本方針D】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活
収蔵品展16	動の情報発信に努めます
ロダン館開館30周年記念	【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます
《地獄の門》ができるまで ・・・・・・17	広報活動(ウェブサイトを含む) ・・・・・・72
移動美術展18	デジタルアーカイブによる情報発信73
図書資料の収集・整理19	美術館ニュース「アマリリス」 ・・・・・・・・・75
館蔵品等の貸し出し20	【重点目標 2 】観光業界等と連携した新たな広報チャン
美術作品の補修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25	ネルの開拓に取り組みます
保存活動 · · · · · · · · 26	新たな広報チャンネルの開拓・・・・・・・・77
クラウドファンディング ・・・・・・・・28	【基本方針E】 環境・施設の整備や運営基盤の強化に
【基本方針B】人々の感性を豊かにし、生活に新たな	努めます
感動をもたらすような展覧会を開催し	【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます
ます	施設利用状況(年度別) ・・・・・・・・・・78
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積	県民ギャラリー利用状況・・・・・・・・・・79
極的に開催します	【重点目標 2 】周辺環境やアクセスの利便を向上させま
展覧会活動 展覧会一覧29	व्रं
観覧者数一覧30	来館者のアクセス満足度・・・・・・・80
テオ・ヤンセン展31	■付帯資料
カナレットとヴェネツィアの輝き ・・・・・・32	令和6年度主要記事 ·····8
無言館と、かつてありし信濃デッサン館	(展覧会 出品目録)
一窪島誠一郎の眼 ・・・・・・・・・・34	テオ・ヤンセン展・・・・・・・83
生誕140年記念 石崎光瑤36	カナレットとヴェネツィアの輝き ・・・・・・・84
【重点目標 2 】他の美術館・大学との連携を進め、企画	無言館と、かつてありし信濃デッサン館
力を強化します	―窪島誠一郎の眼 ・・・・・・・87
(調査研究活動)	生誕140年記念 石崎光瑤92
紀要の発行 ・・・・・・・・・・38	収蔵品展 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
研究活動 · · · · · · · 39	ロダン館開館30周年記念
研究会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・40	《地獄の門》ができるまで ・・・・・・・・100
各種資料整理 · · · · · · · · · · · · · · · 44	移動美術展 リレーション 奥中彰人/堀園実
博物館実習 · · · · · · · · · · · · · · · 45	二人展(島田市)・・・・・・・・102
【基本方針C】地域や学校教育との連携を深め、質の高	(管理運営)
い芸術教育と普及活動を展開します	関連法規・・・・・・103
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及プログラムを開	組織・名簿・・・・・・112
発します	歳入・歳出決算・・・・・・・・・113
(一般向け)	建築・設備概要・・・・・・・114
ギャラリーツアー・タッチツアー ・・・・・・46	利用案内·····119
実技・鑑賞講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48	奥付

(子ども向け)

自己評価システムの体系

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。 そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との 連携を積極的にめざします。 その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

運	学基本方針 学基本方針		重点目標 重点目標		評価指標
			収集方針に従い持続的に作品を		22 - 1016 - 101 102 - 101
		1	収集します	6	2 作品寄贈件数・価格
				6	3 収蔵品の公開件数
			and dear 1 to 1 t		収蔵品展のみの観覧者数
Α	特徴あるコレクションを形成し、 効果的に活用します				5 ロダン館の観覧者数
	別条的に佰用します	2	コレクションの新たな価値を発 見し広く発信するとともに、適	(り収蔵品に関する調査研究の発表回数
			切に後世に伝えていきます	7	7 コレクションを活用した教育普及プログラム数
				8	8 修復したコレクションの件数・費用
) 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
					0 展覧会の来館者数
			 新たな視点や工夫に基づく企画	1	1 自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		1	展を積極的に開催します		2 作品やテーマに興味を持った人の割合
	人々の感性を豊かにし、生活に				3 展覧会に対する外部評価 【定性】
B	新たな感動をもたらすような展 覧会を開催します			1	4 調査研究の発表回数
			他の美術館・大学との連携を進 め、企画力を強化します		5 内部セミナー・研究会・研修の回数
		2			6 他の美術館や大学と連携した取組件数
				1	7 調査研究に関する外部評価 【定性】
					8 学校教育と連携した取り組み数 うち特別支援学校と連携した取り組み数
		1	 質の高い芸術教育と普及のプロ	1	9 鑑賞系プログラム数
			グラムを開発します	2	0 webを活用したプログラム数
	地域や学校教育との連携を深め、			2	1 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート 【定性】
С	質の高い芸術教育と普及活動を		講座・講演会・シンポジウム・ 演奏会等を充実します		2 講演会等の開催件数
	展開します	2			3 学芸員のフロアレクチャー等の数
					4 館内空間を生かした催事の件数・参加者数
		3	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実	2	5 地域住民等と連携した取組数
			します	2	6 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート 【定性】
				2	7 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				2	8 デジタルアーカイブによる情報発信件数
		1	広報戦略を策定し、広報の質を 高めます	2	9 ホームページのアクセス件数
D	さらに積極的な広報を工夫し、 美術館活動の情報発信に努めま			3	0 facebook、インスタグラム、Xの発信数/ビュー数
	す			3	1 facebook、インスタグラム、Xのエンゲージメント等の件数
			 観光業界等と連携した新たな広	3	2 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
		2	報チャンネルの開拓に取り組み	3	3 教育機関への情報発信数
			ます	3	4 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
				3	5 美術館利用者数
		1	館内施設を充実させ、満足度を	-	6 鑑賞環境に対する満足度
E	環境・施設の整備や運営基盤の		高めます	3	7 レストランに対する満足度
	強化に努めます				8 ミュージアムショップに対する満足度
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	3	9 来館者のアクセス満足度
		3	運営基盤を強化します	4	0 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】

令和6年度 美術館の評価活動

■ 美術館自己評価 総括

A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用しま す

【成果】

- ・前年度と同様、少額ではあるものの購入予算が確保 され、既収蔵品とゆかりの深い日本画・現代美術各 1点を購入することができた。
- ・作品90件・資料11件の寄贈を受け、コレクションを 充実させた。2023年に閉館したヴァンジ彫刻庭園美 術館(長泉町)からの61件一括寄贈の受入は、同館 の特徴的な活動をコレクションを通して後世に伝え ていくものであり、県立美術館として重要な役割を 果たす機会となった。
- ・収蔵品展4本のうち2本を企画展関連展示として構成した。コレクションの新たな価値の発見と魅力の 発信に有益だった。
- ・ロダン館30周年にあたり小企画展を開催、改めてロ ダン館への関心を喚起する機会とした。
- ・屋外彫刻の修復とプロムナードの環境整備を目的として初めてクラウドファンディングを実施、目標額1,000万円のところ190名の方から10,609,000円のご寄附をいただき、彫刻プロムナードの魅力回復を一歩進めることができた。
- ・毎月開催する学芸課研究会および来年度の開館40周年記念企画展の準備の段階で、コレクションの検証に努めている。

【課題】

- ・収集方針に則った継続的な収集活動のために購入予 算の確保は切実な課題である。あわせて、少額であっ ても予算額に応じた最善の作品購入ができるよう、 日頃の情報収集がますます重要となる。
- ・コレクションを核とした多様な活動が展開しているが、40周年を契機とした対外的な発信につなげられるようさらに充実を図る。
- ・クラウンドファンディングの取り組みを通して得た 経験やノウハウを共有し、今後に生かす。また、顕 在化した支援者の存在を意識し、美術館に関心を寄 せてくれるファン層の期待に応える活動を展開する ことで、支援体制の強化へとつなげる工夫が必要で ある。
- ・令和6年度の作品修復費用は全額クラウドファンディングの成果を基にしているが、コレクションの適切な保存管理、継承のため、また突発的な事態に対応するためにも通常予算の確保は必要である。
- ・コレクションの重要性を発信し、美術館の役割につ

いて理解を促すための広報面の方策について目配りする。

B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたら すような展覧会を開催します

【成果】

- ・館内空間を縦横に活用して動く彫刻を展示した「テオ・ヤンセン展」、当館の最重要テーマである風景画に正面から取り組んだ「カナレットとヴェネツィアの輝き」展、館長の企画立案により静岡独自の新たな視点で組み上げた「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展、知られざる近代日本画家を顕彰した「石崎光瑤」展と、バラエティに富んだ特色ある企画展4本を開催することができた。これにより、基本理念にうたう「人々が多種多様な美術表現を体験」することに貢献した。
- ・無言館展では県内企業4社から協賛を得て多くの関連イベントを展開することで、リピーターを集め、 観覧者の展覧会への理解を深めた。マスコミ等を介さず美術館が企業と直接コンタクトを取り協賛を得たのは初めてのことである。
- ・ロダン館30周年を記念した小企画展を開催、ロダン やブロンズ彫刻について理解を深める内容で好評を 得た。
- ・作品やテーマに興味を持った人の割合は95.0%と例年よりも高い数値となった。一方で、観覧者数は企画展・収蔵品展で対見込82.5%とややふるわなかった。
- ・調査研究の発表回数は増加傾向にある。特に各学芸員の調査研究を元にした外部への出講・寄稿等が増加していることは、他機関との連携強化と個々の研究および企画力の強化につながり、評価される。

【課題】

- ・テオ・ヤンセン展のターゲット層にはSNSが功を奏 したが、カナレット展や無言館展では効果的な広報 が打てなかった。展覧会の特性に応じた戦略的な広 報展開は当館の慢性的な課題である。
- ・無言館展を通して獲得した協賛企業との協力関係を 発展させるため、継続的な取組みと仕組みのブラッ シュアップが必要である。
- ・調査研究の充実は美術館活動の発展の基盤をなすものであり、今後とも継続して環境整備に努め、充実 を図る。

C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育 と普及活動を展開します

【成果】

- ・学校教育と連携した取り組みは、特別支援学校の利 用も含めて増加した。
- ・学校団体のボランティアスタッフとの鑑賞や、地域 連携・草薙ツアーグループによる展覧会にちなんだ おもてなしなど、ボランティアの活躍する機会が増 えている。制度変更(1年更新制、募集年齢引き下 げ)により組織の柔軟性が増したことで活性化が進 んでいると考えられる。
- ・講座系のプログラムは安定的に開催できている。加 えて、ロダン館でのヨガ体験や芝生園地でのテオ・ ヤンセン展イベント実施、石崎光瑤展での見えない 人と見える人のおしゃべり鑑賞会など、多様なイベ ントを開催した。
- ・無言館展においては、企業協賛金を獲得したことに より、多彩なイベントを実施することができた。
- ・アーツカウンシルしずおか主催の「静岡県の文化へ の投資に関する研究会」に参加し、文化芸術への投 資がもたらした効果を検討した。

(課題)

- ・学校連携の定着が進んでいるが、特別支援学校のた めのプログラム開発と利用促進、遠方地域でも利用 しやすいプログラム提供など、さらなる展開を工夫 する。
- アクセシビリティに関しての意識は徐々に高まって いるが、取り組むべき課題は多くあり、底上げのた めの全体の意識向上の取組みと個別の課題への対応 とを、優先順位をつけつつ計画的に取り組む必要が ある。
- ・ボランティアとの連携で活動の幅が広がっているこ とから、ボランティアへの信頼や期待が高まってい る。この気運を生かしてさらなる連携強化と発展に つなげたい。
- ・クラウンドファンディングの活用により彫刻プロム ナードを整備し、館内空間だけでなく周辺環境も含 めた美術館の魅力強化が進んでいる。評価指標の見 直しが必要な時期となった。

D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発 信に努めます

【成果】

- 「テオ・ヤンセン展」における広報や、クラウドファ ンディングにまつわる情報発信、ミュージアムショッ プのオリジナルグッズの紹介などで、効果的にSNS を活用し、成果を挙げた。
- クラウドファンディングの成果を伝える動画を作成 し、YouTubeで公開した。効果的な広報手段を探る うえでの試金石となった。

【課題】

- ・当館SNSにおいても動画に注目が集まりやすいこと が明らかとなったが、一般的な美術品を展示する展 覧会ではどのようにすれば効果的な動画を制作でき るか、工夫が必要である。
- ・企画展の合間にはSNS投稿の頻度が下がる傾向にあ り、必然的に閲覧者数が減る。年間を通じて途切れ なく情報発信を行うための体制整備が必要である。
- デジタルアーカイブによる情報発信についてはボラ ンティアの協力のもとで進展している部分と、予算 がなく進展が難しい部分とがある。今後とも継続的 な情報発信の強化に向けて人的、予算的な手当を工 夫する必要がある。
- ・観光業界等との連携については今後の強化が課題で ある。

E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。 【成果】

- 展覧会観覧者数は目標に届かなかったものの、館内 施設を利用したイベント開催やレストラン利用者数 の増加により、美術館全体の利用者数は増加した。 前年度からてこ入れを続けてきた情報コーナーにつ いて、改修のうえ自動販売機を設置するなど、展覧 会鑑賞だけではない美術館全体の利用満足度を上げ る取組みも成果を挙げた。
- アクセス上の課題について抜本的な解決は難しいも のの、シェアサイクルステーションの誘致や周辺駐 車場の借用など、様々な対策が功を奏し、アクセス 満足度は比較的安定してきている。
- ・企画展「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」 展への企業協賛、クラウドファンディングによる彫 刻プロムナードの作品修復及び再整備など、運営基 盤強化のための新たな取組みが大きな成果を挙げた。

(課題)

- ・施設の老朽化は深刻な課題であり、中期維持保全計 画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。
- ・ 運営基盤の強化のために、今年度の取組みの分析に 基づく継続的な連携強化、新たな連携関係構築など、 情報収集と積極的な働きかけを今後とも行う必要が ある。

■ 前史

平成13年度より館内にワーキンググループを設け、佐々 木亨氏(北海道大学大学院教授)の助言のもと、ベンチ マークス(評価指標)の策定に取り組み、あわせて利用 者の満足度調査を行った。翌年度は、ベンチマークスの 改訂作業を進めるとともに、利用者アンケート調査等を 行い、指標の現状値を把握したうえで業務改善に取り組

これらの成果を踏まえ、平成15年度には「静岡県立美

術館評価委員会」が設置された。2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に評価委員会による最終報告「提言:評価と経営の確立に向けて」が出された。これを受けて、同年4月よりミュージアム・ナビ(使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール)の運用を始め、平成18年度には、前年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

使命-基本方針-重点目標の達成度を指標(定量的・ 定性的)によって測定して自己点検を行い、業務改善に つなげる仕組みであり、調整を加えながら現在まで継続 して取り組んでいる。

■ 令和6年度の活動

・評価シートにもとづく自己点検評価および外部評価

引き続き、自己評価システムに基づいて自己点検評価を行い、設置者による取組みとあわせて第三者評価員会による評価を受けた。

令和6年度静岡県立美術館第三者評価委員会

8月19日 於 当館講座室

県立美術館の令和5年度自己評価結果について 設置者の取組みについて

令和5年度第三者評価委員会での主な意見と対応状 況について

• 研究活動評価

展覧会および学芸員の調査研究に関する定性的な評価を行うため、研究活動評価委員会を設置しており、利用者アンケートでは把握しきれない学術面での達成について、下記5名の委員から評価を受けた。

(1) 研究活動評価委員

金原宏行【日本画・日本洋画】/名都美術館学芸参与 潮江宏三【西洋絵画・現代美術】/京都市立芸術大学 名誉教授

榊原 悟【日本画】/岡崎市美術博物館・おかざき世 界子ども美術博物館特任館長、群馬県立女 子大学名誉教授

山梨絵美子【日本洋画】/千葉市美術館館長、日本博 物館協会長

栗田秀法【西洋絵画】/跡見学園女子大学教授

(2) 活動記録

①委員会開催 6月18日 於 当館講座室 令和5年度 研究活動評価について 令和6年度 研究活動評価について 今後の研究活動についての意見交換

②「カナレットとヴェネツィアの輝き」展の視察と、 展覧会及び図録に対する評価・提言 8月22日、9 月4日

評価委員:潮江委員、栗田委員

③「無言館と、かつてありし信濃デッサン館―窪島誠 一郎の眼」展の視察と、展覧会及び図録に対する評 価·提言 11月7日、12月3日

評価委員:金原委員、山梨委員

④『静岡県立美術館紀要』第40号掲載論文の評価

評価委員: (南論文) 山梨委員、栗田委員 (川谷論文) 潮江委員、山梨委員

(植松論文) 潮江委員、金原委員

(参考) 静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行っため、静岡県立美術館研究活動評価委員(以下「委員」という。)を置く。

(職務)

- 第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準 により、様式1の業務評価書を作成する。
 - (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
 - (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
 - (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項 (組織)
- 第3条 委員は5名以内とする。
- 2 特別の事項を調査する必要のあるときは、館長は臨 時委員を委嘱することができる。

(委嘱)

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を 有する者の中から館長が委嘱する。

(任期)

- 第5条 委員の任期は2年とする。
- 2 委員は再任することができる。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要 な事項は、館長が別に定める。

附則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

令和6年度 新収蔵品

当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモティーフとした作品

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法(cm)	取得方法	
1	狩野探信守政	野探信守政 雑画貼交屛風 1		絹本着色	①「赤壁図」 径27.5 ②「荘周胡蝶図」 22.3×28.5 ③「諸葛孔明図」 27.4×27.9 ④「楼閣山水図」 径28.0	購入	
2	松林桂月	松竹梅	1934(昭和9)年	紙本淡彩	152.5×156.5	寄贈	
3	平山郁夫	祇園祭	2004 (平成16) 年	紙本着色	80.3×116.7	伊藤恒道氏寄贈	
4	八木幾朗	朝をむかえる富士	2004 (平成16) 年	紙本墨画、金箔	58.0×96.0	八木幾朗氏寄贈	
5	須恵 朋子	神の島より	2019 (平成31) 年	土佐麻紙、岩絵具、 樹脂膠	131.0×162.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
6	栗原忠二	ヴェニスの港	不明	キャンヴァス、油彩	50.2×60.7	鈴木富榮氏寄贈	
7	小山田二郎	狂女	1954(昭和29)年	キャンヴァス、油彩	91.4×73.5	購入	
8	杉戸洋	refrain2	2015 (平成27) 年	キャンヴァス、油彩	45.5×38.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
9	杉戸洋	refrain3	2015 (平成27) 年	キャンヴァス、油彩	33.3×24.2	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
10	杉戸洋	川へはいっちゃいけ ない	2015(平成27)年	キャンヴァス、油彩	50.0×58.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
11	持塚三樹	Vonto	2009 (平成21) 年	キャンヴァス、アク リル	130.5×97.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
12	持塚三樹	LILL	2010 (平成22) 年	キャンヴァス、アク リル、顔料、油彩	65.5×80.5	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
13	持塚三樹	Dusk approaches	2012 (平成24) 年	キャンヴァス、油彩	218.5×333.5	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
14	石川欽一郎	ロンドン	1922(大正11)年頃	紙、水彩	25.5×36.5	橋本ひろ氏寄贈	
15	飯田昭二	タイトル不詳(平面 にて)	1990(平成2)年	和紙、水彩	89.4×89.7	小長井良浩氏寄贈	
16	飯田昭二	時空変位	1991 (平成3) 年	パネル、和紙、墨	182.0×90.2	小長井良浩氏寄贈	
17	持塚三樹	Untitled	2007 (平成19) 年	紙、インク	24.0×95.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
18	ケル=グザヴィエ・ ルーセル	サン=トロペの海景	1903-1906年頃	紙、インク	13.9×31.6	株式会社美術著作権 センター寄贈	
19	鈴木慶則	『フェニックス2号』 より〈国連よ永遠なれ〉原画	1961(昭和36)年	紙、インク、水彩	45.2×34.6	寄贈	
20	イケムラレイコ	u mi no ko	2006 (平成18) 年	紙、色鉛筆(22点)	各45.8×37.8	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈	
21	池田満寿夫	月の祭	1961 (昭和36) 年	紙、エッチング、ド ライポイント	17.5×18.3 [32.5×2 5.0]	佐藤陽子氏寄贈	
22	池田満寿夫	大きな女	1961(昭和36)年	紙、ドライポイント	24.0×25.5 [28.0×3 7.5]	佐藤陽子氏寄贈	

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	取得方法
23	池田満寿夫	女王	1961(昭和36)年	紙、ドライポイント、 ルーレット	24.8×24.0 [38.0×2 5.5]	佐藤陽子氏寄贈
24	池田満寿夫	自画像	1964(昭和39)年	紙、ドライポイント	18.0×19.5 [32.5×2 5.0]	佐藤陽子氏寄贈
25	池田満寿夫	窓からの眺め A	1966(昭和41)年	紙、リトグラフ	53.0×73.6	佐藤陽子氏寄贈
26	池田満寿夫	バラ模様の寝台	1967 (昭和42) 年	紙、リトグラフ	24.5×21.8	佐藤陽子氏寄贈
27	池田満寿夫	靴の裏側	1968(昭和43)年	紙、リトグラフ	57.5×46.0	佐藤陽子氏寄贈
28	池田満寿夫	青空	1968(昭和43)年	紙、リトグラフ	56.5×76.3	佐藤陽子氏寄贈
29	池田満寿夫	一日の1/4	1968 (昭和43) 年	紙、リトグラフ	57.5×46.0	佐藤陽子氏寄贈
30	池田満寿夫	マーガレットの庭	1970(昭和45)年	紙、リトグラフ	56.0×55.5	佐藤陽子氏寄贈
31	池田満寿夫	朝	1989(平成元)年	紙、リトグラフ	65.2×50.2 [76.0×5 6.5]	佐藤陽子氏寄贈
32	池田満寿夫	昼	1989(平成元)年	紙、リトグラフ	65.2×50.2 [76.0×5 6.5]	佐藤陽子氏寄贈
33	鈴木慶則	鳥	1963 (昭和38) 年	紙、リトグラフ、水 彩	54.3×38.3	寄贈
34	赤瀬川原平	『漫画主義』 No.6 ポスター/QUA	1969 (昭和44) 年	紙、シルクスクリー ン	55.2×39.8	寄贈
35	木村秀樹	Pencil 2-15	1974(昭和49)年	紙、シルクスクリー ン	76.5×106.7	潮江宏三氏寄贈
36	木村秀樹	Work 2-20-30	1978 (昭和53) 年	紙、シルクスクリー ン	54.0×75.2	潮江宏三氏寄贈
37	長船恒利	在るもの	1978—1986 (昭和53— 61) 年	ゼラチン・シルヴァー・ プリント(23点)	各c.38.0×47.0 [40. 5×50.3]	長舩知行氏寄贈
38	松江泰治	JP-22 11	2005 (平成17) 年	Cプリント	100.1×119.6	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
39	松江泰治	JP-22 12	2005 (平成17) 年	Cプリント	100.1×119.6	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
40	松江泰治	ALPS18442	2012 (平成24) 年	ラムダプリント	95.6×127.4	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
41	松江泰治	ALPS18443	2012 (平成24) 年	ラムダプリント	95.6×127.4	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
42	松江泰治	ALPS18444	2012 (平成24) 年	ラムダプリント	95.6×127.4	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
43	松江泰治	ALPS18445	2012 (平成24) 年	ラムダプリント	95.6×127.4	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
44	松江泰治	MCT17451	2012 (平成24) 年	ラムダプリント	133.0×160.7	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
45	野口里佳	ロケットの丘 (#5)	2001(平成13)年	デジタルCプリント	149.5×119.5	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
46	野口里佳	untitled (Mbaraba)	2006 (平成18) 年	Cプリント	121.7×193.5×6.5	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
47	木村友紀	724 &138-11	2010(平成22)年	ラムダプリント、ア ルポリック(2 点組)	各60.0×80.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
48	川内倫子	イケムラレイコポー トレイト	2014 (平成26) 年	Cプリント	102.0×102.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
49	川内倫子	Untitled	2014 (平成26) 年	Cプリント	101.6×101.6	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
50	川内倫子	Untitled	2014 (平成26) 年	Cプリント	101.6×101.6	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法(cm)	取得方法
51	川内倫子	Untitled	2021(令和3)年	ラムダプリント	103.0×70.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
52	長島有里枝	祖母の花の写真のイ ンスタレーションショッ ト No.1〈SWISS〉 より	2007(平成19)年	Cプリント	41.2×27.5	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
53	長島有里枝	祖母の花の写真とコ ンセントのインスタ レーションショット 〈SWISS〉より	2007 (平成19) 年	Cプリント	41.2×27.5	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
54	長島有里枝	リヒターの少女と野 生の花 〈SWISS〉より	2007 (平成19) 年	Cプリント	47.0×70.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
55	長島有里枝	無題2〈SWISS〉よ り	2007 (平成19) 年	Cプリント	70.0×47.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
56	長島有里枝	三色のコスモス 〈SWISS〉より	2007 (平成19) 年	Cプリント	70.0×47.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
57	長島有里枝	黄色い野生の花 〈SWISS〉より	2007 (平成19) 年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
58	長島有里枝	実を付けた野生植物 〈SWISS〉より	2007 (平成19) 年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
59	長島有里枝	裏庭のあじさい 〈SWISS〉より	2007 (平成19) 年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
60	長島有里枝	バラ・ザ・フェアリー	2012(平成24)年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
61	長島有里枝	ヘレボニス・ニゲル	2012(平成24)年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
62	長島有里枝	クローバー・ティン ト・ワイン	2012(平成24)年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
63	長島有里枝	ヘレボルス・ヒブリ ドゥス	2012(平成24)年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
64	長島有里枝	ヘラクレイフォリア 系クレマチス	2012(平成24)年	Cプリント	129.0×86.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
65	戸谷成雄	天気輪	2009(平成21)年	木、灰、アクリル	$62.0 \times 62.0 \times 13.5$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
66	イケムラレイコ	「うさぎ観音」のマ ケット(1)	2012-2014(平成24- 26)年	テラコッタ、釉薬	$30.5 \times 16.5 \times 15.3$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
67	イケムラレイコ	「うさぎ観音」のマ ケット(2)	2012-2014(平成24- 26)年	テラコッタ、釉薬	$13.8 \times 9.5 \times 9.5$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
68	イケムラレイコ	「うさぎ観音」のマ ケット(3)	2012-2014(平成24- 26)年	テラコッタ、釉薬	$34.5 \times 21.0 \times 20.3$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
69	棚田康司	蕾の少年	2007 (平成19) 年	木、彩色	$161.0 \times 34.0 \times 40.0$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
70	北川太郎	手の考える世界	2011-2021(平成23- 令和3)年	石 (3点)	$\begin{array}{ccc} (1) & 27.5 \times 15.5 \times 1 \\ 0.8 & (2) & 11.0 \times \\ 16.0 \times 19.2 & (3) \\ 13.4 \times 25.1 \times 23.2 \end{array}$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
71	竹川宣彰	白い薔薇	2014 (平成26) 年	木、彩色、鉄	$163.0 \times 45.0 \times 60.0$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
72	八木幾朗	グダンスク	1982(昭和57)年	墨、岩絵具、水干、 麻紙、雁皮紙	116.7×90.0	増田一郎氏寄贈
73	笹口 数	white night	2007 (平成19) 年	キャンヴァス 、 アク リル	$79.0 \times 200.0 \times 8.0$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法(cm)	取得方法
74	廣瀬智央	いちどためしてごら ん	2020(令和2)年	大理石、毛糸、発砲 スチロール	サイズ可変	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
75	廣瀬智央	無題(五芒星)	2021(令和3)年	石、毛糸	30.0×340.0×420.0 (展示した状態)	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
76	木村友紀	無題	2010 (平成22) 年	ラムダプリント 、 ア ルポリック	120.0×176.0×28.0 (附属品として 台 105×40×39.9 cm、 セラミック製の鉢 2 6×直径 25 cm)	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
77	竹村 京	修復されたC.M.の 1916年の睡蓮	2023?24(令和 5 - 6) 年	釜糸、絹オーガンジー、 実寸大高精細複製画	展示サイズ可変	牧寛之氏寄贈
78	竹崎和征	三島	2010 (平成22) 年	木、紙、アクリル、 色鉛筆	244.2×301.3	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
79	竹川宣彰	セミ	2006 (平成18) 年	FRP、スピーカー、 アンプ、CDほか	$77.0 \times 47.0 \times 20.0$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
80	金氏徹平	海と膿(流木 #3)	2005 (平成17) 年	木、プラスチック、 木工ボンド、紙	66.0×61.0×62.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
81	エレナ・トウタッチ コワ	手のひらの木	2022(令和4)年	セラミック(6点)	$\begin{array}{c} (1)13.7\times 9.4\times 1.5\\ (2)14.0\times 9.8\times 1.2\\ (3)13.8\times 9.9\times 1.2\\ (4)14.9\times 10.0\times 1.5\\ (5)13.7\times 9.7\times 1.5\\ (6)13.5\times 9.8\times 1.3\\ \end{array}$	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
82	森村泰昌	なにものかへのレク イエム(独裁者を笑 え スキゾフレニッ ク)	2007 (平成19) 年	映像(デジタルデー タ)	10分27秒	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
83	松江泰治	ALPS112693	2012(平成24)年	映像(デジタルデー タ)	29分37秒	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
84	松江泰治	LESOTHO 123355	2013 (平成25) 年	映像(デジタルデー タ)	27分01秒	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
85	松江泰治	LESOTHO 123426	2013 (平成25) 年	映像(デジタルデー タ)	27分53秒	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
86	横溝静	永遠に、そしてふた たび	2013 (平成25) 年	映像(デジタルデー タ)	16分41秒	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
87	横溝静	PRAYER	2007 (平成19) 年	映像(デジタルデー タ)	13分19秒	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
88	志村信裕	jewel	2009 (平成21) 年	映像(デジタルデー タ)	6分	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
89	志村信裕	pool	2009 (平成21) 年	映像(デジタルデー タ)	6分	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
90	志村信裕	bucket garden	2012 (平成24) 年	映像(デジタルデー タ)	8 分29秒	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
91	エレナ・トウタッチ コワ	歩き、歩き、歩き、 走り、立ち止まり、 飛ぶ	2022(令和4)年	映像(デジタルデー タ)	7 分40秒	エレナ・トゥタッチ コワ氏寄贈
92	華雪	木	2017 (平成29) 年	煤、膠、和紙	大500.0×100.0 小300.0×100.0	ヴァンジ彫刻庭園美 術館寄贈
資料	4					
93	大西清澄	濤の塔マケット	1985(昭和60)年	ステンレス	$70.5 \times 35.2 \times 35.2$	分類替え
94	池田満寿夫	天使の靴(レイエ版)	1963(昭和38)年/ 1981(昭和56)年	紙、ドライポイント、 ルーレット	36.5×33.8 [56.8×3 8.0]	佐藤陽子氏寄贈
95	池田満寿夫	サイズはサイズ(レ イエ版)	1963(昭和38)年/ 1981(昭和56)年	紙、ドライポイント、 ルーレット	36.5×33.6 [57.0×3 8.0]	佐藤陽子氏寄贈

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法(cm)	取得方法
96	池田満寿夫	化粧する女(レイエ 版)	1963(昭和38)年/ 1981(昭和56)年	紙、ドライポイント、 ルーレット、エッチ ング	36.2×33.5 [56.5×3 8.0]	佐藤陽子氏寄贈
97	池田満寿夫	夏1 (レイエ版)	1964(昭和39)年/ 1981(昭和56)年	紙、ルーレット、エッ チング	40.0×36.5 [63.2×4 4.5]	佐藤陽子氏寄贈
98	池田満寿夫	楽園に死す(レイエ 版)	1965(昭和40)年/ 1981(昭和56)年	紙、ドライポイント、 ルーレット、エッチ ング	39.6×36.2 [66.0×4 4.0]	佐藤陽子氏寄贈
99	池田満寿夫	姉妹たち(レイエ版)	1965(昭和40)年	紙、ドライポイント、 ルーレット、エッチ ング	36.2×34.0 [57.0×3 8.5]	佐藤陽子氏寄贈
100	池田満寿夫	夏の夢(レイエ版)	1966(昭和41)年	紙、ドライポイント、 ルーレット、ビュラ ン	46.0×40.5 [68.0×5 4.0]	佐藤陽子氏寄贈
101	池田満寿夫	バラはバラ(レイエ 版)	1966(昭和41)年	紙、ドライポイント、 ルーレット、ビュラ ン	45.5×40.5 [68.5×5 4.0]	佐藤陽子氏寄贈
102	池田満寿夫	スプリング・アンド・ スプリングス(レイ エ版)	1966(昭和41)年	紙、ドライポイント、 ルーレット	40.5×46.0 [54.0×6 9.5]	佐藤陽子氏寄贈
103	池田満寿夫	青い椅子 (レイエ版)	1966(昭和41)年	紙、ドライポイント、 ルーレット、ビュラ ン	46.0×40.5 [68.5×5 4.5]	佐藤陽子氏寄贈
104		小山田二郎・チカエ 夫妻から木村泰典 (石子順造) に宛て た年賀状	1957(昭和32)年	官製はがき		寄贈

■収集品点数一覧(令和6年度末現在)

購入作品数 (百万円)

左帝		計画に正	-L.W.II	丰卅	ист.	⇒	田之去山	-T	万士	7. 0 hls	合	計
年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	点数	金額
昭和55					50	5	0				5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
平成元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	
22	1	1			1						3	12
23	1				_						1	5
24	1	1			1						2	5
25		-			-						0	0
26	1										1	16
27	1										0	0
28					2						2	3
29		1			1						2	C
30	1	1			2						4	10
令和元	1	2			4						3	10
2	4	4									4	10
3	2	1			2						5	
	2	1			2							10
4											0	0
5		2									2	1
6	1	1		1.0	1 001						2	1
合点数計金額	132	129	32	12	1,021	7	75	1	46	20	1,475	
計金額	1,721	2,843	311	68	371	80	2,811	3	8	142		8,358

寄贈作品数

可用门				-							
年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
昭和55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
平成元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5											0
6					1						1
7											0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3		1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2				13				2		14
26	4				24		3			2	41
27	T	1			2						3
28	6				23		1			4	38
29	0	1			20		1		5	1	7
30	3								0	3	7
令和元	3	1			10					5	16
2		2			10					1	3
3		3	1		4					1	9
4	2		3	13	38					7	76
5	1	12	3	13	58 5					(18
6	4	7	4	3	16	1	7		28	32	102
	228		27			341		8	46		
計	228	164	27	109	403	341	21	8	46	111	1,458

収蔵品展

第7展示室において当館の収蔵品・寄託品による収蔵 品展を開催し、下記4つのテーマ立てにより計136点の作 品を展示した。

無料でご観覧いただける本館1階エントランスの名品 コーナーにおいても、常時3点の作品を展示し、多くの 方に鑑賞いただいた。

ウェブ上での視認性の向上を目的として、2023年度 「新収蔵品展」まで行ってきたウェブチラシの作成をやめ、 ウェブ用のバナー、アイコンを統一的なデザインで制作 する方針を今後も継続する。

■収蔵品展スケジュール

4月10日(水)~7月7日(日) 新収蔵品展



7月18日 (木) ~10月6日 (日) カナレットとヴェネツィアの輝き展関連展示 ピラネージとローマの景観



2025年1月4日(土)~2月16日(日) 石崎光瑤展関連展示 第1部 異国への眼差し



2月18日(火)~4月6日(日) 石崎光瑤展関連展示 第2部 絢爛たる花鳥画



※ロダン館開館30周年記念「《地獄の門》ができるまで: 素描、試作から完成へ」(10月9日(水)~12月15日 (日)) は17頁に掲載。

■デザイン

上記収蔵品展のウェブ用バナー、アイコン、出入口看板 のデザイン:齋藤智仁 (summit)

ロダン館開館30周年記念 《地獄の門》ができるまで:素描、試作から完成へ

■主催:静岡県立美術館

■会期: 令和 6 年10月 9 日 (水) ~12月15日 (日)

■概要

当館のロダン館開館30周年を記念した企画展。ロダン 館中央に設置された《地獄の門》は、フランス政府が当 時40歳の彫刻家オーギュスト・ロダン(1840-1917年) に発注した作品である。以来、作者が30年以上の後半生 をかけて制作したこの彫刻作品は、スケールの大きさ、 長い構想期間、数多くの逸話を残す点で、ロダンの人生 と制作活動を象徴する代表作と言える。またここから、 素描、複数のマケット、「門」から独立した数多くの彫刻 など、多岐にわたる関連作が生まれた。本展は、下記の 8つのテーマのもと、《地獄の門》という巨大な彫刻作 品ができるまで、どのように変化し、発展したのかを、 様々な関連作や資料によって紹介し、作者のアイデアや 制作のプロセスに迫った展覧会である。最後の展示コー ナーでは、ロダンと交流のあったモネらの油彩画ととも に、ロダンを描いた肖像画も併せて展示し、彫刻以外の 同時代の芸術潮流の一端を紹介した。

- ・「門」の依頼―『神曲』とロダン
- ・最初の構想①--「門」の枠組み
- ・最初の構想②-《第三試作》:「考える人」の登場
- 最初の構想③—『神曲』を描く
- 「門」の変化と拡大
- ・ 《地獄の門》の公開一二つの石膏
- ・ 「門」から独立した作品の拡散
- ・ 同時代の芸術家たちとの交流

ロダン館へと一直線に通じる本館第7展示室を会場と して用いることで、本展とロダン館を併せて鑑賞いただ き、ロダン作品およびブロンズ彫刻への理解を一層深め る一助ともなったと考えられる。

■関連事業

・「ロダン館で、レッツ・ヨガ! |

日時:11月2日(土)11:00~12:15

場所:ロダン館

講師:アラサ氏(焼津市ダンス・ヨガ教室STUDIO

BREATHE主宰)

・学芸員によるフロアレクチャー

日時:10月14日(月·祝)14:00~14:50、 27日 (日) 11:00~11:50、

11月23日 (土・祝) 14:00~14:50

場所:本館第7展示室、ロダン館

■鑑賞ガイド

本展とロダン館の《地獄の門》および《地獄の門》関 連彫刻作品とを併せて鑑賞し、ロダンのブロンズ彫刻に ついて知るための簡略なパンフレットを制作した(A3 両面)。本展出品目録のほか、本展出品作およびロダン館 に展示した《地獄の門》における位置図、そしてロダン のブロンズ作品について、分かりやすく解説した。

■出品目録

pp.100-101参照 会期中、一部展示替えを行った。





▲チラシ

移動美術展 「リレーション 奥中章人/堀園実 二人展」

主 **催**:静岡県立美術館、島田市 主 **管**:株式会社まちづくり島田

協 力:NPO法人クロスメディアしまだ

会 場:島田市金谷生きがいセンター 夢づくり会館

ホール

会 期: 令和 6 年 9 月 14日 (土) ~ 9 月 29日 (日)

休 館 日: 9月17日 (火)、9月24日 (火)

開場時間:10:00~17:00

■概要

静岡県立美術館では、県内遠方の地域においても当館のコレクションを鑑賞していただく機会を提供するため、移動美術展をほぼ毎年開催してきた。しかし、今年度は通例のコレクション展示ではなく、特別版として奥中章人と堀園実の2名の現代アーティストに出品を依頼し、展覧会を開催した。会場については、比較的地域の近い2施設からの応募のみであったため、1会場での実施とした。

本展はリレーション(関係)をテーマとし、体験型の作品や地域に取材した新作を展示した。また、「UNMANNED 無人駅の芸術祭」を開催しているNPO法人クロスメディアしまだや島田市と連携して事業を展開することで、充実した内容とすることができた。

■関連事業

• ライフマスクワークショップ

日時: 9月15日(日)10:00~15:00 講師:堀園実氏(美術家)、形狩りの衆

・ 奥中章人による鑑賞ツアー

日時: 9月29日(日)11:00~11:30、14:00~14:30

講師: 奥中章人氏(美術家)

・ちょこっと体験講座「シルクスクリーン」 日時: 9月23日(月・振休)12:00~15:00

・静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー 日時: 9月21日(土)11:00~11:30、14:00~14:30

■連携事業

・クロスメディアしまだ連携企画 スペシャルトーク 「現代アートに触れよう」

日時: 9月14日(土)13:30~15:00

登壇:大石歩真・兒玉絵美 (無人駅の芸術祭総合ディレクター)、植松篤 (当館上席学芸員)

・プチ展示 Replay: UNMANNED無人駅の芸術祭

・島田市プレゼンツ 親子でいっしょに「ワイヤーアート」を作ろう

日時: 9月28日(土)14:00~

講師:みかんのぺんき (ワイヤーアーティスト)

■出品目録

p.102参照



▲チラシ

図書資料の収集・整理

■収集

令和6年度の新たな受入により、当館蔵書は107.357冊 となった。その累計内訳は、刊行図書 47,429冊、美術 雑誌24,964冊、美術館等刊行物34,964冊である。

■分類・整理

令和6年度に行った作業は、以下のとおりである。

①図書・定期刊行物の受入 収集図書および定期刊行物を分類表に則って分類し た後、データベースに入力、配架した。

②図書目録の公開

令和3年度以降、図書目録をデジタルアーカイブへ 移行し、校正を加えたのちインターネットで公開して いる。データの校正が完了していない逐次刊行物につ いては、未公開となっている。

③書庫整理

美術館の展覧会図録の収蔵スペースが不足している ことから、同一タイトルで複数冊収蔵されている図録 については、2冊目以降を地方ごと、美術館ごとに箱 詰め・ラベリングをして図書閲覧室の空いたスペース に保管することとした。会計年度任用職員とボランティ アの尽力により、7割ほど作業を終えることができた。

④企画展ごとに関連する図書を閉架書庫より選択し、閲 覧室に展示、閲覧可能とした。

閲覧

当館には、来館者の図書利用のための閲覧室があり、 1,800冊以上の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を 配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当 館ボランティアが行っている。閲覧室のパソコンから収 蔵図書の検索が可能となっており、利用者は、閲覧希望 図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入し て受付に提示すれば、閉架図書も閲覧することができる。 これまでは、「桐」(データベース作成ソフト)をオフライ ンで検索していただいていたが、令和6年度末に検索用 の端末を更新して、インターネットを介して最新のアー カイブを検索いただけるようにした。未公開の逐次刊行 物については、主要なタイトルをリスト可して配置し、 閲覧できるようにしている。

館蔵品等の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
1	石田徹也	(無題1)	Louisiana Museum of Modern Art(ルイジアナ 近代美術館)	The Irreplaceable Human (かけがえのない人間)	2023/11/23- 2024/4/1	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近 代美術館)	2023/11/10- 2024/4/15
2	石田徹也	(無題2)	Louisiana Museum of Modern Art(ルイジアナ 近代美術館)	The Irreplaceable Human (かけがえのない人間)	2023/11/23- 2024/4/1	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近 代美術館)	2023/11/10- 2024/4/15
3	石田徹也	めばえ	Louisiana Museum of Modern Art(ルイジアナ 近代美術館)	The Irreplaceable Human (かけがえのない人間)	2023/11/23- 2024/4/1	Louisiana Museum of Modern Art (ルイジアナ近 代美術館)	2023/11/10- 2024/4/15
4	オーギュスト・ ロダン	パオロとフランチェ スカ	神奈川県立近代美術館 葉山	芥川龍之介と美の世界 二人の先達―夏目漱 石、菅虎雄	2024/2/10- 2024/4/7	神奈川県立近 代美術館 葉 山	2023/10/18- 2024/4/17
5	鈴木慶則	非在のタブロー(キ リコによる)	一般財団法人清水港湾博物 館	水の絵― 「幻触」と 「幻触」以降の鈴木慶 則―	2024/ 2 /23- 2024/ 5 /12	一般財団法人 清水港湾博物 館	2024/ 2 /13- 2024/ 5 /22
6	鈴木慶則	〈内乱のきざし〉の 相貌をおびた非在の タブロー	一般財団法人清水港湾博物 館	水の絵― 「幻触」と 「幻触」以降の鈴木慶 則―	2024/ 2 /23- 2024/ 5 /12	一般財団法人 清水港湾博物 館	2024/ 2 /13- 2024/ 5 /22
7	鈴木慶則	非在のタブロー 梱 包されたオダリスク	一般財団法人清水港湾博物 館	水の絵―「幻触」と 「幻触」以降の鈴木慶 則―	2024/2/23- 2024/5/12	一般財団法人 清水港湾博物 館	2024/ 2 /13- 2024/ 5 /22
8	カール・アン ドレ	鉛と亜鉛のスクエア	DIC川村記念美術館	カール・アンドレ 彫刻 と詩、その間展	2024/3/9- 2024/6/30	DIC川村記念 美術館	2024/1/4- 2024/7/10
9	福田平八郎	雪庭	大阪中之島美術館	没後50年 福田平八郎 展	2024/3/9- 2024/5/6	大阪中之島美 術館	2024/2/29- 2024/7/25
10	岡鹿之助	観測所	東京ステーションギャラリー、 栃木県立美術館、碧南市藤 井達吉現代美術館、長野県 立美術館	春陽会誕生100年 それ ぞれの闘い 岸田劉生、 中川一政から岡鹿之助 へ	2024/3/16- 2024/5/12	長野県立美術 館	2023/9/6- 2024/7/17
11	狩野探幽	竹林七賢·香山九 老図屛風	京都国立博物館	雪舟伝説―「画聖」の 誕生―	2024/4/13- 2024/5/26	京都国立博物 館平成知新館	2024/4/3- 2024/6/5
12	狩野尚信	西湖図屛風	京都国立博物館	雪舟伝説―「画聖」の 誕生―	2024/4/13- 2024/5/26	京都国立博物 館平成知新館	2024/4/3- 2024/6/5
13	狩野安信	猿曳き・酔舞図屏 風	京都国立博物館	雪舟伝説―「画聖」の 誕生―	2024/4/13- 2024/5/26	京都国立博物 館平成知新館	2024/4/3- 2024/6/5
14	原在中	富士三保松原図	京都国立博物館	雪舟伝説―「画聖」の 誕生―	2024/4/13- 2024/5/26	京都国立博物 館平成知新館	2024/4/3- 2024/6/5
15	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	京都国立博物館	雪舟伝説―「画聖」の 誕生―	2024/4/13- 2024/5/26	京都国立博物 館平成知新館	2024/4/3- 2024/6/5
16	狩野永岳	富士三保松原図	京都国立博物館	雪舟伝説―「画聖」の 誕生―	2024/4/13- 2024/5/26	京都国立博物 館平成知新館	2024/4/3- 2024/6/5
17	狩野芳崖	寿老人図	京都国立博物館	雪舟伝説―「画聖」の 誕生―	2024/4/13- 2024/5/26	京都国立博物 館平成知新館	2024/4/3- 2024/6/5
18	曽宮一念	自画像	浜松市美術館	浜松ゆかりの洋画展― 岸田劉生・北蓮蔵・曾 宮―念と浜松の文化人―	2024/4/13- 2024/6/2	浜松市美術館	2024/4/3- 2024/6/12
19	曽宮一念	種子静物	浜松市美術館	浜松ゆかりの洋画展― 岸田劉生・北蓮蔵・曾 宮―念と浜松の文化人―	2024/4/13- 2024/6/2	浜松市美術館	2024/4/3- 2024/6/12

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
20	曽宮一念	スペインの野	浜松市美術館	浜松ゆかりの洋画展― 岸田劉生・北蓮蔵・曾 宮―念と浜松の文化人―	2024/4/13- 2024/6/2	浜松市美術館	2024/4/3- 2024/6/12
21	曽宮一念	毛無連峯	浜松市美術館	浜松ゆかりの洋画展― 岸田劉生・北蓮蔵・曾 宮―念と浜松の文化人―	2024/4/13- 2024/6/2	浜松市美術館	2024/4/3- 2024/6/12
22	鶴田吾郎	余の見たる曽宮君	浜松市美術館	浜松ゆかりの洋画展― 岸田劉生・北蓮蔵・曾 宮―念と浜松の文化人―	2024/4/13- 2024/6/2	浜松市美術館	2024/4/3- 2024/6/12
23	横山大観	群青富士	福井県立美術館	2024年 北陸新幹線福 井・敦賀開業記念 横 山大観展	2024/4/26- 2024/6/2	福井県立美術 館	2024/4/5- 2024/6/21
24	横山大観• 下村観山	日•月蓬莱山図	福井県立美術館	2024年 北陸新幹線福 井・敦賀開業記念 横 山大観展	2024/4/26- 2024/6/2	福井県立美術 館	2024/4/5- 2024/6/21
25	石田徹也	燃料補給のような食 事	徳島県立近代美術館	ユーモア―おかしみの表 現に潜むもの―	2024/4/27- 2024/6/30	徳島県立近代 美術館	2024/4/8- 2024/7/14
26	福田平八郎	雪庭	大分県立美術館	没後50年 福田平八郎 展	2024/5/18- 2024/7/15	大分県立美術 館	2024/2/29- 2024/7/25
27	岡鹿之助	観測所	東京ステーションギャラリー、 栃木県立美術館、碧南市藤 井達吉現代美術館、長野県 立美術館	春陽会誕生100年 それ ぞれの闘い 岸田劉生、 中川一政から岡鹿之助 へ	2024/5/25- 2024/7/7	碧南市藤井達 吉現代美術館	2023/9/6- 2024/7/17
28	木下佳通代	無題(17点組)	大阪中之島美術館	没後30年 木下佳通代 展	2024/5/25- 2024/8/18	大阪中之島美 術館	2024/5/15- 2025/1/23
29	木下佳通代	無題(14点組)	大阪中之島美術館	没後30年 木下佳通代 展	2024/5/25- 2024/8/18	大阪中之島美 術館	2024/5/15- 2025/1/23
30	北川民次	タスコの祭	名古屋市美術館、世田谷美 術館、郡山市立美術館	生誕130年記念 北川 民次一メキシコから日 本へ	2024/6/29- 2024/9/8	名古屋市美術 館	2024/6/19- 2025/4/2
31	北川民次	雑草の如くⅢ (裸 婦)	名古屋市美術館、世田谷美 術館、郡山市立美術館	生誕130年記念 北川 民次一メキシコから日 本へ	2024/6/29- 2024/9/8	名古屋市美術 館	2024/6/19- 2025/4/2
32	北川民次	古風な教育家	名古屋市美術館	生誕130年記念 北川 民次一メキシコから日 本へ	2024/6/29- 2024/9/8	名古屋市美術 館	2024/6/19- 2024/9/18
33	作者不詳	今川氏真朱印状	静岡県富士山世界遺産セン ター	富士山信仰の拠点とな る湧水一湧玉池が育む 豊かな生態系	2024/7/13- 2024/9/8	静岡県富士山 世界遺産セン ター	2024/7/3- 2024/9/18
34	ジョヴァンニ・ アントニオ・ カナル(通称 カナレット)	ドーロ風景	静岡県立美術館、SOMPO 美術館、京都文化博物館、 山口県立美術館、毎日新聞 社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2024/7/27- 2024/9/29	静岡県立美術 館	2024/7/17- 2025/7/1
35	ジョヴァンニ・ アントニオ・ カナル(通称 カナレット)	ランタンのあるポル ティコ	静岡県立美術館、SOMPO 美術館、京都文化博物館、 山口県立美術館、毎日新聞 社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2024/7/27- 2024/9/29	静岡県立美術 館	2024/7/17- 2025/7/1
36	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ティエポロ	カプリッチ : 腰を降 ろし壷に肘をつく若 者	静岡県立美術館、SOMPO 美術館、京都文化博物館、 山口県立美術館、毎日新聞 社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2024/7/27- 2024/9/29	静岡県立美術 館	2024/7/17- 2025/7/1
37	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ティエポロ	カプリッチ : 3人の 兵士と寝そべる少年	静岡県立美術館、SOMPO 美術館、京都文化博物館、 山口県立美術館、毎日新聞 社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2024/7/27- 2024/9/29	静岡県立美術 館	2024/7/17- 2025/7/1
38	ポール・ゴー ギャン	家畜番の少女	新潟県立近代美術館、久留 米市立美術館	日本が見たドニ ドニ の見た日本	2024/8/27- 2024/10/20	新潟県立近代 美術館	2024/ 8 /17- 2025/ 1 /23
39	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	新潟県立近代美術館、久留 米市立美術館	日本が見たドニ ドニ の見た日本	2024/8/27- 2024/10/20	新潟県立近代 美術館	2024/ 8 /17- 2025/ 1 /23
40	栗原忠二	洋上の日の出	渋谷区松濤美術館	空の発見	2024/9/14- 2024/11/10	渋谷区松濤美 術館	2024/9/4- 2024/11/20
41	浅井忠	雲	渋谷区松濤美術館	空の発見	2024/9/14- 2024/11/10	渋谷区松濤美 術館	2024/9/4- 2024/11/20
					/ **/ **		,,

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
42	武内鶴之助	英国風景	渋谷区松濤美術館	空の発見	2024/9/14- 2024/11/10	渋谷区松濤美 術館	2024/9/4- 2024/11/20
43	曽宮一念	毛無連峯	渋谷区松濤美術館	空の発見	2024/9/14- 2024/11/10	渋谷区松濤美 術館	2024/9/4- 2024/11/20
44	柏木俊一	道	渋谷区松濤美術館	空の発見	2024/9/14- 2024/11/10	渋谷区松濤美 術館	2024/9/4- 2024/11/20
45	中村岳陵	残照	渋谷区松濤美術館	空の発見	2024/9/14- 2024/11/10	渋谷区松濤美 術館	2024/9/4- 2024/11/20
46	中川一政	風景(池袋の麦畑)	尾道市立美術館	坂道を歩く 小林和作 と中川一政 (小林和作 没後50年)	2024/9/14- 2024/11/10	尾道市立美術 館	2024/9/4- 2024/11/20
47	円山応挙	竹雀図屛風	福井県立美術館	生誕150年記念 菱田 春草展 不朽の名作 《落葉》誕生秘話	2024/9/15- 2024/11/4	福井県立美術 館	2024/9/5- 2024/10/25
48	平山郁夫	黄河(宵)	平山郁夫美術館	蜀•四川•中国展	2024/9/21- 2024/11/24	平山郁夫美術 館	2024/9/11- 2024/12/04
49	北川民次	タスコの祭	世田谷美術館	生誕130年記念 北川 民次―メキシコから日 本へ	2024/9/21- 2024/11/17	世田谷美術館	2024/6/19- 2025/4/2
50	北川民次	雑草の如くⅢ (裸 婦)	名古屋市美術館、世田谷美 術館、郡山市立美術館	生誕130年記念 北川 民次―メキシコから日 本へ	2024/9/21- 2024/11/17	世田谷美術館	2024/6/19- 2025/4/2
51	野島青茲	博物館	東京国立近代美術館	ハニワと土偶の近代	2024/10/1 - 2024/12/22	東京国立近代 美術館	2024/9/22- 2025/1/10
52	鳥海青児	はにわ	東京国立近代美術館	ハニワと土偶の近代	2024/10/1 - 2024/12/22	東京国立近代 美術館	2024/9/22- 2025/1/10
53	小林清親	川中島合戦図屏風	東京富士美術館	サムライ・アート	2024/10/12- 2024/12/22	東京富士美術 館	2024/9/24- 2025/1/10
54	ポール・シ ニャック	サン=トロペ 、 グリ モーの古城	豊田市美術館	しないでおく、こと。一 芸術と生のアナキズム	2024/10/12- 2025/2/16	豊田市美術館	2024/10/ 2- 2025/ 2 /26
55	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ティエポロ	カプリッチ : 兵士と 二人の女	静岡県立美術館、SOMPO美術館、京都文化博物館、山口県立美術館、毎日新聞社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2024/10/12- 2024/12/28	SOMPO美術 館	2024/7/17- 2025/7/1
56	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ティエポロ	カプリッチ : 壷に手 をのせた女	静岡県立美術館、SOMPO美術館、京都文化博物館、山口県立美術館、毎日新聞社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2024/10/12- 2024/12/28	SOMPO美術 館	2024/7/17- 2025/7/1
57	ジョヴァンニ・ バッティスタ・ ティエポロ	カプリッチ : ニンフ と小さなサテュロス	静岡県立美術館、SOMPO美術館、京都文化博物館、山口県立美術館、毎日新聞社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2024/10/12- 2024/12/28	SOMPO美術 館	2024/7/17- 2025/7/1
58	木下佳通代	無題(17点組)	埼玉県立近代美術館	没後30年 木下佳通代 展	2024/10/12- 2025/1/13	埼玉県立近代 美術館	2024/5/15- 2025/1/23
59	木下佳通代	無題(14点組)	埼玉県立近代美術館	没後30年 木下佳通代 展	2024/10/12- 2025/1/13	埼玉県立近代 美術館	2024/5/15- 2025/1/23
60	ポール・ゴー ギャン	家畜番の少女	新潟県立近代美術館、久留 米市美術館	日本が見たドニードニ の見た日本	2024/11/2- 2025/1/13	久留米市美術 館	2024/8/17- 2025/1/23
61	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	新潟県立近代美術館、久留 米市美術館	日本が見たドニ ドニ の見た日本	2024/11/2 - 2025/1/13	久留米市美術 館	2024/8/17- 2025/1/23
62	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとケンタ ウロス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ョーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
63	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとネメア のライオン	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ョーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
64	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとヒュド ラ	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ョーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
65	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績 : ヘラクレスとガザの 柱	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ョーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
66	ゼバルト・ベーハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとカクス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ョーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
67	ゼバルト・ベーハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとアンタ イオス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ョーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
68	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとケルベ ロス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
69	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとトロイ ア人	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
70	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとネッソ ス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
71	ゼバルト・ベー ハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスとイオレ	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
72	ゼバルト・ベーハム	ヘラクレスの事績: ネッソスの衣服をヘ ラクレスに届けるリ カス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
73	ゼバルト・ベーハム	ヘラクレスの事績: ヘラクレスの死	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
74	ヘンドリック・ホルツィ ウス	オケアヌス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
75	ヘンドリッ ク・ホルツィ ウス	テテュス	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
76	ジャック・ ド・ゲイン II世	四大元素:土(地)	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
77	ジャック・ ド・ゲイン Ⅱ世	四大元素 : 水	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
78	ジャック・ ド・ゲイン Ⅱ世	四大元素 : 空気	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
79	ジャック・ ド・ゲイン Ⅱ世	四大元素:火	郡山市立美術館	奇想の版画 1500-1650 帝都プラハを交差する ヨーロッパ版画	2024/11/9 - 2024/12/27	郡山市立美術 館	2024/10/30- 2025/1/6
80	狩野宗眼重 信	帝鑑図・咸陽宮図 屛風	サントリー美術館	儒教のかたち こころの 鑑 日本美術に見る儒 教	2024/11/27- 2025/1/26	サントリー美 術館	2024/11/17- 2025/2/5
81	狩野伊川院 栄信	桐松鳳凰図屛風	サントリー美術館	儒教のかたち こころの 鑑 日本美術に見る儒 教	2024/11/27- 2025/1/26	サントリー美 術館	2024/11/17- 2025/2/5
82	狩野洞雲益 信	賢帝図屛風	サントリー美術館	儒教のかたち こころの 鑑 日本美術に見る儒 教	2024/11/27- 2025/1/26	サントリー美 術館	2024/11/17- 2025/2/5
83	草間彌生	無題(No. White A.Z.)	ビクトリア国立美術館(オー ストラリア)	Yayoi Kusama	2024/12/15- 2025/4/21	メルボルン・ オーストラリ ア ビクトリ ア国立美術館	2024/11/15- 2025/5/9
84	清水登之	セーヌ河畔	栃木市立美術館	没後80年 清水登之	2025/1/11- 2025/3/20	栃木市立美術 館	2024/12/17- 2025/3/31
85	北川民次	タスコの祭	名古屋市美術館、世田谷美 術館、郡山市立美術館	生誕130年記念 北川 民次一メキシコから日 本へ	2025/1/25- 2025/3/23	郡山市立美術 館	2024/6/19- 2025/4/2
86	北川民次	雑草の如くⅢ (裸 婦)	名古屋市美術館、世田谷美 術館、郡山市立美術館	生誕130年記念 北川 民次一メキシコから日 本へ	2025/1/25- 2025/3/23	郡山市立美術 館	2024/6/19- 2025/4/2

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間	
87	依田寿久	無題 No.3	長野県立美術館	信州から考える 絵画 表現の50年	2025/2/1- 2025/4/6	長野県立美術 館	2025/1/22- 2025/4/16	
88	ジョヴァン ニ・バッティ スタ・ティ エポロ	カプリッチ : 大きな 書物を抱えて立つ哲 学者	静岡県立美術館、SOMPO美術館、京都文化博物館、山口県立美術館、毎日新聞社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2025/2/15- 2025/4/13	京都文化博物館	2024/7/17- 2025/7/1	
89	ジョヴァン ニ・バッティ スタ・ティ エポロ	カプリッチ : 腕を鎖 でしばられた若者と 4人の人物	静岡県立美術館、SOMPO美術館、京都文化博物館、山口県立美術館、毎日新聞社	カナレットとヴェネツィ アの輝き	2025/2/15- 2025/4/13	京都文化博物館	2024/7/17- 2025/7/1	
90	ジュアン・ ミロ	シウラナの教会	東京都美術館	ミロ展	2025/3/1- 2025/7/6	東京都美術館	2025/2/19- 2025/7/16	

美術作品の補修

令和6年度の修復作品

- ・トニー・スミス《アマリリス》再塗装
- 清水九兵衛《地簪》再塗装
- プロムナード彫刻メンテナンス (柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、掛井五 郎《蝶》、舟越保武《杏》洗浄)

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる、作品の保全活 動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしな がら、老朽化による不具合が建物の各所に生じ、この機 能への障害がしばしば生じている。防水、配管、電気等 の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、 緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

今年度は大規模な修繕等は行われなかったが、県全体 の予算状況の悪化により、予定されていた設計等も延期 され、先の見通しは立っていない。例えば、2027年末の 蛍光灯の製造・輸出入禁止を見据えれば、館内照明器具 の計画的な更新は必須であるが、今のところ進めること が出来ないままである。

毛髪式自記式温湿度計の、デジタルのデータロガーへ の移行についても検討したが、毛髪式がアスマン等を併 用した自力較正が可能であるのに対し、データロガーの 較正に必要な費用が高いこと、また毛髪式が温湿度の変 化状況を現場で判断し易いのに対し、データロガーはデー タの回収やグラフ化が必要になること等の点から、短期 間での機器乗り換えは行わず、ロガーの機種選定のみを 進めておき、今後必要に応じた交換を考えていきたい。

今年度は新型コロナの感染拡大による影響が概ね無く なり、各展示やイベント等も予定通り運営することが出 来たが、正面エントランスや職員通用口等には、引き続 き非接触の体温計や消毒液を設置し、感染防止を図った。

■展示室等殺虫

炭酸シフェノトリン製剤(商品名:ブンガノン)が今 年度で製造中止になることを受け、館内の殺虫処理は、 本館展示室のみをブンガノンで行ない、荷解室、県民ギャ ラリー等には、やはりシフェノトリンを主成分とする薬 剤であるミラクンGXを用いた。ブンガノン同様、ドラ イな施工が可能である。殺虫処理作業後、害虫の発生状 況や室内の汚損状況等を年度を通じて観察したが、問題 は確認されていない。

当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を 食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面 的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさ らなる収蔵庫等への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤 使用はやむを得ないと判断しており、来年度以降はミラ クンGXの使用を考えていく見込みである。

殺虫殺菌燻蒸用薬剤であるエキヒュームS(酸化エチ レン製剤)も、ブンガノンと同様、今年度で販売終了に なることから、代替となる燻蒸薬剤や殺菌方法を検討し たいが、現時点で殺菌まで可能な文化財用燻蒸薬剤は、 酸化プロピレン製剤の他に無い。放射線滅菌は医薬品や 化粧品、包装材料等に用いられており、文化財への適用 も一部で研究されているが、美術館や博物館での導入を 考え得る程には至っていない。

殺菌せず、殺虫のみが必要とされる燻蒸では、フッ化 スルフリル製剤(商品名:ヴァイケーン)が、当館では 当面有望である。

いずれにせよ、薬剤による殺虫や殺菌燻蒸は、作品及 び人体に対して危険を伴うものであり、可能な限り小規 模に留め、清掃や環境の改善で対応することを目指した

環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法である窒素 置換法による低酸素濃度殺虫は、必要となる事態が無かっ たため、今年度も実績は無かった。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。 当館では平成12(2000)年度より、外部の委託業者に よる施設の環境調査を年3~4回行なってきた。今年度 は4回の館内調査を行なった。

2022年に本館第7展示室とブリッジギャラリーとの間 に設置した、仮設の間仕切りパネルは、現在も有効に機 能しており、温湿度の維持や気流の安定に役立っている。

館蔵品の増加に伴い、館内の作品収納環境は必ずしも 望ましい状態ではなくなりつつある。今年度はロダン館 収蔵庫内に棚を増設し、内部の整理整頓を図った。

調湿剤とガス吸着剤とを併用した高気密のキャビネッ トは、ガス吸着剤の交換が予算上難しくなり、換気で対 応せざるを得なくなっている。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠 かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの 情報を集積することが出来るからである。館内職員に対 しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けて いる。また博物館実習の中に「作品の保全について」や 「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への 努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行な われている。

今年度も、職員による大規模な防災訓練は実施するこ とが出来た。第1回防災訓練では、館内の消火設備や避 難経路の確認、第2回防災訓練では、展示室等で監視に 当たるミューズ・スタッフ、企画総務課や学芸課の職員 が参加する図上訓練を実施、各部署の発災時の行動や動

線を確認した。

静岡県博物館協会事務局としては、災害時の安否確認 連絡網を引き続き稼働、8月の台風10号に際して情報を 共有した。

全国美術館会議東海ブロックでは、愛知、三重、岐阜 の各県と共に、防災についての協議を継続しており、8 月の台風10号に際しては、東海ブロック内での安否確認 も実施した。また2023(令和5)年度から2年間続けた 本部館としての任期が今年度で終了し、来年度から2年 間、本部館は岐阜県美術館に、当館は副本部館となる。

■主な保存活動の経過

- 6月17日(月)~6月24日(月) 外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第1 回目
- 7月13日(土)~15日(月祝) ブンガノン及びミラクンGXによる展示室等殺虫業務
- 8月26日 (月) ~31日 (土) エキヒュームSによる一部作品の殺菌燻蒸実施。
- 8月29日(木)~

台風10号に際し、静岡県博物館協会事務局として、会 員館園の安否確認を実施。結果は会員専用掲示板にアッ プ。また全国美術館会議東海ブロック本部館として、 愛知、岐阜、三重各県の会員館の安否確認を依頼。

9月2日(月)~9月9日(月) 外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第2 回目

10月15日 (火)

第1回防災訓練実施

- 11月10日(日)~11月12日(火) ヴァイケーンによる一部作品の殺虫燻蒸実施。
- 11月18日 (月) ~11月25日 (月) 外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第3 回目
- 1月27日(月) 第2回防災訓練実施。
- 2月10日(月)~2月17日(月) 外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第4 回目

クラウドファンディング

「次世代へつなぐ! アートとみどりの散歩道 再生プロジェクト」

■趣旨

駐車場から本館までを結ぶ彫刻プロムナードは県立美 術館の顔として、展覧会に臨む序章としてその役割を果 たしてきた。また、本館横を抜けロダン館の裏山まで続 くプロムナードは、芸術と草木等の自然を感じながら散 策する県民の憩いの場として親しまれている。しかしな がら、年月の経過とともに、屋外彫刻の経年劣化や損傷、 植栽の繁茂や休憩用ベンチの老朽化等の鑑賞環境の悪化 が見られるようになってきた。

そこで、開館40周年に向け、特に傷みが激しい作品等 について、クラウドファンディング型ふるさと納税を利 用し、事業費の寄附を募り、屋外彫刻とその周辺を整備 し魅力の回復を図った。

■概要

名 称:「次世代へつなぐ! アートとみどりの散歩 道 再生プロジェクト」

間: 令和6年8月2日(金)~10月30日(水)(90 期 日間)

目標金額:10,000千円(ALL IN 方式)

容:彫刻の再塗装等の修復(トニー・スミス《ア

マリリス》、清水九兵衛《地簪》)

鑑賞環境の整備(植栽の剪定、銘板の補修、

休憩用ベンチの修繕及び新設)

■結果

寄附金額:10,609千円(延べ190名) 目標金額達成 190名の方からご支援をいただき、目標金額を超える寄 附をいただいた。寄附者は、当館友の会、ボランティア、 寄託者などゆかりのある方や、当館周辺に住んでいる方 が多かった。

これらの寄附金をもとに、令和6年12月から令和7年 3月にかけ、彫刻(トニー・スミス《アマリリス》、清 水九兵衛《地簪》)の修復、植栽の剪定(《地簪》、大 西清澄《濤の塔》周辺)、作品銘板の補修、休憩用ベンチ の修繕及び新設、石畳洗浄、杭の修繕等を行ない、プロ ムナードの魅力の回復を図ることができた。

《アマリリス》

修復前



《地簪》

修復前







▲チラシ

展覧会活動 展覧会一覧

			企	画 展			収蔵品展
	1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4/13 (土)	~7/7 (日)					^{2/10 (土) ~4/7 (日)} 静岡の現代美術と 1980年代
							4/10 (水) ~ 7/7 (日)
5							
MAY		ي -	テオ・ヤ	ンセン			
6							新収蔵品展
JUNE							
7							
JULY	7 /97 (+)	~ 9 /29 (日)					7/18(木)~10/6(日)
8	1/21 (1)	3/23 (II)					
AUGUST		力士 1/	トレガ	一一一一	アの輝き		カナレットとヴェーネツィアの輝き展
9		ハフレッ	トとり、	エイノイ	ノの輝き	•	関連展示
SEPTEMBER							マの景観
10	10/19 (土)	~12/15 (日)					10/9 (水) ~12/15 (日)
OCTOBER	10/12 (1.)	7912/13 (Ц)					ロダン館開館
11	編章	治レ カ	いつてあ	りし信温	豊デッサン	ノ鉛	30周年記念 《地獄の門》が
NOVEMBER	 		- 窪島ii			日	できるまで:
12							素描、試作から 完成へ
DECEMBER							
1							1/4 (土) ~ 2/16 (日)
JANUARY	1 /25 (土)	~ 3 /23 (日)					□ 石崎光瑤展関連展示 □ 第 1 部 ■ 異 国 へ
2	1/20 (1)	0/40 (H <i>)</i>					の眼差し
FEBRUARY		止 「	140年記	今	大小		2/18 (火) ~ 4/6 (日)
3		生誕	140年記	心 但	可儿坻		石崎光瑤展関連展示 第2部 絢爛た
MARCH							る花鳥画

観覧者数一覧

	展	覧	会	会	期		観覧者			観	覧	者	数		
	胶	見	X	期間	罰	日数	見込数	一 般	高校•大学	小•中学	70歳以上	未就学児	招待•減免	実績数	対見込
						日	人	人	人	人	人	人	人	人	%
企	テオ・ヤ	アンセ	ン展	4 /13~	7 / 7	75	44,750	25,485	2,254	5,454	2,529	1,992	6,078	43,792	97.9
	カナレッ アの輝き		ヴェネツィ	7 /27~ 9	9 /29	57	33,000	9,184	1,204	1,167	1,900	217	4,552	18,224	55.2
画	無言館と		つてありし 館	10/12~1	2/15	56	22,000	3,159	835	317	2,669	94	3,329	10,403	47.3
展	生誕140 瑤	年記:	念 石崎光	1 /25~	3 /23	50	10,000	9,065	972	824	3,039	259	3,958	18,117	181.2
			小 計			238	109,750	46,893	5,265	7,762	10,137	2,562	17,917	90,536	82.5
収	蔵品展			4/1~	3 /31	288	12,500	6,231	785	867	1,170	348	1,312	10,713	110.5
口	ロダン館開館30周年記念展 内10/9~12/15		内59	12,500	1,202	77	184	250	83	1,300	3,096	110.5			
	合 計			288	122,250	54,326	6,127	8,813	11,557	2,993	20,529	104,345	85.4		
移動	動美術展		島田市	9 /14~ 9	9 /29	14	2,000	-	-	-	-	-	-	2,157	107.9

■年度別観覧者数

(単位:人)

年度	観覧者数	年度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成18年度	222,608
昭和62年度	174,031	平成19年度	184,535
昭和63年度	214,156	平成20年度	190,669
平成元年度	229,258	平成21年度	101,792
平成 2 年度	233,904	平成22年度	264,207
平成3年度	190,361	平成23年度	126,626
平成 4 年度	173,665	平成24年度	163,533
平成5年度	218,921	平成25年度	139,428
平成6年度	410,182	平成26年度	94,664
平成7年度	245,028	平成27年度	110,310
平成8年度	178,701	平成28年度	146,498
平成9年度	127,299	平成29年度	157,323
平成10年度	153,099	平成30年度	73,452
平成11年度	107,977	令和元年度	113,362
平成12年度	146,833	令和2年度	137,276
平成13年度	207,340	令和3年度	45,109
平成14年度	170,390	令和 4 年度	97,490
平成15年度	184,095	令和5年度	52,846
平成16年度	146,706	令和6年度	104,345
平成17年度	129,768	累計	6,513,533

テオ・ヤンセン展

È 催:静岡県立美術館、静岡朝日テレビ

企画協力: Media Force、Gakken

賛:富士鋼業株式会社、静和エンバイロメント、

MIRARTH HOLDINGS

期:令和6年4月13日(土)~7月7日(日) 会

■概要

オランダの現代美術作家であるテオ・ヤンセンが創り 出した人工生命体「ストランド・ビースト」を中心とし た展覧会。1990年から制作が続けられてきたストランド・ ビーストの展示に加え、映像やスケッチ、各種資料によ り、その世界観を紹介した。

本展の目玉は、ストランド・ビーストを実際に動かす 「リ・アニメーション」と呼ばれるイベントで、会期中は 毎日、展示室内で開催された。その他に、観客自らが動 かせる作品《アニマリス・オルディス》も人気を集めた。 本館展示室以外に、エントランスホールに3体、企画券 売横に1体、更にロダン館にも1体のストランド・ビー ストを展示した。

主な広報手段としては、会期前からのテレビCMの放 映、会期直前での近隣小学校へのチラシの配布などが挙 げられる。SNSでは、リ・アニメーションの動画を中心 に投稿を行ったところ、高いインプレッション数を記録 し、動員に効果があったと思われる。

5月の連休中や会期末には、家族連れを中心に、多く の来場者でにぎわった。物販では、ストランド・ビース トをキット化した商品である「ミニ・ビースト」が人気 を集めた。最終的に43,000人以上が来場した。

■関連事業

・館長美術講座「連想、江戸のからくり・動物見世物」

日時: 5月26日(日) 14:00~15:30

講師:木下直之(当館館長)

場所:当館講堂

・実技講座「作って知ろう!テオ・ヤンセン機構|

日時: 6月8日(土)、9日(日)

場所: 当館実技室

•わくわくアトリエ「遠くまで走れ!ウィンドカー」

日時: 6月30日(日)

講師:関野葉水氏、藪嵜清香氏(静岡科学館る・く・ る)

場所:当館実技室

• 《アニマリス・オルディス》野外イベント

日時: 4月27日(土)、28日(日)、6月15日(土)、16 日(日)

場所:県立大学芝生園地

《アニマリス・スクィーラ》リ・アニメーション

日時: 6月1日(土)、2日(日)、22日(土)、23日 (日)

場所:エントランスホール

• アウトリーチ

展覧会広報を目的として、「ミニ・ビースト」を使った タイムアタックなどを県内各地で実施。店舗等での実施 には、静岡県と各企業との包括連携協定を利用した。

5月5日(日)

場所:ヤマハスタジアム (磐田市) ※静岡ブルーレヴズ試合会場

5月11日(土)、12日(日)

場所:イオンモール浜松市野(浜松市中央区)

5月18日(土)、19日(日)

場所:イオンモール富士宮(富士宮市)

5月25日(土)

場所:可美公園総合センター(浜松市中央区) ※エスコーラアルカンセ主催イベントにおけるブー ス出展

6月8日(土)、9日(日)

場所:アピタ静岡店(静岡市駿河区)

6月1日(土)、2日(日)

場所:浜名湖ガーデンパーク (浜松市中央区) ※浜名湖花博会場におけるブース出展

■図録

編集・執筆:西村俊之(大人の科学マガジン) 田中大介(大人の科学マガジン) 坂本真惟(札幌芸術の森美術館) 佐保圭 (SAMIYA) 荒井貴彦 (SAMIYA)

AD・想定・本文デザイン:修水

写真:テオ・ヤンセン

ルーク・ヴァンデルクリス

校正:フライスバーン

協力: 札幌芸術の森美術館

監修:宮島弘治(株式会社メ

ディアフォース)

発行:株式会社 Gakken 印刷:大日本印刷株式会社

仕様: A 4 版 99頁

■出品目録

p.83を参照



カナレットとヴェネツィアの輝き

主 催:静岡県立美術館、Daiichi-TV、毎日新聞社、

スコットランド国立美術館

後 援:駐日イタリア大使館、ブリティッシュ・カウ

ンシル

協 力:日本航空、日本貨物航空、箱根ガラスの森美

術館、ITAエアウェイズ

特別協賛:しずおか焼津信用金庫グループ

協 **賛**:DNP大日本印刷

監修:クリストファー・ベイカー(エディンバラ大

学教授、ザ・バーリントン・マガジン編集長) 千足伸行(成城大学名誉教授、広島県立美術

館長)

■概要

ヴェドゥータ(景観画)は、18世紀のヨーロッパで非常な人気を博した風景表現の一分野であるが、その写真のように精密な描写という性格故に、日本ではあまり紹介もされず、適切に評価されてはこなかった。

本展は、ヴェネツィアを代表するヴェドゥーティスタ (景観画家)であるカナレットを中心に、グアルディやマリエスキ等の同時代の画家によるヴェドゥータをご覧頂くと共に、カナレット以前のヴェネツィア絵画の伝統や、ヴェドゥータの衰退以後のヴェネツィアを描いた作品を合わせてご紹介した。

また、ヴェドゥータの人気と密接な関わりのあった光 学機器、カメラ・オブスキュラを展示するのに合わせ、 レプリカによって昔日の映像の様子をお客様にも追体験 して頂いた。

なお、同時期に開催した収蔵品展「ピラネージとローマの景観」では、同じくヴェネツィア出身のジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージによるローマの景観版画を展示し、ご来館頂いたお客様には、ヴェネツィア、ローマというイタリアの2大都市の眺めをご覧頂くことが出来た。

■関連事業

・カナレット展開幕記念ミニ・マルシェ

日時: 7月27日 (土)、28日 (日)、10:00~16:00 場所: 当館正面エントランス前広場、エントランスホー

夏休み子どもワークショップ「切り取って・合わせて・カプリッチョ!空想の街並み」

日時: 8月3日(土)、4日(日)

場所:当館実技室

講師:夏目幸弘氏(造形作家)

• 学芸員美術講座

「カナレットの景観画とカメラ・オブスキュラについ て |

日時: 8月4日(日)、14:00~

場所:当館講堂

講師:新田建史(当館上席学芸員)

• 特別講演会

「景観画の役割とは?―近代ジャーナリズムの始まり」

日時: 8月10日(日)、14:00~

場所:当館講堂

講師:高梨光正氏(愛知県立芸術大学准教授)

・学芸員によるフロアレクチャー

日時: 8月12日(月・振休)、28日(水)、31日(土)、 9月10日(火)、22日(日)、いずれも14:00~

場所:本館展示室

• 館長美術講座

「カメラ・オブスクラをめぐる話」

日時: 8月18日(日)、14:00~15:30

場所: 当館講堂

講師:木下直之(当館館長)

・ワークショップ

「イメージからピクチャーへ カメラづくりから考える」

日時: 8月24日(土)、25日(日) 場所: 当館実技室、美術館周辺 講師: 大塚敬太氏(写真家)

■図録

編集:静岡県立美術館、SOMPO美術館、山口県立美術館、毎日新聞社(鉄矢萌絵、藤原禎恵、南田奈穂)

執筆:クリストファー・ベイカー、千足伸行、新田建史、 南美幸、朝倉南、岡坂桜子、矢追愛弓、萬屋健司、 根本耕太郎

翻訳:門谷彩香、新田建史、萬屋健司

発行:毎日新聞社 制作:図録社 デザイン:梯耕治 印刷·製本:DNP大日本印刷 仕様: 29.6×22.7cm 180頁

「カナレットとヴェネツィアの輝き」クリストファー・ ベイカー

「美術史の中のグランド・ツアー―カナレットからモ ネヘ| 千足伸行

「カナレットの生涯」新田建史

- 1 カナレット以前のヴェネツィア コラム:ヴェドゥータ成立前史―都市景観とヴェネ ツィア派の絵画
- 2 カナレットのヴェドゥータ コラム:カナレットとパトロンたち
- 3 カナレットの版画と素描―創造の周辺 コラム:カナレットの時代のカメラ・オブスキュラ
- 4 同時代の画家たち、後継者たち一カナレットに連な る系譜の展開

コラム:都市の復興とヴェドゥータ

5 カナレットの遺産

コラム:ヴェネツィア共和国の終焉―ナポレオンの 侵攻と都市改造

アペンディクス:「水の都のガラスの軌跡」根本耕 太郎

「カナレットとカメラ・オブスキュラの映像につい て」新田建史

資料: ザネッティによる「カナレット伝」新田建史訳 作家解説

関連年表 朝倉南編

関連地図

参考文献 新田建史編

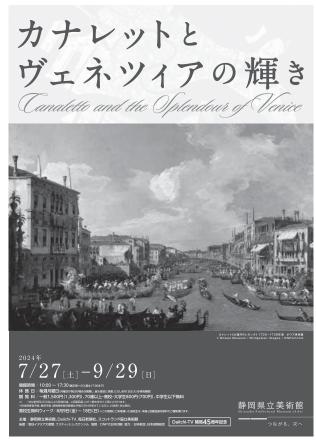
作品リスト

■他巡回先

SOMPO美術館 10月12日(土)~12月28日(土) 京都文化博物館 令和7年2月15日(土)~4月13日(日) 山口県立美術館 令和7年4月24日(木)~6月22日(日)

■出品目録

pp.84-86を参照



▲チラシ

無言館と、かつてありし信濃デッサン館 ― 窪島誠一郎の眼

主 催:静岡県立美術館

特別協力:一般財団法人戦没画学生慰霊美術館無言館

力:長野県立美術館

特別協賛:株式会社アイワホールディングス、株式会社

アイエイアイ

賛:鈴与株式会社、はごろもフーズ株式会社 協 期:令和6年10月12日(土)~12月15日(日) 会

■概要

窪島誠一郎(1941-)によって実現した二つの美術館 〈信濃デッサン館〉と〈無言館〉のつながりに目を向け る初めての展覧会。本展では、病と戦争により夭折した 画家たちの作品を展示することで、若者たちが絵画制作 に向けた熱意に触れた。また、二つの館の設立経緯や、 無言館により遺族の手元に遺品としてあった戦没画学生 の絵が作品として鑑賞されることになったという様相に 焦点をあて、絵が美術品として認知される仕組みや美術 館の役割を問う内容となった。鑑賞者が身近に感じられ ることを目指し、静岡ゆかりの戦没画学生について掘り 下げたことも本展の特徴をなす。

毎週末には著名なゲストを招いたイベントを実施し、 展覧会を盛り上げるとともに、様々な観点から本展の内 容に踏み込み、鑑賞者の理解を深めた。また、展覧会協 替の新たな試みとして特別協賛によるコーポレーション・ デイ (観覧無料日) を実施した。

■関連事業

・開幕記念講演会「絵好き・絵狂い・絵蒐め」

日時:10月12日(土)14:00~15:30

場所: 当館講堂

講師:窪島誠一郎氏(無言館館主、旧信濃デッサン館

館主)

講演会「あなたなら、どんな自画像を描きますか?」

日時:10月19日(土)14:00~15:30

場所:当館講堂

講師:森村泰昌氏(美術家)

・株式会社アイエイアイ プレゼンツ 対談「ふたつ美術 館をつくった話し

日時:10月26日(土)14:00~15:30

場所:当館講堂

講師:窪島誠一郎氏、檀ふみ氏(俳優)

・株式会社アイワホールディングス プレゼンツ 演奏会

「天満敦子ソロ・コンサート |

日時:10月27日(土)14:00~15:00

場所:当館講堂

演奏者:天満敦子氏(ヴァイオリニスト)

・対談「戦争と食-関口清『夢の落書帳』をひもとく」

日時:11月9日(土)14:00~15:30

場所: 当館講堂

講師:岡田裕之氏(わだつみのこえ記念館館長)、渡辺 總子氏(わだつみのこえ記念館理事長)、木下直 之(当館館長)※荒俣宏氏(作家)急遽欠席

・館長美術講座スペシャル鼎談「お手伝いは見た、窪島 誠一郎とは誰かし

日時:11月17日(日)14:00~16:00

場所:当館講堂

講師:窪島誠一郎氏、原田光氏(無言館館主お手伝い、

元岩手県立美術館館長)、木下直之

・映画上演会(SBCスペシャル番組「生ききる」、森内康

博監督「二十歳の無言館」)

日時:10月20日(日)、11月16日(土)各日13:00~16:15

場所:当館講堂

・実技講座「自分を見つめる~自分らしい自画像を描く

日時:11月30日(土)~12月1日(日)10:00~16:00

場所:当館実技室 講師:野呂美樹氏

• わくわくアトリエ「ちょきペタART!~大好きな人と

紙版画体験~」

日時:12月8日(日)10:00~16:00

場所:当館実技室 講師: ヒダナナミ氏

・学芸員によるフロアレクチャー

日時:11月8日(金)、12月6日(金)各日14:00~14:40

場所:当館講堂

講師:喜夛孝臣(当館上席学芸員)

コーポレーション・デイ(観覧無料日)

日時:10月16日(水)、11月22日(金)

■図録

編集:木下直之、喜夛孝臣

編集補助:太田佳成、植松篤、貴家映子

発行:静岡県立美術館

仕様:B5判 右開き・縦書き 208頁

デザイン: 橋詰冬樹

プリンティング・ディレクター:高智之(株式会社山田

写真製版所)

制作進行:後藤田良仁(株式会社山田写真製版所)

印刷·製本:株式会社山田写真製版所

内容:ごあいさつ

窪島誠一郎 詩、略年譜

信濃デッサン館・無言館 略年譜

「信濃デッサン館なくして、無言館なし」木下直之

図版

序章 自画像

第一室 遺された絵と言葉

第二室 無言館の誕生

第三室 最後まで描こうとしたもの

第四室 静岡出身戦没画学生

第五室 戦争と向き合う

第六室 窪島誠一郎の眼

「KAITA EPIT窪島誠一郎瞥見」原田光 「夭折の画家と日本近代美術史」喜夛孝臣

本展関連年譜

主要参考文献リスト

作品目録

■出品目録

pp.87-91を参照



▲チラシ

生誕140年記念 石崎光瑤

È 催:静岡県立美術館、静岡新聞社•静岡放送

企画協力:每日新聞社

期:令和7年1月25日(土)~3月23日(日) 숲

■概要

石崎光瑤(1884~1947)の生誕140年を記念し、南砺市 立福光美術館、京都文化博物館、静岡県立美術館の3館 により共同で企画され、巡回した展覧会。静岡会場のの ち、南砺市立福光美術館所蔵品のみの構成により、東京 会場(日本橋高島屋)へ巡回した。北陸地方以外で光瑤 の大規模回顧展が開催される初の機会となった。

光瑤の画風展開を追う時代順の4章仕立てとして構成。 第1章では、故郷富山の存在や登山体験の重要性に触れ ながら初期作を紹介し、続く第2章では、インド旅行を 機に絢爛豪華な花鳥画の世界を打ち立てた高揚期の画業 を示し、展覧会のひとつの山場とした。第3章では、東 西の古画学習を深め、整理された構図と落ち着いた色彩 による表現へ向かう展開を追い、第4章の、中国院体花 鳥画の学習に基づき、写実を追求しつつ静謐な画風へと 至る最晩年の画風へとつなげた。高揚期の華やかな大画 面作品を押し出しつつも、それらに通底する魅力を持っ た初期作や、古画学習を通して洗練の度を増す晩年作な どを丁寧に見せることで、各期における画家の試みや作 品の魅力が伝わるよう努めた。

同時期の収蔵品展では、光瑤が伊藤若冲に強い憧れを 抱いていたことに注目し、当館所蔵の伊藤若冲《樹花鳥 獣図屛風》を展示。両者の競演をご覧いただくことで静 岡会場ならではの内容とした。近年ますます人気の高ま る若冲の屏風をあわせて出品することで、光瑤の画業へ の関心を喚起し、一層の理解を促すきっかけとした。

静岡における知名度は決して高くない画家だが、結果 的に見込みを大きく上回る観覧者を迎えることができた。 光瑤の作品を多数所蔵する南砺市立福光美術館の格別の ご協力により、代表作《燦雨》をはじめとする多くの作 品を通期で展示できたことの効果は大きい。アンケート の自由回答では、初めて触れた光瑤作品の魅力に驚き感 嘆する声が多数寄せられた。

会期中は、講演会やフロアレクチャーのほか、共催の 静岡新聞社からの呼びかけによる追加イベントとして、 視覚に障害のある方と晴眼者が一緒に作品鑑賞を楽しむ 「見えない人と見える人のためのおしゃべり鑑賞会」を実 施。触図等を用意して触覚による情報を一助としつつ展 示室をめぐり、作品を鑑賞した。参加者の反応・意見は 今後の展開につながるものであり、有益な機会となった。

■関連事業

・記念講演会「石崎光瑤 至高の花鳥画をもとめて―そ の生涯と画業一日

日時: 3月9日(日)14:00~15:30

場所: 当館講堂

講師:渡邊一美氏(南砺市立福光美術館学芸員•元副

館長)

館長美術講座「日本画家はなぜインドをめざすのか」

日時: 3月2日(日)14:00~15:30

場所:当館講堂

講師:木下直之(当館館長)

・美術講座「光瑤が古画に学んだこと―若冲を中心に」

日時: 2月15日(土)11:00~12:00

場所:当館講座室

講師:石上充代(当館学芸課長)

・学芸員によるフロアレクチャー

日時: 1月25日(土)、2月11日(火・祝)、3月8日

(土)、3月16日(日)いずれも11:00~

場所:企画展示室 講師:石上充代

• 見えない人と見える人のためのおしゃべり鑑賞会

日時: 3月1日(土)14:00~15:00

場所:企画展示室

講師:大倉奈央子氏(静岡新聞社)、石上充代、貴家

映子(当館上席学芸員)

■図録

編集:植田彩芳子(京都文化博物館主任学芸員)、川邉 紫音(南砺市立福光美術館学芸員)、渡邊一美、 石上充代、金光隆(毎日新聞社)

発行:每日新聞社

執筆:植田彩芳子、川邉紫音、渡邊一美、石上充代、 吉井亮一(元富山県[立山博物館]学芸員)

翻訳:クリストファー・スティヴンズ

デザイン:坂本佳子(大向デザイン事務所)

印刷・製本:日本写真印刷コミュニケーションズ

仕様:B5版変形・右開き・縦書き、256頁

内容:原寸大図版

ごあいさつ

「『生誕140年記念 石崎光瑤』によせて」片岸 昭二(南砺市立福光美術館館長)

「石崎光瑤、その絵画の魅力」植田彩芳子 図版

第一章 画学修行と登山

コラム 光瑤と山本光一 山が光瑤にもたらしたもの 光瑤と竹内栖鳳

第二章 インドへの旅、新しい日本画へ

コラム 第一次インド行

《燦雨》の与えた影響

土田麦僊と石崎光瑤

第三章 深まる絵画表現

コラム ヨーロッパへの旅 光瑤の古画学習 インド再遊と高野山 金剛峯寺奥殿襖絵

第四章 静謐なる世界へ

「光瑤の山と山の写真-剱岳という存在」吉井 亮一

「光瑤を支えた故郷富山の人々」渡邊一美 「光瑤における古画の意義」石上充代 「石崎光瑤の落款について」川邉紫音 印章•落款

本展出品作品以外の主な石崎光瑤作品

作品解説

写生帖、葉書の翻刻

石崎光瑤年譜

石崎光瑤文献目録

出品目録

南砺市立福光美術館のご案内

英文リスト

英文ごあいさつ

■出品目録

pp.92-95を参照



▲チラシ

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の1983 (昭和58) 年に 紀要を創刊し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてき

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・ 研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の 研究の進展に寄与することである。従って研究テーマは 主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に基づき、広 く美術および美術館を取り巻く諸問題まで取り扱う。成 果品は、例年のように、全国の研究機関および研究者に 配布した。

第40号

■判 型 29.7×21.0cm

■頁 数 56頁

■発行日 2025 (令和7) 年3月31日

■内 容

□カラー口絵 なし

□論文

- ・南美幸「静岡県立美術館『彫刻を触って鑑賞するプ ログラム』について」
- ・川谷承子「中村宏の作品における映画の技法とマン ガ的要素が鑑賞に与える効果について」
- ・植松篤「杉山邦彦《死亡届》事件について」



研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたも の(論文・書籍執筆・口頭発表等)を記載する。ただし、 一般の新聞・ニュースレターへの寄稿や、一般向け講演、 館内研究会、図録の作品解説等は除いている。

■石上充代

・論文「光瑤における古画の意義」(『生誕140年記念 石 崎光瑤』図録、令和6年7月)

■新田建史

- ・論文「静岡県立美術館における虫菌害防除の実務」 (『文化財の虫菌害』第87号、令和6年6月)
- ・論文「カナレットの生涯」(『カナレットとヴェネツィ アの輝き展』毎日新聞社、令和6年7月)
- 論文「カナレットとパトロンたち」(『カナレットとヴェ ネツィアの輝き展』毎日新聞社、令和6年7月)
- 論文「カナレットの時代のカメラ・オブスキュラ」(『カナレットとヴェネツィアの輝き展』毎日新聞社、令 和6年7月)
- 論文「カナレットとカメラ・オブスキュラの映像につ いて」(『カナレットとヴェネツィアの輝き展』毎日新 聞社、令和6年7月)
- •翻訳「資料:ザネッティによる「カナレット伝」」(『カ ナレットとヴェネツィアの輝き展』毎日新聞社、令和 6年7月)
- ・編集「参考文献 Bibliography」(『カナレットとヴェ ネツィアの輝き展』毎日新聞社、令和6年7月)
- ・論文「カナレットとピラネージの作画態度について」 (『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第155号、令 和6年10月)
- ・口頭発表「能登半島資料レスキュー参加記」、静岡県博 物館協会講習会「博物館の防災 資料レスキューの実際」 令和7年3月12日(水)

■南美幸

- ・論文「館蔵品紹介―澤田政廣《笛人》について」(『静 岡県立美術館ニュース アマリリス』156号、令和7年1 月)
- ・論文「静岡県立美術館『彫刻を触って鑑賞するプログ ラム』について」(『静岡県立美術館紀要』第40号、令 和7年3月)

■喜夛孝臣

・論文「夭折の画家と日本近代美術史」(『無言館と、か つてありし信濃デッサン館』静岡県立美術館、令和6

年10月)

・論文「漫画と美術の相互作用―日本漫画家連盟と機関 誌『ユウモア』|(『日本漫画家聯盟機関誌ユウモア復刻 版』三人社、令和6年11月)

■薄田大輔

· 論文「作品紹介 尾張徳川家旧蔵、狩野典信·惟信筆 「名所絵画帖」」(『葵』第131号、令和6年7月)

■植松篤

・論文「杉山邦彦の《死亡届》事件について」(『静岡県 立美術館紀要』第40号、令和7年3月)

■川谷承子

- ・論文「中村宏の少女イメージについての考察(『静岡県 立美術館ニュース アマリリス』第154号、令和6年7 月)
- ・論文「中村宏の作品における映画の技法とマンガ的要 素が鑑賞に与える効果について」(『静岡県立美術館紀 要』第40号、令和7年3月)

■貴家映子

• 論文「『古きフランスのピトレスクでロマンティックな 旅:オーヴェルニュ編』における火山地形の描写につ いて」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第157 号、令和7年3月)

研究会

5月

開館40周年に向けて

木下直之

当館は2026年に開館40周年を迎える。それを記念する 展覧会の第1弾として、これからの美術館像を提示する 企画展を開催する予定だ。当初は館長監修という案が出 たが、館長と学芸員がチームを組んで研究会を重ね、企 画を練ることになった。それに先立ち、館長としての所 信を表明した。

第1に「開館40周年記念展に望むこと」として、過去を踏まえて未来を展望すること、それにはこの40年間に築いたコレクションを検証すること、とりわけ収集に力を注いできた近世美術コレクションを再評価し、「近世」と「現代」をつなぐことの意義を指摘した。それは当館の基本理念にうたう「人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供する」ことである。多種多様な表現は過去にも探るべきだからだ。

第2に「見落としてきたものとは何か」を問題提起した。開館以前、美術館ではなく美術博物館を建設する構想が優勢だった。それが美術館となり、県立歴史博物館や民俗博物館を持たずに来たことで、「美術」に隣接する造形表現が十分に捉え切れない。美術館とは相容れない一過性、仮設、その場限りの造形表現にも目を向けることを提案した。

第3に「具体的な素材」をいくつか提示した。すなわ ち、絵馬、細工物、人形などである。

第4に「タイトル「美術という見世物」は必ずしも妥当だと思わない」。当初案として学芸課より拙著のタイトルが上がったが、30年前の刊行時にはそれが何を意味したのかを説明し、新たなタイトルを探ることになった。

6月

石崎光瑤と若冲

石上充代

石崎光瑤による明治末期から大正期の伊藤若冲学習の 詳細をたどり、光瑤の画風転換期における若冲研究の意 義を考察した。

明治45年(1912)に第17回新古美術品展で《動植綵絵》を実見したことが、光瑤による若冲体験の原点である。大正14年(1925)には若冲後期の傑作である西福寺蔵《仙人掌群鶏図襖》を見出し、広く世に紹介するとともに、精密な模写を残した。いずれも光瑤が花鳥画家として自身の画風を確立または転換した重要な時期であり、若冲の2点の傑作との出会いは、光瑤が自身の絵画世界

を追求していくなかで大きな示唆を与えたものと考えられる。例として大正15年の帝展出品作《家鶏二図》が挙げられる。本作は洗練と調和の中に生命の躍動を表す巨大な鶏図であり、《仙人掌群鶏図襖》の研究が基礎にあるのは疑いない。ただし、皇室への献納により京都から東京に移された《動植綵絵》に明治末期の京都の美術界が注目していたこと、あるいは、大正15年に東京帝室博物館で《動植綵絵》30幅が陳列され、若冲に関する本格的な研究の機縁となったこと、などを考え合わせると、光瑤の若冲研究を個人的な関心に基づくものと捉えることは誤りであり、近代における若冲受容の動向に照らして丁寧に検証していく必要があるものと考えられる。

7月

中村宏の「観光絵画」について 川谷承子

令和7年度に浜松出身の画家である中村宏の個展を開 催する計画があることから、本発表では、中村宏の足跡 を辿り、代表的なシリーズとそれぞれの作風を整理する とともに、展覧会で焦点をあてるべき課題の探求を行っ た。具体的には、1950年代半ば中村が発表してきた「ル ポルタージュ絵画」、1950年代末~1960年代前半の「観念 絵画」、1960年代後半の「観光絵画」、1970年代以降の 「車窓篇」といった絵画シリーズを年代順に、作風の特徴 を整理し、変遷の流れをたどった。加えて、中村が高校 時代までを過ごした浜松の風景や、自宅敷地内にあった 浜松高等家政女学校で目にしていた女学生のセーラー服 姿と、中村の作品との関連について、資料、写真を参照 しながら考察を行った。発表後、参加者からの質疑応答 のなかで、「観念絵画」「観光絵画」といったシリーズは、 中村自らが名づけ、変遷の契機を創出していた運動であっ たという特徴をふまえた上で、分析、考察を行うことが 重要である、という指摘を受けた。展覧会では、中村の こうした運動や作風の変化を客観的にとらえ直す事が重 要であることを確認した。また1970年代以降の作品につ いて、これまでにも東京都現代美術館や浜松市美術館で の個展においても展示が行われているものの、それらが 絵画表現として、1960年代~2000年代の絵画史の中にど のように位置づけられるかといった点については十分な 検証が行われていない。その点から、開催する展覧会で は1970年代以降の作品を紹介し分析することが重要であ ることを確認した。

9月

狩野探幽筆「一ノ谷・二度之懸図屏風」に関する一考察 薄田大輔

探幽「一ノ谷・二度之懸図屛風」の制作方法と、表現 についての考察を行った。まず、制作方法として、図様 の典拠を探った。探幽が「東照社縁起絵巻」(日光東照宮 蔵)の合戦場面において、中世合戦絵巻から武者図様を 引用していることは既に明らかにされているが、本屛風 においては中世絵巻からの引用は見られず、同時代の絵 入版本『平家物語』や他の「源平合戦図屛風」との図様 の類似が指摘できた。ここから、近世初期には二度之懸 図には定型化された図様があり、探幽はそれを基に本屛 風を制作したと考えられる。次に、表現について考察し た。二度之懸は梶原景時親子の武勇譚のほか、親子の絆 に焦点が当てられて語られてきたが、本屛風では敵方 (平氏) の名もなき武者たちの武装までも主役並みに華や かに描かれている。これには戦がなくなった江戸時代の 武家における、中世武者自体への憧憬が反映されている ことを指摘した。また、本屛風は探幽の「新やまと絵様 式」とは異なり、極彩色かつ重厚に描かれている。これ を探幽による伝統的やまと絵様式への回帰と読み解き、 その背景には幕府の重要な画事であった東照宮縁起絵巻 や朝鮮国王に贈呈された贈朝屛風の制作に、伝統的なや まと絵の流れを汲む土佐派や住吉派の絵師たちの参入が あった可能性を指摘した。

9月

村松以弘《伊豆沿海真景》について 浦澤倫太郎

江戸時代後期に、掛川藩の御抱絵師として活躍した村 松以弘(1772 - 1839)による、《伊豆沿海真景》(ニュー ヨーク・パブリック・ライブラリー蔵) について考察し た。

初めに先行研究をもとに、以弘の画業を概観した。以 弘には、藩主の意向を受けて制作した、実景を題材とし た作例が散見され、重要なレパートリーであったことが うかがわれる。一方で、年紀を有する作品が非常に少な いことが、その画風の変遷を辿ることを難しくしている。 このことを指摘したうえで、これまで情報が限定的であっ た本作は、跋文に制作年が記され、かつ規模が大きいこ とから、以弘の基準作になりうることを述べた。

次に本作の詳細について紹介した。本作は四巻からな り、伊豆半島西部の掛川藩領を中心とした各地の風景を 描く全三十三図を収める。藩儒・松崎慊堂の序文により、 伊豆半島を巡察することが叶わなかった藩主の命を受け、 以弘が代わって伊豆半島各地を訪れ、スケッチを行い、 数年をかけて本作を完成させたことが判明する。時に船 上からの視点も交え、実際の地理的な特徴を表している ことが確認される。同時に、複数の視点からみた光景を 一図に合成するなど、様々な演出を加えていることを指 摘した。

更に師の一人とされる谷文晁の作品と比較しつつ、そ の影響関係を探った。

最後に、本作は比較的初期の作であり、技術的には未 熟な点も散見されるが、後年の実景を題材にした作品群 の端緒を成す、重要な作例であると結論付けた。

10月

草土社以後の風景画に描かれたトポスについて -中川一政《風景(池袋の麦畑)》を手がかりに 貴家映子

中川一政の《風景(池袋の麦畑)》(1919年/当館蔵) を手がかりとして、明治以降の風景画における、草土社 以前/以後のトポス(場所性)の変遷を考察した。当館所 蔵品を中心に、明治以降の風景画に描かれた場所の変遷 をたどると、①旧来の名所、②新たに見出された名所 (探勝的風景)、③名前のない場所に分類できる。そのう ち、③に見出される自然豊かな田園風景は、先行研究で も指摘されている通り、バルビゾン派を中心とする西洋 絵画の影響下に描かれた理想化された風景であり、自然 と人との調和的な関係を前提としていた。一方、草土社 期の中川による《風景(池袋の麦畑)》には、都市の発展 によって失われる風景への寂寥感が反映されていること が、同時期に発表された画家の詩文などとの比較から指 摘できる。春陽会参画以前の中川が、遠方の景勝地を訪 問しながら、あくまで身近な東京郊外ばかりを主題とし ていることは、《切通之写生》の岸田劉生の影響が、描 かれた場所性にも及んでいたことを想像させる。草土社 の時代以後、旧来の名所や、理想化された "絵になる風 景"からは逸脱した場所が主題となる作例が増加してい ることから、同派が風景画のトポスに果たした役割につ いては、さらなる調査研究の価値があるように思われる。

11月

杉山邦彦の「死亡届事件」について 植松篤

本発表では、1970年の「第10回静岡県芸術祭美術展」 において、グループ「幻触」の杉山邦彦による《死亡 届》が、版画部門に入選したにもかかわらず展示拒否さ れた出来事を取り上げた。杉山は翌1971年に静岡県を提 訴し、1972年に勝訴となっている。

これまで杉山の活動がまとまって紹介されたことがなく、この作品や出来事についても詳しく論じられたことがなかった。《死亡届》は3つの部分からなり、死亡届と死亡診断書に静岡県芸術祭美術展が死亡した旨を記述しコピーしたもの、出品票のコピー、芸術祭案内状の封書で構成されている。すなわち、本作は単に芸術祭を批判しただけでなく、主催者とのやり取りを含むものであり、こうした関係性を開示する表現は今日においても意義があると考えられる。

この作品の背景について言及すると、「静岡県芸術祭美術展」は、その前身である「静岡県美術展」の頃より静岡の作家らが精力的に出品していたものであり、当地域での重要性があった。しかし、1969年の第9回展においても、出品を委嘱された幻触の飯田昭二が芸術祭に批判的な作品《問》を出品するも拒否される出来事があった。1970年の第10回展では、杉山の《死亡届》だけでなく、同じく幻触の前田守一の《クサエ》も芸術祭を批判し、反対を受けて、作品を改変して展示することとなった。こうした表現の背景には、幻触と新潟のグループ「GUN」との交流や、その作家である前山忠のメールアート作品もあったと見られる。

12月

ヴェドゥータについて

新田建史

ヴェドゥータ(veduta)は、日本では都市景観画などと訳され、都市や遺跡の眺めを透視図法上精密に再現した風景画、という捉え方が一般的かと思われる。だが、16世紀の用例を見れば、「視点」という意味でも用いられており、この言葉の意味は、時代によって異なっていることが分かる。本発表では、17~18世紀の作品を辿ることで、単に精密な再現図というだけではない、「ちょっと面白味のある視点を提供する作品」という含意が、この語にはあったのではないかという可能性を指摘した。

1月

川村清雄と額縁

喜夛孝臣

本発表では、美術館にあたりまえにあるがなかなかその存在が顧みられない額縁に焦点を当て、当館所蔵作家川村清雄の額縁に対する意識と、彼の作品につけられた額縁について考察を試みた。

川村は額縁に強いこだわりをもっていた。そのこだわりから一つ一つの画にあわせて自身で額縁を設計し、時

には潤筆料よりも額縁制作費が高価になったという逸話まで残る。1889年頃から1892年にかけて水交社のために制作した「海軍将校像」は、作品自体は現存しないが、川村による額縁の図案が残る貴重な例である。その図案と、本作を実見した新聞記者の記述により本作の額縁が伝統的な文様を駆使したきわめて工芸的な額であったことがわかる。また、本作について、川村は、自身が目指す日本趣味的な嗜好は、洋装の人物を洋画で描いただけでは実現が困難であり、額によったと語っている。川村は、本作にとって額が単なる作品の容れ物ではなく、作品の一部と言ってもよいものと考えていた。

当館所蔵の川村作品の額縁についてみれば、これまで 当館の日本洋画作品の額縁についてはほとんど記録の蓄 積がなく、いつの時点でつけられたか探ることは困難で ある。例外的に、《波》については、1927年の川村在世 中に開催された個展出品直後の図版が現存しており、現 在の額縁が少なくとも川村が眼にしていたものであるこ とがわかる。かつて川村は「私のやうな未熟なものの描 いたものには、迚も金縁など云ふ盛装は似合はない」と 語ったことがあるが、本額縁は、アカンサス模様の装飾 で彩られた金縁であり、川村の意向によってつけられた 額縁か疑問がもたれる。ただし、1913年に早稲田大学恩 賜館に恒常的に展示されるために描いた同主題の作品に、 川村は金縁をつけており、本作も公共的な場に展示され ることを意図して、あえて作品に「盛装」をさせたのか もしれない。

2月

教育普及が目指すもの

~令和6年度教育普及事業の振り返りと今後に向けて~ 山本勇実

令和6年度の教育普及事業を通して、個人的に感じた成果、課題を挙げ、次年度に向けて実践すべきことをまとめた。また、美術館の教育普及事業が目指すべき方向性を明確にするために、改めて教育普及の目的や意義について考察した。当館の教育普及事業は歴史があり、長く携わってきた普及スタッフや講師の支えの元、他館と比較しても充実したプログラムが実施されてきた。一方で形式化されている部分もあり、時代に合わせた変化も必要だと感じる。また、ワークショップを美術館で行う意義を強めるためにも、ただつくって終わるのではなく、展覧会との結びつきを意識した体験にしていく必要がある。

教育普及の大きな目的は美術を通して人々に「新たな 価値」を見つけてもらうことである。楽しさ、驚き、興 味、疑問、様々な体験を通して「美術はこんなに楽しい のか | 「もっと美術について知りたい | という新たな価値 を発見してもらうこと、それが美術館の教育普及が目指 すものの1つではないだろうか。そのために、現在も当 館で行われている粘土・絵の具ワークショップのような 多くの人が楽しめる純粋な造形体験を継続していく。ま た、そういった体験を通して美術に興味をもった人々に 対しては、新たな体験を通して展覧会等へ興味をもって もらい、より深みのある美術の世界に触れてもらう。こ のような流れをつくることでより多くの人に美術の「新 たな価値」を発見してもらうことを目指していきたい。

3月

ミケーレ・マリエスキとフランチェスコ・アルボットー マリエットの評伝について

南美幸

今年度開催した「カナレットとヴェネツィアの輝き」 展出品作家であるミケーレ・マリエスキとその弟子のフ ランチェスコ・アルボットに関する発表。マリエスキ没 後、その絵画作品の複製制作を開始したアルボットが、 師匠の追随者、模倣者であったことは、現存する作品群 と、18世紀フランスの文化人P. J. マリエットの評伝に おいて、アルボット自ら「第二のマリエスキ」と名乗っ たという記述から判明する。マリエスキとその工房に関 する研究が本格化したのは20世紀初頭になってからで、 以後、マリエスキによるオリジナルとその複製作品の帰 属作業が進展したが、いまだに多くの課題が残されてい

本発表では、当時工房での共同制作は当たり前であっ た前提を踏まえつつ、マリエスキとアルボットに関する マリエットの非常に簡潔な文章は、オリジナルとレプリ カに対する直接的な言及こそないものの、それらを暗に 含んだ、彼らの作品に対する適切な価値判断ではないか という仮説を提起した。具体的には、第一にマリエスキ とアルボットの生涯や作品を踏まえながら、マリエット の評伝の解釈について述べ、第二にそしてオリジナルと 複製に関するヴァザーリやフィリッポ・バルディヌッチ の記述について紹介した。バルディヌッチの著作から半 世紀以上経過したマリエットの短い描写から、当時のヴェ ネツィア美術界におけるオリジナルと複製に関する価値 判断まで読み取るのは行き過ぎかもしれないが、ひとつ の解釈の可能性として見解を述べた。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家(現代)人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎 資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、美術品写真の専門家による写真 撮影を、年度内にまとめて行なっている。4×5インチま たはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板とし て、受入番号順にフォルダに入れ、整理収納している。 経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影 を実施している。また必要に応じてフィルムスキャナー を用いてデジタル化も行っている。

(2) 館蔵品のデジタル画像

ポジフィルムと並行してデジタル画像も撮影している。 データは課内で共有され、研究、各種刊行物・広報物の 作成、講演会や研究会等に活用されている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品などついても、様々な形で撮影され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の 美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料 (美術館宛の個展案内状など) については、ボランティアの資料整理グループが整理を行なってきた。これらは作家ごとに分類・保存され学芸員の研究などに活用されている。

平成26年度からは、案内状に記されている作家名や会場名、会期などの基本データを入力し、作業日毎に保管場所を作り、管理してきた。

令和3年度には、このエクセルに入力されてきたデータをI.B.Museum SaaSに移行し、「現代美術関連資料」としてウェブ上で一部の公開を始めた。

更に、令和3年度後半の休館期間中より、平成25年度 以前に収集された資料のデータについても入力を開始し、 令和4年度から作業が完了したものから順に公開を始め た。現在は、閲覧制限のあるアカウントを用いて、ボラ ンティアが直接IBMSに入力作業を行う体制をとっている。

「デジタルアーカイブによる情報発信」(p.73) も参照のこと。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、企画展毎に整理 収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には、かつて市販のデータベースソフト「桐」を使用していたが、令和3年度末より I.B.Museum SaaS へ移行した。詳細は「デジタルアーカイブによる情報発信」(p.73) 参照のこと。

博物館実習

開館当初より、当館は博物館実習の場と機会を提供し てきた。新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、 昨年度より従来通り全て対面で実施している。しかし、 体調不良の実習生が1名いたため、この実習生に限って は、4日間をオンライン対応とした。

実習生の受入条件については、下記の通りとし、10大 学11名の学生を受け入れた。

- (1) 県内出身もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作、アート マネジメント等を専攻し、美術館で実習を行う合 理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けられること。

実施期間は、8月5日(月)から9日(金)までの5 日間であり、各日6時限目までカリキュラムを設定した。 時間帯は基本的には後述の通りだが、実習の内容により、 前後する場合もある。

その内容は、当館の学芸課職員による講義・見学・実 習などからなる。今年度は、準備中の40周年記念展の会 議への参加や、課題制作での展示プラン作成など、展覧 会業務の体験を取り入れた。

このほか、「地方社会における美術館の役割」というテー マで、実習前のレポートの提出と発表、そして実習を踏 まえた実習後のレポートの提出を組み込んだ。博物館実 習を通じて、それぞれが博物館活動についてより理解を 深めたことがうかがえた。

■カリキュラム

1 時限目 9:30~10:25 2 時限目 10:30~11:25 3 時限目 11:30~12:25 4 時限目 13:30~14:25 5 時限目 14:30~15:25 6 時限目 15:30~16:25

8月5日(月)

1、2時限 オリエンテーション

【演習】課題発表(植松)

3時限 【講義】美術館の概要(石上)

4時限 【講義】当館コレクションについて(南)

5時限 【講義】展覧会ができるまで(貴家)

6時限 振り返りとノート記入

8月6日(火)

1-3時限 【演習】40 周年記念展会議参加 (木下館 長、喜夛、薄田、貴家、植松)

4時限 【見学】展示室、バックヤード等(貴家)

5時限 【講義】美術品の購入と寄贈について(川谷)

6時限 振り返りとノート記入

8月7日(水)

1時限 【講義】美術品の保存、IPM (新田)

2、3時限 収蔵庫内実習(新田、植松、薄田、浦澤)

4時限 【講義】美術館ボランティアについて(喜夛)

5時限 【講義】美術品の情報管理とデジタルアーカ イブ(浦澤)

6時限 振り返りとノート記入

8月8日(木)

1時限 【講義】美術館の広報について(川谷)

2、3時限 作品取り扱い実習 (南、喜夛、石上、薄 田、浦澤)

4時限 【講義】教育普及プログラムについて(山本)

5時限 ワークショップ準備(山本)

6時限 振り返りとノート記入

8月9日(金)

1、2時限 Aワークショップ補助(山本) B課題制作、講評(植松)

3、4時限 A課題制作、講評(植松) Bワークショップ補助(山本)

5時限 ディスカッション

6時限 振り返りとノート記入

この日のみ2グループに分け、ワークショップ補助と 課題制作を交代制で実施した。

※()内は当館担当者名

ギャラリーツアー・タッチツアー

■ギャラリーツアー

ギャラリーツアーは、ギャラリーツアーグループに所属する当館ボランティア1名がナビゲーター役を務めて、収蔵品展とロダン館の作品を、参加者とともに対話形式で約30分間鑑賞する活動である。

今年度は、3月30日(日)には、初めて屋外彫刻プロムナードの作品を対象にしたツアー実施した。

「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来 館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えると ともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさ を分かち合う。

・ギャラリーツアー班の役割

作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

ギャラリーツアー登録ボランティア

17名(令和7年3月31日現在)

・実施日および研修日

実施日

毎月第1土曜日(13:30~、14:30~)

毎月第3土曜日(13:30~、14:30~)

※各回おおよそ30分程度で行い3作品程度を取り上げる。

※13:30の回は収蔵品展、14:30の回はロダン館を扱う。

※休館期間は除く。館内の別のイベントと重なる際も 休止となる場合がある。

研修日

原則、企画展開幕後の最初の休館日の午後のボランティア内覧会にて収蔵品展について研修を行う。ギャラリーツアー班個別では、2ヵ月に一回程度、定例会と勉強会を実施している。定例会では、対話型鑑賞についての学芸員による研修や今後の活動計画について話し合いを行う。勉強会では、ツアーの模擬練習などを行っている。

ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①ッアーで取り上げる作品について、文献等で各自自 主学習を行う。
- ②学芸員による研修会に参加。また実作品を前に、ボ

ランティア同士でディスカッションや予行演習を行 う(勉強会)。

③本番ツアー。ナビゲーター役1名の他、補助に1名 つき、参加者の誘導などを行う。終了後は、活動日 誌に記入。

・令和6年度 ギャラリーツアー実施実績

	実施回数	参加者数
新収蔵品展	6 回	61人
ピラネージとローマの景観	5 回	41人
描く、作る、変化する:ロダン - 《地獄の門》ができるまで	6 回	29人
異国への眼差し	2 回	45人
絢爛たる花鳥画	4 回	52人
ロダン館	20回	170人
彫刻プロムナード	3 回	13人
=+	46回	411人

■タッチツアー

タッチツアーは、目の不自由な方を対象とした、ロダン館とブリッジギャラリーで直接彫刻作品を触って鑑賞する体験プログラムである。平成6年のロダン館開館と同時に開始され、コロナ禍により、令和2年から令和5年9月頃まで活動を休止していたが、状況を鑑み、その後再開した。

このプログラムは希望される方からの申込による予約制で行われ、人数などの諸条件によってお断りする場合はあるものの、開館日であれば常時受けつけている。案内役となるのは、身体障がい者対応や彫刻鑑賞について研修を積んだ本プログラム専従の当館のボランティアで、ガイド役およびこれをサポートするアシスタント役がチームを組んで行う。ボランティアの都合がつかない際などは学芸員も行う。鑑賞可能な作品は、ロダン館およびブリッジ・ギャラリーに常設展示した51点のうち、触れても作品保全上問題ない14点を選定している。日頃美術作品を鑑賞する機会が少ない方々が多いため、初めての体験という場合も多く、好評を得ている。

タッチツアー登録ボランティア

14名(令和7年3月31日現在)

・令和6年度 タッチツアー実施実績 計4件

(単位:人)

			(—	1111
実施日	参加者	付添	対応	
大旭口		116%	ボランティア	学芸員
5月2日(土)	2	_	2	_
6月20日(土)	2	3	3	1
6月29日(土)	1	1	3	_
11月21日 (土)	3	3	2	1
計	8	7	10	2

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験講座

ちょこっと体験講座は来館した方が気軽に参加できる 申し込み不要、参加費無料の講座である。エントランス またはレストラン前の通路にて約15分程度でできる創作 体験を行っている。平成22年度に試験的に行い、平成23 年度から現在に至るまで続くイベントの1つとなった。

土曜日と日曜日を含む4日間を基本とし、本年度は館内で3回実施した。5月は当館収蔵品の紹介を兼ねて木版画の刷りの体験を行った。8月はカーボン紙を利用した銅版画体験を行い、紙に刷った所蔵作品にインクをつけたタンポで彩色する制作を行った。11月はロダンウィークに合わせてロダンの「考える人」をお湯で柔らかくなるプラスチック粘土で制作する体験を行った。

今年度についてはアクリル板のパーテーションの設置 や机・椅子の消毒などの感染症対策は行わず、従来の方 法での実施となった。

実施日	内 容	人数
5月3~6日	木版画の刷りの体験	616
8月9~12日	カーボン紙による銅版画体験	395
11月1~4日	プラスチック粘土を使って小さ な考える人をつくる体験 (ミニ考える人づくり)	355
年間12日間実施		1,366



■ 実技講座

実技講座は「鑑賞・制作を通して、新たな価値を見つけ、作品への理解を深める」ことを目標とし、できるだけ展覧会に関連づけた講座を実施している。

今年度は4回実施した。6月は普及スタッフが担当し、「テオ・ヤンセン展」と絡めて、身近な素材を使ってテオ・ヤンセン機構を実際に再現するというワークショップを行った。

8月は写真家の大塚敬太氏を講師に招き、「カナレット とヴェネツィアの輝き」展と絡めて、カメラ・オブスキュ ラの制作を行った。実際に自分でつくったカメラ・オブスキュラを使用し、風景画制作に活用することで、カナレットの時代に絵画制作の補助道具として使用されていたカメラ・オブスキュラの役割について考える機会となった。

11月は実技室スタッフの野呂美樹氏を講師に招き「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展と絡めた講座を実施した。展示作品に自画像や油彩画が多かったため、油絵の具に近いアルキド樹脂絵の具を使い、鏡を見て自分を描くという講座を行った。また、古典絵画技法の1つであるグリザイユ技法やマチェール剤の使い方など、様々な絵画技法を紹介することで、参加者各々が自分に合った表現を選択しながら描くことができた。

2月は日本画家の藤井聡子氏を講師に招き「石崎光瑤」 展と絡めた講座を実施した。この講座では絹本著色の光 瑤筆「霜月」という作品の模写を行った。膠や、胡粉、 水干絵具といった様々な日本画材を用いて絹に著色し、 繊細な線描やぼかしを多用した彩色法、裏彩色といった 絹ならではの特別な技法を用いることで日本画の世界を 体感してもらった。

実施日	内 容 <インストラクター>	人数
6月8日 6月9日	つくって知ろう!テオ・ヤンセン機 構 <普及スタッフ>	20
8月24日 8月25日	イメージからピクチャーへ カメラ づくりから考える <大塚敬太氏(写真家)>	10
11月30日 12月1日	自分を見つめる <野呂美樹氏>	12
2月1日 2月2日	絹に写す 光瑤の華 <藤井聡子氏(日本画家)>	10
年間8日間	引実施	52



■創作调間

創作週間は中学生以上の個人を対象に、実技室および

設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的 な創作活動を支援するプログラムである。

参加者はエッチング、リトグラフなど、大型プレス機 を使った版画制作、木版画、水彩画、日本画といった様々 な制作活動に取り組んでいる。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、 曜日固定で講師を招き、利用者への指導、相談、助言を お願いしている。

5月の「創作週間スペシャル」では、アステール総合 美術研究所の田村明彦氏を招き、デッサンの講座を実施 した。道具の使い方や姿勢といったデッサンの基礎を学 ぶことを目的とし、ロダン館デッサン会利用者の方々が 数多く参加されていた。

開室日数:61日

開室時間:10:00~16:30

インストラクター:日下文氏(日本画家)、藤田泉氏 (木版画家)、栁本一英氏(銅版画家)、田村明彦氏(ア

ステール総合美術研究所講師)

利用者数:475名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描き ながら鑑賞するプログラムとして、毎月2日間、創作週 間を行う週の金・土曜日に実施している。

継続して参加されている利用者の方が多い一方で、県 外からの来館者や美術を学んでいる学生なども参加され ており、幅広い層の方々が熱心に描く姿が見受けられた。

実施日数:24日

実施時間:10:00~16:30

参加者数:316名



■その他

その他に実施したワークショップとして、6月1日、 2日に行った浜名湖花博のイベントと9月23日に行った 移動美術展のイベントの2つがある。浜名湖花博では5 月のちょこっと体験と同様に木版の刷りの体験を行い、 移動美術展ではシルクスクリーンの刷り体験を行った。 どちらのイベントでも収蔵品に描かれている動物等を版 のデザインに取り入れることで、美術館の宣伝を兼ねた 体験に繋がった。

実施日	内 容	人数
6月1日 6月2日	浜名湖花博 木版画の刷り体験	110
9月23日	移動美術展 シルクスクリーンの刷り体験	121

実技•体験

■ねんど開放日

ねんど開放日は、実技室内で1 t 近い水粘土を用意し、 親子で楽しく創作活動や粘土遊びを体験するプログラム である。平成13年度から現在まで続いており、友の会か ら寄贈された土錬機を活用して実施している。

親子で楽しみながら参加してもらうため、こちらで細 かい指示は出さず、自由に創作してもらうことに重点を おいている。

非常に人気のあるプログラムであり、以前は混雑が発 生していたが、令和2年度からふじのくに電子申請サー ビスを活用した事前予約制に変更したことでスムーズな 受け入れが可能になった。午前午後の各回12組(60名程 度)で募集しているが、それを超える応募があるため、 ほとんどの場合、抽選で参加者を決めている。多いの時 は30組に迫る応募があった。

昨年度までは感染症対策の一部を踏襲して実施してい たが、今年度は特に制限を設けず従来通り自由に粘土に 触れ、創作を楽しんでもらった。今年度予定していた18 回すべて実施することができた。

実施日数: 9日(1日2回で18回実施)

実施時間:午前の部 10:00~11:45

午後の部 13:00~14:45

インストラクター: 増田洋子氏(美術作家)

場 所:当館実技室 参加者数:613名



■えのぐ開放日

えのぐ開放日は、大量の絵の具を使用して屋外テラス の石畳に自由に絵を描くプログラムである。3歳以上の 親子を対象としており、平成17年度から現在まで続いて いる。基本は屋外で実施しているが、高温・雨天時は室 内開催としている。

ねんど開放日と同様、ふじのくに電子申請サービスを

活用して募集しており、ほとんどの回で定員を超える応 募がきている。

昨年度はコロナ対策のため室内で実施していたが、今 年度は数年ぶりに屋外での実施が基本となり、参加者は 広々とした開放的な場で自由に描くことを楽しんでいた。 天候によって場所が変更することはあったが、予定して いた10回すべて実施することができた。

実施日数:5日(1日2回で10回実施)

実施時間:午前の部 10:30~12:00

午後の部 13:45~15:15

インストラクター: 増田洋子氏(美術作家) 所:当館屋外テラスまたは実技室

参加者数:220名



■わくわくアトリエ

わくわくアトリエは「いろんな素材をいろんなかたち に!」をテーマに、企画展に関連したワークショップを 実施するプログラムである。大人から小学生までを対象 としているため、幅広い層が楽しめる内容にしている。 平成26年度から始まり、現在まで続いている。企画展と プログラムとのつながりを感じてもらうために、展覧会 観覧や学芸員の解説を講座の中に組み込んで実施するこ とがほとんどである。

6月の「テオ・ヤンセン展」の際は静岡科学館る・く・ るの職員を講師として招き、風の力を利用して走る「ウ インドカー」を制作するワークショップを行った。同じ 素材を使っていても、形によって風の抵抗が異なること や進み方や距離が変わることを体感している姿が見受け られた。

11月の「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展 の際は「大好きな人を描く」をテーマに 2 人ペアで互い を描くワークショップを行った。スケッチだけで終わる のではなく、描いたものを元に紙の版をつくることで版 画制作につなげ、自分にとっての大好きな人を紙版画で 表現した。

2月の「石崎光瑤」展の際は、切り絵作家の福井利佐 氏を講師として招き、孔雀の羽を切り絵で制作するワー クショップを行った。展覧会観覧で実際に光瑤が描いた 作品を鑑賞した後、制作に取り掛かった。様々な色・形 から参加者それぞれが自分の考える「孔雀の羽」を表現 していた。



実施日	内 容 <インストラクター>	人数
6月30日	遠くまで走れ!ウィンドカー <関野葉水氏(静岡科学館る・く・る)> <藪嵜清香氏(静岡科学館る・く・る)>	19
12月8日	ちょきペタART!〜大好きな人と紙版画体験〜 <ヒダナナミ氏(美術作家)>	12
2月9日	切り絵ワークショップ〜孔雀の羽根 をつくろう〜 <福井利佐氏(切り絵アーティスト)>	45
年間3日	(計3回実施)	76

■夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、夏季休業で時間のあ る児童生徒を対象にしたプログラムであり、展覧会観覧 と制作を通して、つくることや鑑賞の喜びを感じてもら うことを目的としている。わくわくアトリエや実技講座 と同様に展覧会に関連した内容を実施することが多い。

今回は「カナレットとヴェネツィアの耀き」展に関連 した内容として、空想の街並みを描くというワークショッ プを行った。展覧会を鑑賞後、展示されていた作品の写 真の一部を切り取り、大型のロール紙に貼りつけた。そ こに参加者が考える「こんな街にしたい」という思いを 元に自由に絵や色を加えることで、空想の街並みを完成 させた。

実	施日	内 容 <インストラクター>	人数
8)	月 3 日 4 日	切り取って・合わせて・カプリッチョ! 空想の街並み <夏目幸弘氏(造形作家)>	5



学校連携普及事業(美術館教室)

美術館教室は、幼稚園・保育園、学校およびこれらに 準ずる施設の児童・生徒を対象とした教育普及プログラ ムである。実技や鑑賞、探求学習など、美術館で実施で きるさまざまな学習活動を、教育普及担当やエデュケー ショナルスタッフが支援する事業である。

■ねんど教室

「ねんど教室」は、園児、児童、生徒を対象に、水粘 土を使用し、体感的活動から個人制作、共同制作へと展 開していく造形遊びの要素を取り入れたプログラムであ る。多くの学校団体から好評であり、申し込み多数とな るため抽選で参加校を決めることがほとんどである。

昨年度はコロナ対策のため実施回数を制限した中での 開催となったが、今年度はコロナ前と同様の回数に戻し、 より多くの学校団体を受け入れて実施することができた。 プログラム終了後はロダン館や企画展の鑑賞を促し、多 くの子供たちが観覧を楽しむ姿が見受けられた。

教室終了後は昨年度同様、インストラクター、助手、 普及スタッフで振り返りの時間を設け、反省点や改善点、 今後のプログラムの実施方法について話し合った。

実施日	団体名	人数
5月8日	常葉大学附属たちばな幼稚園	29
5月8日	学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園	21
5月9日	アイグラン保育園 古庄	11
5月9日	静岡サレジオ幼稚園	31
5月10日	麻華こども園	20
5月10日	うど東こども園	25
6月26日	学校法人かえで学園かえで幼稚園	29
6月26日	社会福祉法人静岡隣人会保育園	25
6月27日	わらべ幼稚園	25
6月27日	静岡サレジオ幼稚園	26
6月28日	常葉大学附属たちばな幼稚園	28
9月4日	学校法人静岡田町幼稚園	22
9月4日	さくら幼稚園	29
9月5日	静岡市立西奈小学校	22
9月5日	船原幼稚園	21
9月6日	学校法人静岡田町幼稚園	25
9月6日	静岡市立井宮小学校 特別支援学級	20
10月2日	静岡市立清水高部小学校	26
10月2日	静岡市立清水高部小学校	28
10月3日	静岡市立清水有度第二小学校	21
10月3日	清水りんぽかんこども園	27
10月4日	静岡市立蒲原東小学校	14
10月4日	南藁科小学校	18

12月4日	丸子幼稚園	26
12月4日	静岡市立西久保こども園	16
12月5日	静岡市立南藁科小学校	23
12月5日	あけぼの保育園	29
12月6日	静岡市立駒形小学校	26
12月6日	あけぼの保育園	20
1月15日	静岡聖母幼稚園	30
1月15日	こすもすこども園	23
1月16日	かわはらいづみ幼稚園	15
1月16日	幼保連携型認定こども園日吉町保育園	25
1月17日	静岡市立蒲原西小学校	15
1月17日	静岡市立下川原こども園	24
2月12日	静岡市立足久保小学校	23
2月12日	あいわこども園	5
2月13日	静岡市立大里東小学校	19
2月13日	十七夜山しぶかわほいくえん	14
2月14日	八幡聖母幼稚園	30
2月14日	足久保こども園	18
年間日数	合計人数	924
21日	団体数	41



■えのぐ教室

「えのぐ教室」は、園児、児童、生徒を対象に、大量 の絵の具を使用して屋外テラスの石畳に絵を描くプログ ラムである。筆を使って点から線、面へと発展させなが ら描いたり、手にえのぐを塗ってスタンプして描いたり するなど、全身を使って楽しく描くことを重視している。 発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施しており、 学年が上がるにつれて少しずつ難易度を上げている。

ねんど教室同様、プログラム終了後はロダン館や企画 展観覧を促し、多くの子供たちに作品を鑑賞する機会を つくることを意識した。

昨年度はコロナ対策のため室内で実施していたが、今 年度は数年ぶりに屋外開催が基本となった。

ねんど教室同様、申し込み多数のため、4月に抽選を 行って受け入れを決めている。今年度は午後の枠に若干 の空きが発生したが、多くの学校団体を受け入れること ができた。

実施日	団体名	人数
5月22日	小百合キンダーホーム	23
5月23日	社会福祉法人静岡隣人会保育園	24
5月23日	学校法人脇谷学園静岡南幼稚園	25
5月24日	学校法人小野寺学園認定こども園るり幼稚園	30
5月29日	静岡市立中藁科こども園	9
5月29日	なでしこ保育園	7
5月30日	かわはらいづみ幼稚園	23
5月30日	学校法人脇谷学園静岡南幼稚園	23
- H01H	学校法人千代田学園幼保連携型認定	9.0
5月31日	こども園千代田幼稚園	36
5月31日	認定こども園東海幼稚園	16
с 🗆 10 🗆	学校法人千代田学園幼保連携型認定	10
6月19日	こども園千代田幼稚園	19
6月20日	牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校	31
6月20日	矢部こども園	18
6月21日	つくしんぼ保育園	23
6月21日	蛍ヶ丘保育園	26
9月11日	千代田保育園	30
9月11日	静岡市立南中学校 特別支援学級	19
9月12日	常葉大学教育学部附属橘小学校	37
9月13日	静岡市立清水船越小学校	13
9月13日	ゆりかご保育園	15
10月9日	静岡市立興津北こども園	12
10月9日	学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園	14
10月10日	静岡市立西奈南小学校	20
10月10日	相生保育園	15
10月11日	静岡市立長田北小学校	17
11月13日	袖師保育園	24
11月13日	学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園	17
11月14日	こぐま保育園	21
11月14日	静岡市立麻機小学校	20
11月15日	美和保育園	14
年間日数	合計人数	621
18日	団体数	30



■音のかけらワークショップ

当館収蔵品、金沢健一《音のかけら》を用いたワーク ショップである。

現代アート鑑賞のための重要なコンテンツではあるが、 設置場所の確保や運搬時の人手の確保などワークショッ プ実施にあたり事前準備が必要となり、手軽に実施でき る状態でないことが課題として挙げられる。

しかし、対象者を選ばず多くの方が参加することがで きるプログラムであるため、インクルーシブの視点から も今後、活用を増やしていきたいと考えている

今年度は沼津視覚特別支援学校が利用しており、数年 ぶりの実施となった。



実施日	団体名	
11月21日	静岡県立沼津視覚特別支援学校	7
年間日数	合計人数	7
1日	団体数	1

■ロダン館ななふしぎ

「ロダン館ななふしぎ」は、ロダン館にてロダン彫刻 にまつわるクイズを解きながら鑑賞するプログラムであ る。鑑賞者には7枚のカード渡し、カードに書かれたク イズを解いてもらいながらロダン彫刻を鑑賞してもらう。 終了後は別室で答え合わせを行いながら、簡単な作品解 説を行う流れとなっている。

答え合わせの際は、彫刻素材のことや鋳造の手法、作 品のエピソードなどにも触れるように配慮した。

実施日	団体名	人数
8月21日	めだかのがっこう 駿河校	9
9月5日	富士市立大渕第一小学校	99
9月27日	加藤学園暁秀初等学校	44
10月2日	静岡市立清水高部小学校	28
10月2日	静岡市立清水高部小学校	26
10月11日	アビニオンスクール	12
11月9日	めだかのがっこう 駿河安倍川校	8
2月20日	静岡大学教育学部附属特別支援学校	6
3月6日	静岡市立長田南中学校	25
年間日数	合計人数	257
9 日	団体数	9



■ 美術館の秘密をさぐれ!

普及スタッフがナビゲーターとなり、美術館の展示の 工夫や作品保護に関する話をしながら館内を案内するプ ログラムである。普段は見ることができない美術館の裏 側、施設の特徴や工夫を紹介することで、美術館が多く の人によって支えられていることを発見できる内容となっ ている。

今年度は4校の申し込みがあり、美術館にはどのよう な職業の方が在籍しているのか、どんな仕事をされてい るのか、ということも踏まえて説明した。

実施日	団体名	人数
6月7日	加藤学園暁秀中学校 • 高等学校	48
6月11日	聖隷クリストファー中学校	23
6月13日	静岡市立大里中学校	9
11月12日	静岡市立東源台小学校	23
年間日数	合計人数	103
4 日	団体数	4



■ロダン館スケッチ・デッサン

小・中・高等学校を対象とした、ロダン彫刻のスケッ チ・デッサン・クロッキーを行うプログラムである。細 部を観察して描くことで、通常の鑑賞では気付かないよ うな箇所にも眼を向けることになり、より深い鑑賞体験 につながることを狙いとしている。

実施日	団体名	人数
6月7日	加藤学園暁秀中学校・高等学校	48
7月5日	藤枝市立朝比奈第一小学校	17
10月24日	清水南高等学校芸術科美術専攻	20
2月11日	静岡県立浜松江之島高等学校	32
3月20日	静岡県立沼津西高等学校	22
年間日数	合計人数	139
5 日	団体数	5



■ボランティアスタッフとの鑑賞

園や学校の団体観覧時に、当館ボランティア(学校グ ループ)が鑑賞のお手伝いをするプログラム。

コロナ前は「ロダン館ななふしぎ」「美術館の秘密をさ ぐれ」などのプログラムと並行して実施することも多かっ た。

昨年度は学校からの依頼がなかったが、今年度は4校 の学校で実施し、ボランティアスタッフとの対話や解説

を楽しみながら鑑賞する姿が見受けられた。

実施日	団体名	人数
6月7日	加藤学園暁秀中学校 · 高等学校	48
6月11日	聖隷クリストファー中学校	23
7月5日	藤枝市立朝比奈第一小学校	17
9月27日	加藤学園暁秀初等学校	44
年間日数	合計人数	132
4 日	団体数	4



■職場体験

中学校では総合的な学習の時間の一貫として職場体験 を行うことがあり、各地域の事業所に体験を依頼してい る。年間としては数回だが、当館でも職場体験の受け入 れを行っている。内容としてはミューズスタッフの体験、 ミュージアムショップの業務補助、ねんど・えのぐ教室 の運営補助など、多岐にわたる業務を体験してもらって いる。また、施設内の見学や美術館の役割等の説明も含 むため、美術館に関する知識や見識を深めるという教育 的な意義のある活動となっている。

今年度は4校の学校を受け入れ、ミュージアムショッ プの業務補助やねんど・えのぐ教室の運営補助等の体験 をしてもらった。

実施日	団体名	人数
5月20日、	静岡市立清水第二中学校	2
21日、22日	护画印亚相水统一中子仪	4
10月2日、	 掛川市立大浜中学校	1
3 日	国州市亚八族中子权	1
11月21日、	 常葉大学附属橘中学校	2
22日	市朱八子的两個中子仅	4
11月26日、	 静岡市立東豊田中学校	2
27日	护 圆巾亚来豆田中子仪	4
年間日数	合計人数	7
9 日	団体数	4

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショッ プなどを指導したい教員を対象として、イベント補助や ねんど教室の参加・見学を受け入れている。また、当館 で行う夏季研修会や県内各地区の図工美術科教員の研究 会では講師を務めることもある。

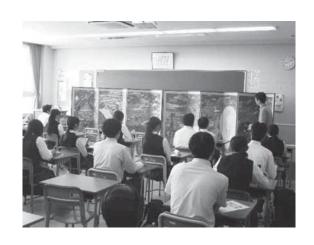
今年度も例年通り、県総合教育センター主催の研修会 を当館で実施した。

実施日	団体名	人数
7月25、	静岡大学附属特別支援学校	1
26日	那四八子的禹付 <u>加</u> 又饭于似	1
8月10、	静岡県立富士宮西高等学校	1
11日	时间烷立苗工石四同分子仪	1
8月20日	静岡県総合教育センター	20
8月24、	静岡県立静岡聴覚特別支援学校	1
28日	即叫宗立时叫 	1
年間日数	合計人数	23
7 日	団体数	4

■出張美術講座

出張美術講座では、普及スタッフと学芸員が学校に出 向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹 介やレプリカ教材 (屏風、掛軸、西洋画、考える人など) を使った対話型鑑賞授業などを行っている。今年度は5 校の学校を訪問し、レプリカを使用した対話型鑑賞、掛 軸の扱いを体験する授業、学校教員と連携した授業など を実施し、作品の解説、取り扱い方や作品保護に関する 話をした。

実施日	団体名	人数
9月17日	沼津市立金岡小学校	113
10月19日	東海大学附属静岡翔洋高等学校	75
11月29日	御前崎市立浜岡北小学校	28
12月2日	富士宮市立上野小学校	34
2月21日	静岡大学教育学部附属特別支援学校	7
年間日数	合計人数	257
5 日	団体数	5



■粘土・レプリカ・当館資料の貸し出し、授業協力

当館のねんど教室に参加できなかった学校や、自校で 同様の造形遊び体験を実践したいという学校を対象に、 粘土貸出を行っている。

また、その他の貸出教材として、当館の収蔵品のレプ リカや当館で作成したブロンズ彫刻の鋳造工程を解説し たDVDなども用意し、学校の図画工作科・美術科の鑑賞 分野の教材として活用してもらっている。その他に授業 に関する相談も受け付けている。

また、静岡福祉大学への授業協力として教員志望の学 生を対象にねんど教室の体験を実施し、教室の意義や教 育的効果について伝えた。

貸出日	粘土貸出 団体名	人数
4月12日	大岡小学校・大岡南小学校子ども会	200
5月18日	静岡市立梅ヶ島中学校	24
5月21日	藤枝市立瀬戸屋小学校	42
6月8日	静岡大学附属特別支援学校	6
6月9日	静岡県立藤枝特別支援学校	47
6月23日	静岡市立横内小学校	98
9月6日	三島市立西小学校	280
9月8日	静岡市立高部東小学校	82
9月15日	静岡県立藤枝特別支援学校	1
9月15日	島田市立島田第一小学校	11
9月15日	静岡県立御殿場特別支援学校	
9月17日	静岡県立静岡視覚特別支援学校	9
10月6日	静岡県立藤枝特別支援学校	20
10月13日	静岡市立南部小学校	104
10月17日	静岡県立静岡中央高校	80
10月22日	エンゼル幼稚園	63
10月29日	ふじみ幼稚園	171
11月20日	静岡市立清水江尻小学校	112
12月6日	東益津地域交流センター	50

1月11日	御殿場市立御殿場中学校	236
1月19日	焼津市立小川小学校	21
2月27日	オルタナティブスクール いろどり	10
合計人数		1,672
団体数		22

貸出日	レプリカ等貸出 団体名	人数
4月14日	三島市立北上中学校	125
5月3日	裾野市立深良中学校	129
6月9日	静岡県立中央特別支援学校	4
6月23日	富士市立富士中央小学校	86
9月6日	静岡市立服織小学校	58
10月26日	焼津市立港中学校	159
11月7日	富士宮市立伝法小学校	140
11月17日	富士宮市立吉永第一小学校	72
11月19日	静岡市立麻機小学校	63
1月8日	静岡県立沼津商業高等学校	67
2月21日	藁科生涯学習センター	20
合計人数		923
団体数		11



月日	授業協力 団体名	人数
7月6日	静岡福祉大学	15
合計人数		15
団体数		1

■アートカード貸出

平成27年度より、当館収蔵作品48作品をカードにした アートカードの貸出を開始した。貸出開始前の平成26年 度より教員研修等で実演や紹介を行っていたため、図工・ 美術科教員の研究授業や実践発表の題材として扱われる ことが増え、現在は学校現場への認知や利用が浸透して いる傾向にある。

主な使用目的は当館で団体観覧を行う前の事前学習や

鑑賞能力を高めるための補助教材としての活用すること である。目的や対象に応じた様々な使い方ができるため、 幅広い層が楽しみながら美術作品への興味関心をもつこ とができるツールとして多くの学校が利用している。

貸出日	団体名	人数
8月23日	富士市立大渕第一小学校	
9月8日	東海大学附属翔洋高等学校 • 中等部	
10月10日	静岡市立東中学校	257
11月23日	23日 静岡県立中央特別支援学校	
1月11日	1月11日 御殿場市立御殿場中学校	
1月19日	静岡学園中学校	93
合計人数		842
団体数		6



講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催し た。

■特別講演会・シンポジウム

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
8月10日	カナレット展 特別講演会「景観画の役割とは?近代ジャー ナリズムの始まり」	高梨光正氏(愛知県立芸術大学准教 授)	講堂	25 人
10月12日	無言館展 開幕記念講演会「絵好き・絵狂い・絵蒐め」	窪島誠一郎氏(無言館館主)	講堂	132 人
10月19日	無言館展 特別講演会「あなたなら、どんな自画像を描 きますか?」	森村泰昌氏(美術家)	講堂	54 人
10月26日	無言館展 (株)アイエイアイ プレゼンツ記念対談 「ふたつ美術館をつくった話」	窪島誠一郎氏、檀ふみ氏(俳優、エッセイスト)	講堂	175 人
11月9日	無言館展 特別講演会「戦争と食-関口清の『夢の落書 帳』をひもとく」	岡田裕之氏(わだつみのこえ記念館 館長)、渡辺總子氏(わだつみのこ え記念館理事長)、木下直之(当館 館長)	講堂	80 人
3月9日	石崎光瑤展 記念講演会「石崎光瑤 至高の花鳥画をもと めて」	渡邊一美氏(南砺市立福光美術館学 芸員•元副館長)	講堂	82 人

美術講座

■美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館館長、学芸員、外部講師によ る講座を開催した。

開催日	演題•内容	講師	場所	参加者数
5月26日	テオ・ヤンセン展 館長美術講座「連想、江戸のからくり・ 動物見世物」	木下直之(当館館長)	講堂	45 人
8月4日	カナレット展 学芸員美術講座 「カナレットの景観画とカメラ・オブス キュラについて」	新田建史(当館上席学芸員)	講堂	38 人
8月18日	カナレット展 館長美術講座「カメラ・オブスクラをめ ぐる話」	木下直之	講堂	42 人
9月15日	移動美術展 スペシャルトーク「現代アートに触れよ う」	大石歩真氏・兒玉絵美氏(無人 駅の芸術祭総合ディレクター、 植松篤(当館上席学芸員)	島田市金谷 生きがいセンター 夢づくり会館	15 人
11月17日	無言館展 館長美術講座スペシャル鼎談「お手伝い は見た、窪島誠一郎とは誰か」	窪島誠一郎氏、原田光氏(無言 館お手伝い、元岩手県立美術館 館長)、木下直之	講堂	230 人
2月15日	石崎光瑤展 学芸員美術講座「光瑤が古画に学んだこ と一若冲を中心に」	石上充代(当館学芸課長)	講座室	40 人
3月2日	石崎光瑤展 館長美術講座「日本画家はなぜインドを めざすのか」	木下直之	講堂	85 人

■フロア・レクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について当館学芸員が解説した。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月7日	収蔵品展 静岡の現代美術と1980年代	植松篤(当館上席学芸員)	展示室	4 人
5月11日	収蔵品展 新収蔵品展	南美幸(当館上席学芸員)、 植松篤	展示室	14 人
6月23日	収蔵品展 新収蔵品展	石上充代(当館学芸課長) 、 喜夛孝臣(当館上席学芸員)	展示室	28 人
8月6日	企画展 カナレット展(静岡文化芸術大 学学生向け)	新田建史(当館上席学芸員)	展示室	6 人
8月11日	企画展 カナレット展	新田建史	展示室	35 人
8月12日	企画展 カナレット展	新田建史	展示室	55 人
8月28日	企画展 カナレット展	新田建史	展示室	10 人
8月31日	企画展 カナレット展	新田建史	展示室	25 人
9月10日	企画展 カナレット展	新田建史	展示室	42 人
9月18日	企画展 カナレット展(自治研修所向け)	新田建史	展示室	36 人
9月22日	企画展 カナレット展	新田建史	展示室	52 人
8月11日	収蔵品展 ピラネージとローマの景観	新田建史	展示室	35 人
8月14日	収蔵品展 ピラネージとローマの景観	新田建史	展示室	32 人
9月21日	移動美術展	植松篤	島田市金谷 生きがいセンター 夢づくり会館	11 人
11月8日	企画展 無言館展	喜夛孝臣	展示室	24 人
12月6日	企画展 無言館展	喜夛孝臣	展示室	35 人
10月14日	収蔵品展 《地獄の門》ができるまで	南美幸	展示室	20 人
10月27日	収蔵品展 《地獄の門》ができるまで	南美幸	展示室	16 人
11月23日	収蔵品展 《地獄の門》ができるまで	南美幸	展示室	32 人
1月25日	企画展 石崎光瑤展	石上充代	展示室	40 人
2月11日	企画展 石崎光瑤展	石上充代	展示室	50 人
3月8日	企画展 石崎光瑤展	石上充代	展示室	45 人
3月16日	企画展 石崎光瑤展	石上充代	展示室	45 人
2月8日	収蔵品展 異国への眼差し	浦澤倫太郎(当館主任学芸員)	展示室	30 人
2月11日	収蔵品展 異国への眼差し	浦澤倫太郎	展示室	35 人
2月22日	収蔵品展 絢爛たる花鳥画	薄田大輔(当館主任学芸員)	展示室	42 人
3月30日	収蔵品展 絢爛たる花鳥画	薄田大輔	展示室	12 人

対外活動

■講座等

喜夛孝臣:・パネルディスカッション「再発見!津田青 楓の魅力!

【笛吹市役所一宮支所】1月28日(土)

・座談会「展示空間としての練馬区立美術館 | 【練馬区立美術館】3月23日(日)

川谷承子:・「水の絵「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶 則上展座談会

【フェルケール博物館】 4月27日(土)

・「対話型鑑賞 特別展「無言館と、かつてあ りし信濃デッサン館」」(美術による学び研 究会2024静岡大会)

【静岡県立美術館】11月4日(日)

・「美術館の持続可能な運営モデルとは?~ 寄附・寄贈の可能性」(NCARシンポジウ ム005)

【国立アートリサーチセンター】 3月7日(金)

「地域にアートは必要か?」(artscape) 【オンライン】 9月25日(水)、26日(木)

貴家映子:・「国際関係学部特別講座「モネ、ホイッス ラー、シニャックの描くヴェネツィア」」 【静岡県立大学】7月5日(金)

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のも とに以下の事業を行った。

1 役員会・総会を対面とオンラインによるハイブリッ ド会議で開催

日 時:令和6年5月21日(火)

役員会:13:30~14:30 総 会:15:00~16:30

会 場:静岡県立美術館 講座室

2 研修会・講習会の実施

2-1「加盟館園相互インタビュー 突撃!となりのミュー ジアム!」Vol. 4

日 時:令和7年12月16日(月)

会 場:静岡県立美術館 会議室

参加者:飯田杏子氏 (掛川市二の丸美術館)、白澤崇氏 (袋井市歴史文化館)、杉山侑暉氏(袋井市歴 史文化館) 髙塚真之氏(袋井市歴史文化館)、 島口直弥氏 (浜松市美術館)、薄田大輔 (静岡 県立美術館)

2-2「新しいミュージアムのかたち」

日 時:令和6年9月3日(火) 13:30~16:00

会 場:静岡県立美術館

参加者:50名

内容:令和2(2022)年4月の博物館法改正を受け、 博物館法改正の理念や、具体的な手続き等に ついて講習した。

「ミュージアムの未来、その理念と実践 |

講 師:中尾智行氏(文化庁 博物館支援調査官) 「静岡県における博物館登録及び指定審査に ついて

講 師:深谷一真氏(静岡県教育委員会社会 教育課)

「博物館法改正と文化資源」

講 師:木下直之(静岡県博物館協会会長・ 静岡県立美術館館長)

2-3「島田市 博物館・史跡見学会」

日 時:令和6年12月11日(水) 10:00~17:00

参加者:21名

内 容:島田市にスポットを当て、博物館や史跡等を めぐる会員向けバスツアーを実施した。 旅程:島田市博物館本館・分館、川越遺跡→ KADODE OOIGAWA→諏訪原城→ふじのく

に茶の都ミュージアム

2-4「博物館の防災 資料レスキューの実際」

日 時:令和7年3月12日(水) 13:00~16:00

会 場:沼津市民文化センター

参加者:32名

内 容:2024年元旦の能登半島地震から1年が経ち、 防災への事前の備えが重要であることが明ら かになっている。本講習会では、能登半島で の文化財レスキューや、当県の文化財等救済 ネットワークの現状についての報告の後、神 戸で始まった歴史資料ネット組織についての 講話を聴講し、更に水損資料の応急処置につ いての実技を講習した。

報告:「能登半島資料レスキュー参加記」 新田建史氏(静岡県立美術館上席学芸員、静 岡県博物館協会事務局)

報告:「静岡県の歴史資料を守るための第一歩―課 題と実践一」橋本充悠(浜松市博物館学芸員、 静岡県博物館協会事業推進グループ)

講 話:「歴史資料ネットワークの風水害対策―水損 資料処置の20年一」松下正和氏(神戸大学地 域連携推進本部特命准教授)

実 習:「水損資料の応急処置」講師 松下正和氏

- 3 地域セミナーの開催
 - ベルナール・ビュフェ美術館 「わたしのパリ―エッフェル塔を作ろうし
 - ・公益財団法人佐野美術館「村上康成の世界展」関連 イベント「ワークショップ 命かがやく」
 - ・掛川市二の丸美術館「掛川城・横須賀城・高天神城 のすべて|
 - ・浜松科学館「科学の学園祭2024」
- 4 静岡県博物館協会研究紀要 第48号の刊行
- 5 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営
- 6 防災事業の実施
 - ・加盟館園目録等データバックアップ事業:2015(平 成27) 年3月から継続
 - 災害時連絡網稼働
 - 防災用資材配備
- 7 広報及び情報交換 随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。
- 8 事業推進グループによる事業の推進
 - ・事業推進グループ会合 4回開催 令和6年6月19日(水)、9月3日(火)、12月11日 (水)、令和7年3月12日(水)

■その他

石上充代:・ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術 部門美術展審査員

- ・ふじのくに子ども芸術大学 実行委員会委員
- ・静岡市生涯学習センター主催講座講師

新田建史: • 「能登半島地震被災文化財等救済事業参加」 4月29日(月)~5月3日(金)、10月27日 (金)~11月4日(月祝)、12月13日(金)~ 17日(火)、2月23日(日)~27日(木)

喜夛孝臣: • 実践女子大学非常勤講師

植松篤:・ふじのくに芸術祭障害者文化芸術部門 審査 員

川谷承子:・静岡大学非常勤講師「〈現代〉の芸術―文 学•演劇•美術」

貴家映子: • VOCA 2025 展推薦委員

ロダン館展示・イベント

■趣旨

平成26年度、ロダン館開設20周年を一層活性化させる ためのキックオフ事業として、地域や大学等と連携した 「ロダンウィーク」事業を開始した。ロダン作品32体を擁 し、国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい作 りを目的に、「ロダンウィーク」は例年事業として定着し ている。期間中はロダン館、収蔵品展の入場料を無料と し、様々なイベントを開催することで、ロダン館への入 館者増、知名度の向上を図っている。

■概要

名 称:ロダンウィーク2024

日 時:令和6年11月1日(金)~11月4日(月・振

休)

場 所:静岡県立美術館

■実施イベント

• 斤の上のロダンマルシェ

日 時:11月3日(日)10:00~16:00

場所:正面広場ほか

内 容:草薙マルシェ実行委員会によるフランス風 グルメ、雑貨市18店舗、アートパフォーマ ンスで18名が出店。

参加者:5,300人

• 友の会「友の会ひろば」

日 時:11月3日(日)10:00~15:00

場 所:正面玄関前

内 容:常葉大学の学生による消しゴムはんこ制作 指導

参加者:35人

友の会「作家のワークショップ」

日 時:11月3日(日)10:00~15:00

場所:正面玄関前

内 容:作家のワークショップと販売、作品販売

参加者:延べ人数 約195人

• 「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート

日 時:11月3日(日)13:30~14:30

場所:ロダン館

出演者:川本奈緒氏(ソプラノ、第27回「ロダン賞」

受賞者)、冨田愛佳氏(ピアノ)

演奏曲:C.シューマン:《フリードリヒ・リュッケ

ルトにより3つの詩》op.12 より 第2曲<美しさゆえに愛するのなら> 猪本隆:アフリカの子 ほか

協 力:静岡音楽界AOI

指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

入場者:242人

・美術館クイズラリー

日 時:11月3日(日)10:00~15:00

場所:収蔵品展示室、ロダン館(回答用紙配布は

収蔵品展入口・ロダンマルシェ会場)

参加者:545人

景 品:オリジナル缶バッジなど

コンサート「身体、躍動、リズム! |

日 時:11月4日(月・振休)14:00~15:00

場所:ロダン館

出演者:山本晶子氏(マリンバ&打楽器)、後藤友香

理氏(ピアノ)、長谷川慶岳氏(作曲)

演奏曲:J.ブラームス:《ハンガリー舞曲》第5番

長谷川慶岳:ピアノと打楽器のための新作

ほか

協 力:静岡大学

入場者:202人

ちょこっと体験「ミニ考える人づくり」

日 時:11月1日(金)~4日(月・振休)10:00~

 $12:00, 13:00\sim15:00$

場 所:エントランスホール

内 容:プラスチック粘土を利用したミニ考える人

制作体験

参加者:355人



▲ロダンウィークチラシ

美術館ボランティア・広報サポーター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の昭和60年 から募集と研修を始め、昭和61年4月の開館と同時に活 動を開始した。以来、美術館と来館者との懸け橋となる べく活動を続けている。平成21年には組織改革と再募集 を行い(「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82~84を 参照)、平成22年4月からは、3年の任期制を導入したう えで新体制により活動を行ってきた。令和3年度末も活 動任期3年目を迎えたが、コロナ禍でボランティア活動 を十全に行えなかった状況を鑑み、新規募集は実施せず、 任期を1年延長した継続希望者により令和4年度も引き 続き活動を行った。

令和5年度の募集時には参加のハードルを下げること を企図してボランティア体制を一新。任期を1年(更新 可能)にすると同時に、資格年齢を20歳から18歳に引き 下げ、学生など若年層も参加しやすい体制とし、125名が 登録、活動を行った。令和7年度の募集も本体制を継続 し、選考と研修の結果、145名をボランティアとして登録、 令和7年度4月より活動予定である。

•活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、 来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ懸け橋として活動 する。そのために次の3つを活動方針として定めている。

- (1) 来館者サービス充実
- (2) 美術館運営支援
- (3) 地域連携推進

・活動内容、グループ

(1) 全ボランティア共通の活動

当館ボランティアは、それぞれが属する地域、家庭、 職場などにおいて、当館の情報を提供することにより、 美術館の広報活動の一翼を担うとともに、美術館と地域 とを結びつける役割を果たしている。この活動を促進す るために、当館では、企画展ごとにその内容を、いち早 く知ってもらうためのボランティア向け内覧会を開催し ている。これは原則として各会期の最初の休館日に、担 当学芸員が展覧会概要や作品解説を行うものである。

(2) 各グループの活動

現在7つのグループに分かれて活動している。図書閲 覧室グループと学校グループ(令和6年度より)のみ他グルー プとの兼任を可としている。

①図書閲覧室グループ 53名

図書閲覧室の受付や図書の整理が主な活動。閲覧室に おいて利用者の請求に応じて閉架図書の出納業務を行う。 また、開催中の企画展に合わせて、関連図書コーナーを 閲覧室内に設置している。

②学校グループ 20名

学校などの団体観覧の際、館内誘導や展示室での子ど もたちの話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示 室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見る 力を引き出す。

③実技室グループ 13名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技 室イベントは、絵画のワークショップや粘土開放日など 多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、 イベント終了後の清掃作業など、労務が多い。そのため、 ボランティアのマンパワーが大変有益となっている。

④ギャラリーツアーグループ 17名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞 する。解説形式は当館学芸員の行うフロアレクチャーな ど様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティ アと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形 式を採る。

⑤タッチツアーグループ 14名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム 「タッチツアー」のガイド役を行う。身体障がい者対応や 彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチツアー」の申込 みがあった場合に、参集して活動する。

⑥資料整理グループ 25名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の 美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシを 整理、掲示し、一般来館者へ情報提供を行う。また作家 からの個展のダイレクトメールなどを分類の上、専用の キャビネットに保管するとともに、クラウド型のデータ ベースサービスI.B.MUSEUM SaaSヘデータを入力し、 貴重なアーカイブを形成している。このアーカイブは、 学芸員の研究活動に利用されているとともに、当館ウェ ブサイトのデジタルアーカイブページにおいても一般公 開されている。

⑦地域連携・草薙ツアーグループ 10名

「地域と美術館を結ぶ」ことを目的として、様々な活 動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草 薙のんびりツアー」や、美術館プロムナードにある「杉 山彦三郎記念茶畑」の手入れを行う。またその茶畑を活 用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービス なども行っている。

規約、ルール

ボランティアは、館が定めた「設置要綱」「活動要綱」 「活動基本ルール」(令和4年度更新)に基づいて活動し ている。ボランティアには、報酬、旅費などの支給はな い。ただしボランティア保険については美術館が負担し ている。ボランティアの自己研修と広報活動のために、 展覧会は無料で観覧することができる。

組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティ アを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身 による自主的な組織化は行っておらず、ボランティア会 長や代表などは置いていない。

• 活動頻度

グループごとに活動頻度を定めて募集しており、グルー プによって頻度や時間は異なる。

ボランティア募集

令和7年度の任期に向けて募集を行った。今回の一般 募集はタッチツアーグループ以外の6グループで行った。 11月上旬に募集要項を県内各所へ配布し、当館ウェブサ イトやSNSにおいて告知を行った。締切日の12月19日ま で、ふじのくに電子申請サービス、郵送、FAXにて応募 を受け付けた。応募は、新規、更新あわせて156名あった。 タッチツアーグループについては、本年度登録者を対象 に更新の希望を募り、14名が更新した。

書類選考および新規応募者を対象とする面接選考を実 施の後、2月から3月にかけて、新規応募者を対象とし た研修と応募者全員を対象とした研修を全2回行った。 来館での参加が難しい応募者に対しては、研修の様子を 映像に記録し、インターネットによる限定配信の視聴お よびレポートの提出をもって、来館での参加に代えた。 研修受講は登録の必須条件とした。最終的に応募者の中 から145名を登録した。

(1) 説明会

日時:12月8日(日)14:00~14:30

場所:当館講座室

(2) 研修

第1回

日時: 2月23日(日)または2月26日(水)13:30 ~16:20 (どちらか1日を選択)

場所: 当館講堂、館内各所

対象:新規応募者

内容:オリエンテーション(貴家)13:30~14:00 県立美術館について(石上)14:10~14:50 来館者対応について(当館監視スタッフ 小木

> 曾友紀氏) 15:00~15:50 施設見学(貴家)16:00~16:20

第2回

日時: 3月8日(土) または3月12日(水)(どちら か1日を選択)

場所:当館講堂 対象:全応募者

内容:オリエンテーション(貴家)13:30~13:45 美術館のアクセシビリティ(貴家)13:50~

14:40

各グループで研修(各担当)14:50~15:30

(3) 結果

ボランティア登録者 145名

図書閲覧室グループ (単独) 31名(兼務) 20名 51名

学校グループ (単独) 8名(兼務) 18名 26名

(単独) 10名(兼務) 9名 実技室グループ 19名

タッチツアーグループ (単独) 9名(兼務) 2名 11名

地域連携・草薙ツアーグループ

11名

資料整理グループ (単独) 30名(兼務) 2名 32名

ギャラリーツアーグループ

(単独) 19名(兼務) 3名 22名

■ 広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度 から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、 平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに 伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その 結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦 解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる 役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」 とし、新たに募集を行った。

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解 いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報 をサポートしていただくもので、美術館から随時お送り する展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベン ト情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校な どに広く美術館の情報を広めていただくことを目的とし ている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展 覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティ ア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとし ている。

近年主要な広報手段が紙媒体からSNSに移りつつある ことや、広報サポーターの活動内容と当館ボランティア 体制との相違をふまえ、令和6年度末をもって、広報サ ポーター制度の変更を行った。広報サポーターをボラン ティアの枠組みから切り離し、ポスター等の掲示を依頼 する通常の広報物依頼先と統合した。

友の会活動

■諸会議

· 理事会 · 評議員会

日時:5月28日(火)

場所:静岡県立美術館 講座室

(1) 役員の改選

(2) 令和5年度事業報告、決算報告

(3) 令和6年度事業計画案、予算案

(4) その他

・会長・副会長への事業報告会

(1) 日時:10月1日(火)

場所:当館会議室

• 事業報告

・その他

(2) 日時:1月23日(木)

場所:当館応接室

事業報告

・ 令和 7 年度事業について

• その他

(3) 日時: 3月27日(木)

場所:当館会議室

事業報告

・ 令和 7 年度事業について

• その他

• 事業委員会

当館会議室等 12回開催

• 会報委員会

当館会議室等 16回開催

■実技講座

• 実技講座「ジャガイモを素材とした人体頭部の彫刻」

日時: 3月8日(土)、9日(日)2日間

場所:当館実技室

3Dスキャナーによる画像記録をもとにした彫

刻制作と撮影

講師:夏池篤氏 参加人数:8名

3 講演会(イベント)等の開催

・企画展ごとの会員向けレクチャー

(1) 「テオ・ヤンセン展」

日時: 5月19日(日) 参加人数:8名

(2) 「カナレットとヴェネツィアの輝き」

日時: 8月31日(土)

*台風10号接近のため中止

(3) 「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」

日時:12月6日(金)

参加人数:12名

(4) 「生誕140年記念 石崎光瑤」

日時: 2月11日(祝•火)

参加人数:13名

・木下直之館長講座「人はなぜ肖像を求め、画家はなぜ

自画像を描くのかし

日時: 9月16日(祝・月)

場所:当館講座室 参加人数:30名

「友の会ひろば」

(1) 消しゴムスタンプづくり

日時:11月3日(日)

場所: 当館正面広場

参加人数:消しゴムスタンプづくり 35名

常葉大学造形学部の協力 学生6名

(2) 県内作家によるワークショップと作品販売

日時:11月3日(日) 場所:当館正面広場 参加人数:約200名

■研修旅行

・「春の美術館巡り」

日時: 4月24(水)~25日(木)1泊2日旅行

場所:京都国立博物館、京都市京セラ美術館、国立国

際美術館、大阪中之島美術館

参加人数:21名

・「木下館長と行く 秋野不矩美術館・ねむの木こども

美術館 |

日時: 3月23日(日) 参加人数:25名

■友の会美術館支援事業

各種実技支援事業

■情報資料の作成と提供

・友の会だより「プロムナード」発行(各800部)

(1) 第109号(4月5日発行)

アトリエ訪問:十時孝好氏(アーティスト)

(2) 第110号 (10月 4 日発行) アトリエ訪問:NAKANO yasuhiro氏(メディアアー ティスト)

・情報の提供

- (1) 美術館ニュース「アマリリス」郵送(年4回)
- (2) 各種催事の情報提供
- (3) 当館情報コーナー掲示板での情報提供
- (4) 友の会ホームページ 講座講師やアトリエ訪問作者等の友の会事業関連作 者展覧会の案内等掲載

■特定非営利活動法人キッズアートプロジェクトしずおか

• 令和 6 年度事業休止後解散

組を抽選により会員に提供

■その他の事業

・提携等県内美術館との連携 提携美術館(静岡市美術館、駿府博物館)を始めと する県内美術館(静岡市立芹沢銈介美術館)が開催す る企画展チラシを会員に配布するとともに、招待状10

- ・美術館と三井住友信託銀行共催イベント協力 「美術館で絵画展とワインを愉しむ相続セミナー」 日時: 9月27日(金)
- 県立美術館のクラウドファンディングへの支援 友の会募金会計より10万円支援

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5月25日 改正 平成14年 6月16日 改正 平成20年 2月27日 改正. 平成24年 2月28日 改正 平成27年 4月1日 改正 平成29年 4月1日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本 会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。 (目的)

- 第3条 本会は、以下を目的として活動する。
 - (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を 通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら 生活の質を高める。
 - (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員 相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振 興に貢献する。
 - (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地 域社会との架け橋の役割を担い、地域をパート ナーとする経営を標榜する県立美術館との協働 を行う。

(事業)

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業 を実施する。
 - (1)展覧会鑑賞プログラム
 - (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会 等の開催・後援
 - (3) 会員への各種情報提供
 - (4)会員相互交流のためのプログラム
 - (5) 静岡県立美術館との事業協働
 - (6)地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
 - (7) その他必要な事業

(財務)

- 第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。
 - (1) 会費
 - (2) 事業に伴う収入
 - (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

- 第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、親子(キッ ズ)会員、学生会員、シニア会員、及び賛助会員とす る。
 - (1)70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、 シニア会員を選択することができる。
 - (2) 高校生・専門学校生・大学生は、学生会員とす
 - (3)会員資格の有効期限中における会員種別の変更 は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特 典を受けることができる。

(会員の資格)

- 第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手 続きを行って会費を納入した者をいう。
- 2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員 から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するも のとし、その後も同様とする。

(年会費)

- 第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、 納入された年会費は、理由の如何を問わず返還 しないものとする。
- 2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応 じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落と し用口座等の届出事項に変更があった場合は、 速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行う こととする。

(会員証)

- 第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行
- 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することは できない。

(会員証の紛失、盗難)

- 第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速 やかに事務局にとどけでるものとする。
- 2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生 じた会員本人の不利益又は損害については、一切の 責任を負わない。

(退会)

- 第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することが できる。
- 2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期 限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌 年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、 その事業年度の開始前に理事会の承認を得なけ ればならない。
- 2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しよう とするときは、理事会の承認を得なければならない。 ただし、軽微な変更については、この限りではない。 (事業報告及び収支決算)
- 第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、 監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月 以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2)副会長 1人
- (3)理事(会長及び副会長を含む)10人以内
- (4) 評議員 15人以内
- (5) 監事 2人
- 2 理事及び監事は、評議員会おいて選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事及び評議員は、監事を相互に兼ねることができる。

(役員の職務)

- 第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

(役員の任期)

第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨 げない。

(専門委員会)

- 第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画 等の検討を目的とした専門委員会を置く。
- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。 (事務局)

第20条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

(顧問)

第21条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、 理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

- 第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。
- 第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって 構成する。
- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

(会議の権能)

- 第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、 本会の運営に関する重要事項を議決する。
- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会 長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、 必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に 建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条 に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評

議員会の意見を聴かなければならない。

(会議の開催)

- 第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。
 - (1)会長が必要と認めたとき。
 - (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。
- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。
 - (1)会長が必要と認めたとき。
 - (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があった とき。

(会議の定足数)

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

(会議の議長)

- 第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。
- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した 評議員のうちから選任する。

(会議の議決)

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数 の同意をもって決し、可否同数のときは、議長 の決するところによる。

(書面の決議等)

- 第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。
- 第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 会議の日時及び場所
 - (2) 構成員の現在数
 - (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
 - (4) 議決事項
 - (5) 議決の経過の概要及びその結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員の うちから、当該会議において選任された議事録署名 人2人以上が署名押印しなければならない。

(替助会員)

- 第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。
- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理 事会の議決を経て別に定める。

(会則の変更)

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の 3以上の同意を得なければ、変更することがで きない。

(解散)

- 第33条 この会は、理事会において理事の 4 分の 3 以上 の同意を得たときに解散する。
- 2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決に

よりその使途を定めるものとする。

(雑則)

附則 この変更は、平成29年4月1日から施行する。

第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関 して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定 める。

附則

この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附則

この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附則

- 1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
- 2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4 項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるもの とする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわら ず、平成20年3月31日までとする。

附則

この変更は、平成24年2月28日から施行する。

附則

この変更は、平成27年4月1日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係)会員の特典

会員の種類 特典の種類	一般会員	親子 (キッズ会員)	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	5枚	2枚
2 企画展ごと招待券	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚
3 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観 覧可能	0	0	0	○ (同伴 4 名まで)	0
4 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	0	0	0	○ (同伴 4 名まで)	0
5 友の会だより「プロムナード」(年 2 回)、 美術館ニュース「アマリリス」(年 4 回)、その他、各種情報を郵送	0	0	0	0	0
6 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等、企画展ごとのフロアレクチャー、友の会主催の事業に参加可能	0	0	0	○ (同伴1名まで)	0
7 会員証提示により、県立美術館内レストラン「ロダン・ テラス」のランチ料金が会員本人と同伴者1名5%引	0	0	0	0	0
8 会員証提示により、県立美術館内のミュージアムショップの利用補助	0	0	0	0	0
9 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				○ (同伴1名まで)	

⁽注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係)年会費

会 員 区 分	年 会 費
一般会員	(1名) 5,000円
親子(キッズ会員)	(1名) 3,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	(1口) 50,000円

広報活動(ウェブサイトを含む)

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、各メディアを通じた広報活動を行ってきた。平成8年度には公式ウェブサイトを開設し、その後もリニューアルを繰り返して、展覧会等に関する広報の要となっている。近年ではSNSも複数運用し、幅広い対象に情報発信を行っている。

ここでは、ポスター・チラシなど主要な広報活動とともに、ウェブサイトの運営やSNSの活用について記載する。

■主要な広報活動

- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り(JR掲示 専用のポスターを展覧会ごとに製作)
- ・ウェブサイトへの情報掲載
- ・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、各メディアへ 提供するとともにウェブサイトに掲載
- ・展覧会ごとの共催社(新聞社・テレビ局)、協賛社(J R東海)との連携
- ・広告掲載、テレビスポット放映
- ・特集紙面、番組への協力
- ・ラジオ番組出演での広報活動(FM-Hiほか)
- ・ボランティア向け内覧会の実施
- ・広報サポーターへの情報提供 (ポスター・チラシを送付し、口コミでの広報を依頼)
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供

■広報委員会

企画総務課、学芸課、文化政策課の担当職員から構成され、不定期に館内で会議を開き、アマリリスの編集などを主な業務としてきた。平成29年度に活動内容を大幅に見直し、より戦略的に広報活動を行う方針となった。

現在は、アマリリスの編集、各展覧会の広報サポート、次年度年間スケジュールの製作を行っている。これらの他、令和元年度よりロダンウィーク期間に合わせて、開催中の企画展または収蔵品展を題材としたクイズラリーを、広報委員を中心に実施している。これはロダンマルシェ来場者を展示室へ誘導することを目的に始まったものである。現在では、ボランティアの協力も得ながら、ロダンマルシェ当日に開催し、入館者数の増加に一定の効果を見せている。

■ウェブサイト

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

当館ウェブサイトは、平成8年度末に開設された。平成28年度までの累計アクセス数は4,078,414件であった。

平成28年度末のウェブサイトリニューアルに伴い、アクセス数の集計方法も変更となり、現在は Google Analytics を使用している。

本年度は過去3年に比して、各数値が大幅に伸びた。 これは主に、テオ・ヤンセン展会期中、同展紹介ページ に多数のアクセスがあったことに起因するとみられる。 また7月に放映されたNHKの「日曜美術館」の中で、伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》が取り上げられた直後に、同 作品の紹介ページに、閲覧数の急激な増加が認められた。

令和6年4月1日~令和7年3月31日の実績

ユーザー449,636セッション679,659表示回数1,495,743

(参考)

令和5年4月1日~令和6年3月31日の実績

ユーザー320,115セッション455,141表示回数1,062,287

令和4年4月1日~令和5年3月31日の実績

ユーザー 356,791セッション 530,544ページビュー数 1,240,277

令和3年4月1日~令和4年3月31日の実績

ユーザー291,457セッション401,835ページビュー数938,877

SNS

現在、3種のSNSを運用中である。展覧会広報のため、展示の見どころや作品の紹介、ワークショップの記事を投稿している。

本年度は、これらに加えて、テオ・ヤンセン展と石崎 光瑤展会期中にInstagramで有料広告を掲出した。また、 特に注目を集めた投稿としては、テオ・ヤンセンの作品 (ストランド・ビースト)が歩行する姿を捉えた映像など が挙げられる。

Facebook

https://www.facebook.com/shizuokakenbi/

• Instagram

https://www.instagram.com/shizuokakenbi/

• X (I∃Twitter)

https://x.com/shizuokakenbi

デジタルアーカイブによる情報発信

デジタルアーカイブとは当館ウェブサイト上で公開し ている収蔵品、蔵書、現代美術関連資料を対象とした検 索システム、および高精細画像、ヴァーチャルリアリティ (以下VR)、動画などの総称である。 令和3年度に製作 し、同年度末に公開した。製作に至るまでの経緯、製作 過程、担当業者などは令和3年度年報を参照のこと。

■デジタルアーカイブ・ポータルページ

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/

各コンテンツを集約した、デジタルアーカイブの中心 となるウェブページ。検索システムの検索窓、作家別イ ンデックス、高精細画像、VR、コレクション選、動画 へのリンクなどを設置。

■収蔵品等検索システム

https://jmapps.ne.jp/spmoa/

クラウド型のI. B. Museum SaaS (以下IBMS) を導 入。収蔵品、蔵書、現代美術関連資料等のデータを管理 するとともに、その一部をインターネット上で公開して いる。

• 収蔵品

当館の所蔵品に関するデータベース。公開以降も随時 登録済みデータを修正している。

図書

当館の蔵書に関するデータベース。公開対象は全蔵書 のうち、美術関連の単行本や展覧会図録が中心。受け入 れた図書は随時、登録・公開している。

• 現代美術関連資料

現代美術作家の画廊等での展示記録に関するデータベー ス。当館ボランティアによって入力作業が行われている。 全国各地の画廊や作家などから当館宛に送付された展示 案内などのダイレクトメールからデータを抽出している。

■高精細画像

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/taiga/ 池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屛風》 (重要文化財) の任意の場所を自由に拡大して閲覧することができる。

V R

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/digital_archive/rodin/ オーギュスト・ロダン《地獄の門》のVRコンテンツ。 実際の展示空間では不可能な角度や高度を含む、様々な 視点からの観察を疑似体験させるとともに、モデルの各 所に部分解説を付けることで、作品理解の補助となるツー

ルと位置付けている。

■オンライン教育鑑賞プログラム

令和3年度にデジタルアーカイブの一部として製作し た池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屛風》の高解像度画像 とオーギュスト・ロダン《地獄の門》のVRを用いた、 学校で利用されることを想定した鑑賞教育プログラム。 ふじのくに文化教育プログラム推進事業費により、令和 4年度後半より本格的に製作に着手した。《蘭亭曲水・ 龍山勝会図屏風》は小学生向け、《地獄の門》は中学生 向けとして開発を進め、館内で検討するなかで、児童・ 生徒が既存のコンテンツをタブレットで閲覧する形式と した。更に教員からの意見聴取、小中学校での試行を経 て、プログラムの内容と手順を示した教員向け利用ガイ ドと、児童・生徒向けワークシートを完成させた。令和5 年度4月より公開した。

■コレクション選

以前からウェブサイト内に存在した収蔵品に関するペー ジを、デジタルアーカイブの中に再構成した。

・ 風景の交響楽

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/symphony/ 平成18(2006)年に発行した収蔵品をテーマ別に紹介 する名品集を、ウェブページ化したコンテンツ。今年度 は作品画像を追加するなどの微調整を行った。

• ロダン館

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/rodin/ かつて当館ウェブサイト本体とは異なる独自のフォー マットで製作されたロダン館特設ページを改装したもの。 ロダン館やブリッジギャラリーに設置されている彫刻作 品を紹介。

• プロムナード

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/exhibition/outdoor/ 当館敷地内にある彫刻プロムナードに設置された作品 を紹介。

• 伊藤若冲《樹花鳥獣図屛風》

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/jakuchu/ 人気の高い同作について、基本情報や直近の展示情報 を紹介するページ。Google Artにて公開中の高精細画像 へのリンクも掲載。

■スペシャル動画

デジタルアーカイブの公開に合わせて制作・準備され た映像。所蔵作家へのインタビューなど。詳細は令和3年 度年報を参照のこと。

■観光デジタル情報プラットフォームへの対応

県の観光振興課が推進するプラットフォームを利用し、 当館周辺の観光スポットを表示させる機能を、デジタル アーカイブ内「風景の交響楽」や「プロムナード」に実 装している。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラーで発行した。

第153(春)号 2024年4月1日発行

- 表紙 鈴木慶則《非在のタブロー 梱包さ p. 1 れたオダリスク》/上席学芸員 川谷承子
- TOPICS 1 天地耕作雲散霧消/館長 木 p. 2 下直之
- EXHITIBITION 1 テオ・ヤンセン展/ p. 3 主任学芸員 浦澤倫太郎
- 新収蔵品の紹介 p. 4 - 5
- 研究ノート 南画家・池田桂仙と浜松/主 p. 6 - 7 任学芸員 浦澤倫太郎
- 本の窓『近代を彫刻/超克する』小田原の p. 7 どか著、講談社、2021年/上席学芸員 植
- 美術館問わず語り 思い出の場所/企画総 p. 8 務課 三輪 桂

第154(夏)号 2024年7月1日発行

- 表紙 ジェームズ・アボット・マクニール・ p. 1 ホイッスラー《小さなヴェネツィア》/上 席学芸員 貴家映子
- TOPICS 1 美術館の穴とでっぱり/館長 p. 2 木下直之
- TOPICS 2 クラウドファンディング アー p. 3 トとみどりの散歩道再生プロジェクト/静 岡県立美術館クラウドファンディングチー
- EXHIBITION 1 企画展 カナレットとヴェ p. 4 ネツィアの輝き/上席学芸員 新田建史
- EXHIBTION 2 収蔵品展 ピラネージと p. 5 ローマの景観/上席学芸員 新田建史

- p. 6 7 研究ノート 中村宏の少女イメージについ ての考察/上席学芸員 川谷承子
- 本の窓『微隕石探索図鑑』ヨン・ラーセン p. 7 著、野口高明•米田成一訳、武井摩利監修、 創元社、2018年/上席学芸員 喜夛孝臣
- 新しい職場と出会い/主任学芸員 薄田大 p. 8 輔

第155(秋)号 2024年10月1日発行

- 表紙 速水御舟《芍薬図》/学芸課長 石 p. 1 上充代
- TOPICS 1 チャカホイ節が聴こえてくる p. 2 /館長 木下直之
- TOPICS 2 ロダン館でのかけがえのない p. 3 「いま、ここ」/ピアニスト・静岡大学教育 学部准教授 後藤友香理
- EXHIBITION 1 無言館と、かつてありし p. 4 信濃デッサン館展 一窪島誠一郎の眼/上 席学芸員 喜夛孝臣
- EXHIBTION 2 ロダン館30周年記念収蔵 p. 5 品展《地獄の門》ができるまで:素描、試 作から完成へ/上席学芸員 南 美幸
- 研究ノート カナレットとピラネージの作 p. 6 - 7 画態度について/上席学芸員 新田建史
- 本の窓『明朝体の教室』鳥海修著、Book & p. 7 Design、2024年1月/主任学芸員 薄田大
- 美術館問わず語り 美術館で働くこと/企 p. 8 画総務課 深澤史織



第153(春)号



第154(夏)号



第155(秋)号



第156(冬)号

第156(冬)号 2025年1月1日発行

- 表紙 杉村孝《しゃくじんシリーズによる》 p. 1 /上席学芸員 植松 篤
- TOPICS 1 追悼三代目会長高階秀爾先生 p.2 /館長 木下直之
- TOPICS 2 ミュージアムショップリニュー p. 3 アルのごあいさつ/株式会社オークコーポ レーション 店舗運営部 運営2課 岸本光
- EXHIBITION 1 企画展 生誕140年記念 p. 4 石崎光瑤/学芸課長 石上充代
- EXHIBITION 2 収蔵品展 石崎光瑤展関 p. 5 連展示 第1部 異国への眼差し/主任学 芸員 浦澤倫太郎 第2部 石崎光瑤展関連展示 絢爛たる花 鳥画/主任学芸員 薄田大輔
- 研究ノート 館蔵品紹介―澤田政廣《笛 p. 6 - 7 人》について/上席学芸員 南 美幸
- 本の窓 『メトロポリタン美術館と警備員の p. 7 私一世界中の〈美〉が集まるこの場所で』 パトリック・ブリングリー著、山田美明訳、 晶文社、2024年/上席学芸員 南 美幸
- 美術館問わず語り ほっとスポット実技室 p. 8 /実技室エデュケーショナルスタッフ 岡 崎あさ乃

新たな広報チャンネルの開拓

【テオ・ヤンセン展】

- ・共催である静岡朝日テレビの特別広報により、テレビ CM、テレビ番組生中継による広報を実施
- ・近隣の小学校に、全校生徒分のチラシを配布
- SNSで展示作業の様子を発信
- ・作品の動画を中心とした継続的なSNSでの発信
- Instagramへの広告掲載
- YouTubeでの作品動画の配信
- 静岡県庁本館前看板への広告掲示
- ・街頭ビジョンでの広告掲載
- 静岡県の包括連携協定を利用した広報ブースの出展 (静岡ブルーレヴズ試合会場、イオンモール浜松市野、 イオンモール富士宮、アピタ静岡店)
- ・イベントでの広報ブースの出店(ブラジル学校エスコー ラ・アルカンセ主催イベント、浜名湖花博2024)
- ・静岡県立大学芝生園地での屋外イベントの実施(計4 日)
- 日にち限定、夜間時限定の特別な「リ・アニメーショ ン」実施(それぞれ計4日、計2日)

【カナレットとヴェネツィアの輝き】

- ・開幕記念ミニ・マルシェの実施
- 共催である静岡朝日テレビの特別広報により、テレビ CM、テレビ番組生中継による広報を実施
- 静岡大学での関連授業の実施

【無言館と、かつてありし信濃デッサン館―窪島誠一郎 の眼】

- ・県内企業の協賛によるイベント実施(計2回)
- ・県内企業の協賛により、コーポレーション・デイ(観 覧料無料日)を設定(計2回)
- 協替企業内での広報物配付
- ガストロノミーツーリズム事業と関連した講演会の実
- ・報道各社への情報提供により、多くの新聞や雑誌で取 り上げられた
- ・明治美術学会、文化資源学会のホームページで展覧会 の広報を掲載
- ・出品作家の母校同窓会への展覧会情報の提供

【生誕140年記念 石崎光瑤】

- 静岡新聞の特別広報により、新聞による広報を実施
- ・日本画に関連の深い美術館への広報物の重点的な発送
- ・Instagramへの広告掲載を実施
- ・作品の解説を定期的にSNSで発信

・SNSで作品の展示作業の様子を発信

【モニターツアー・ファムトリップの受入れ】

• 在日外国人向けモニターツアー (所管:文化政策課) 実施日:令和7年1月10日(金)

参加者: 9人

・ランドオペレーター対象ファムトリップ(所管:文化 政策課)

実施日:令和7年1月17日(金)

参加者: 9人

・中国教育旅行ファムトリップ(所管:観光振興課)

参加者:10人

【インバウンド向け紹介動画の作成】

県文化政策課と連携し、欧米向けと東アジア向けの美術 館紹介動画を作成し、静岡県観光協会インバウンド向け サイト「Explore Shizuoka」及び当館 YouTube サイト に掲載し、館の広報を行った。

内容:ロングバージョン(1分30秒)

ショートバージョン (30秒)

欧米向け:英語

東アジア向け:中国語 (繁体字・簡体字)

韓国語

施設利用状況(年度別)

年	度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
昭和		93,918	8,005	10,000	L7 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1070221777131234
6	_	95,635	9,911	10,000		
6		112,528	10,346	14,714		
平月		98,806	12,474	11,937		
2		101,477	11,432	8,274		
5		91,342	13,755	8,545		
4		109,287	14,442	9,499		
5		95,903	10,927	9,308		
6		108,004	12,060	9,159		
7		73,254	10,717	7,015		
-		109,076	9,487	8,621		
6		87,436	10,615	6,486	4,257	
1		69,099	10,314	6,537	25,624	132
1		67,159	11,601	6,192	16,773	154
1		69,553	10,169	5,520	12,619	235
1		76,882	10,205	5,033	11,210	361
1		69,974	10,205	4,782	9,659	306
1		80,499	25,927	4,627	7,544	345
1		69,209	8,852	4,827	5,970	299
1		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u>'</u>	4,626	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	289
1		69,357	11,762	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	4,904	
		81,657	10,700	5,087	8,891	499
1		70,217	8,199	5,580	5,253	365
2		75,238	11,804	5,070	6,189	319
2		37,253	5,155	3,716	3,677	183
2		58,211	7,275	3,902	4,504	344
2		53,147	10,535	2,444	3,033	238
2	_	43,157	9,475	1,916	1,689	182
2		48,483	8,763	2,146	1,908	188
2		41,201	8,646	823	1,539	186
2		59,350	10,932	712	2,852	185
2		42,386	8,743	1,043	1,405	227
2		35,774	7,827	574	1,446	157
3		28,058	6,452	430	1,096	86
令和		31,896	5,286	925	782	149
2		15,067	2,692	1,617	412	休止中
į		9,452	1,688	458	278	休止中
4	_	27,447	4,063	1,104	752	休止中
5		20,002	4,501	1,290	707	休止中
(27,325	4,106	1,900	1,100	休止中
合	計	2,526,394	366,722	194,089	144,973	5,429
				T		I
	4	3,662	248	189	77	/
	5	771	95	155	120	
	6	3,196	200	319	59	
6	7	2,921	210	204	56	
年	8	1,194	285	100	97	休
度日	9	3,624	495	219	92	, L
月 月 別	10	2,526	728	117	138	<u> </u>
内内	11	5,356	883	173	123	中
訳	12	1,504	35	72	40	
'	1	810	0	91	89	
	2	1,167	103	160	95	
	3	594	824	101	114	/
	U	001	024	101	111	V

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4/2(火)	4 / 7 (日)	6	ΑВ	無	第31回 2024静岡県写真愛好者芸術展	沖田 完治	721
2	4/16(火)	4 /21(日)	6	AB	無	毎日書道展 第75回記念 毎日現代書巡回展 静岡展 併催 '24現代書作家展・しずおか、 第42回 富士山学生書写書道展大賞受賞作 品展	毎日新聞静岡支局	739
3	4/23(火)	5 / 6 (月)	14	Α	無	ファンタジア木馬展	太田 宏明	2,202
4	5 /14(火)	5 /19(日)	6	ΑВ	無	第60回 静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	771
5	6 / 4 (火)	6 / 9 (日)	6	AB	無	第49回 二科静岡支部展 絵画部	二科静岡支部絵画部	780
6	6 /11(火)	6 /16(日)	6	ΑВ	無	第51回 二科会写真部静岡支部公募展	二科会写真部静岡支部	781
7	6 /18(火)	6 /23(日)	6	ΑВ	無	ひま研展(能・狂言面)	大塚 亮治	644
8	6 /25(火)	6 /30(日)	6	ΑВ	無	佐伯喜三郎 遺作展	佐伯 利榮	991
9	7/2(火)	7 / 7 (日)	6	Α	無	第35回 静岡独立美術展	静岡独立美術協会	851
10	7/2(火)	7 / 7 (日)	6	В	無	第1回 杉クラブフィルム写真展	森光江	834
11	7 /23(火)	7 /28(日)	6	ΑВ	無	第52回 静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	667
12	7 /30(火)	8 / 4 (日)	6	ΑВ	無	第88回 静岡県版画協会展	静岡県版画協会	569
13	8 /20(火)	8 /25(日)	6	Α	無	書道展	外山 好司	406
14	8 /20(火)	8 /25(日)	6	В	無	静岡三軌会展	奈良間 茂	560
15	8 /27(火)	9 / 1 (日)	6	В	無	創作飾り帯結び展 庫流 きものギャラリー 24	三輪 民庫	228
16	9/3(火)	9 / 8 (日)	6	ΑВ	無	第35回 千世の会書展	千世の会	668
17	9 /10(火)	9 /16(月)	7	АВ	無	白日会静岡支部展	白日会静岡支部 西谷 之男	1,036
18	9 /18(水)	9 /23(月)	6	ΑВ	無	第53回 静岡独立書展	静岡県独立書人団	430
19	9 /25(水)	9 /29(日)	5	АВ	無	第20回 アトリエ・ニケ子ども造形デザイン絵画教室展覧会	大森 恵	1,490
20	10/1(火)	10/6(日)	6	ΑВ	無	第73回 静岡県水彩画協会展	静岡県水彩画協会	1,225
21	10/9(水)	10/14(月)	6	ΑВ	無	第46回 静岡県日本画展	静岡県日本画連盟	566
22	10/22(火)	10/27(日)	6	АВ	無	第50回 静岡県フレミッシュ織展と第15回 静岡裂織公募展併催	静岡県フレミッシュ織教室 朝原 智子	735
23	10/29(火)	11/10(日)	12	АВ	無	第28回 静岡県すこやか長寿祭美術展	公益財団法人 しずおか健康長寿財団	979
24	11/12(火)	11/17(日)	6	Α	無	第17回 パッチワーク・パフキルト展	滝下 千鶴子	861
25	11/19(火)	11/24(日)	6	АВ	無	第42回 静岡県夏の読書感想画コンクール 絵画展	株式会社静岡新聞社 地域ビジネス推進局	2,857
26	11/27(水)	12/1(日)	5	АВ	無	ふじのくに芸術祭2024 美術部門写真展、 障害者文化芸術部門文化芸術展(同時開催)	ふじのくに芸術祭事務局 (静岡県/静岡県教育委員会/ 静岡県文化協会)	659
27	12/4(水)	12/8(日)	5	АВ	無	ふじのくに芸術祭2024 障害者文化芸術部門「ふぁいんだー」作品公募展	ふじのくに芸術祭事務局 (静岡県/静岡県教育委員会/ 静岡県文化協会)	361
28	12/10(火)	12/15(日)	6	ΑВ	無	第50回 静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	1,143
29	1 /21(火)	1 /26(日)	6	ΑВ	無	サレジオ幼稚園 生活展	静岡サレジオ幼稚園	810
30	2/4(火)	3 / 2 (日)	24	АВ	無	山の洲文化財交流展	静岡県文化財課 静岡県埋蔵文化財センター	1,167
31	3 / 4 (火)	3 / 9 (日)	6	ΑВ	無	芙蓉三人書展	千世の会	594
						合 計		27,325

来館者のアクセス満足度

利用交通機関について、令和 6 年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が64.2%と最も高く、次いで「JR」14.2%、「その他」4.4%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は73.1%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は79.8%であった。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと近くの駐車場から順次満車になり、離れた駐車場になると美術館までの徒歩区間が長い登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学の職員駐車場を借用して美術館来館者用に充てるなど、引き続き自家用車利用者の利便性の向上に努めて行きたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から当館までは上り坂となっているため、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分~6分、運賃100円(10月1日より200円に改定)で美術館の入口近くまで乗って来ることができることを案内しているものの、バス運行は、1時間に1本であるため利便性が高いとは言い難い。

公共交通機関利用者のアクセス利便性向上を目指し、 令和6年9月13日より当館エントランス先のタクシー乗り場横に静岡市シェアサイクルPULCLEステーションを 誘致した。

JR草薙駅や静岡鉄道「県立美術館前駅」付近にもステーションが設置されており、交通結節点等からの来館者増加を期待したい。

令和6年度主要記事

4月10日 収蔵品展「新収蔵品展」(~7月7日) 〈会期中イベント〉

> 学芸員によるフロアレクチャー(5月11日、 6月23日)

ギャラリーツアー (5月4日、5月18日、6 月15日、7月6日)

4月13日 企画展「テオ・ヤンセン展」(~7月7日) 〈会期中イベント〉

> 静岡県立大学芝生園地での屋外イベント(4 月27日、28日、6月15日、16日)

> 館長美術講座「連想、江戸のからくり・動物 見世物 | 木下直之(5月26日)

7月18日 収蔵品展「ピラネージとローマの景観」(~10 月6日)

〈会期中イベント〉

ギャラリーツアー (8月3日、17日、9月7 日、9月21日、10月5日)

学芸員によるフロアレクチャー(8月11日、 14日)

7月25日 企画展「カナレットとヴェネツィアの輝き」 (~9月29日)

> カナレット展開幕記念ミニ・マルシェ(7月 27日、28日)

> 特別講演会「景観画の役割とは?一近代ジャー ナリズムの始まり」高梨光正氏(8月10日) 学芸員によるフロアレクチャー(8月12日、 28日、31日、9月10日、22日)

> 館長美術講座「カメラ・オブスクラをめぐる 話 | 木下直之(8月18日)

7月2日 美術館協議会

8月19日 第三者評価委員会

9月3日 島田市金谷移動美術展「リレーション」(~9 月29日)

〈会期中イベント〉

スペシャルトーク「現代アートに触れよう」 大石歩真氏、兒玉絵美氏、植松篤(9月14日) 学芸員によるフロアレクチャー(9月21日) ガイドツアー「奥中章人による鑑賞ツアー」 奥中章人氏(9月29日)

10月9日 ロダン館開館30周年記念展「《地獄の門》が できるまで:素描、試作から完成へ」(~12月 15日)

〈会期中イベント〉

学芸員によるフロアレクチャー(10月14日、 27日、11月23日)

イベント「ロダン館で、レッツ・ヨガ!」ア ラサ氏(11月2日)

ギャラリーツアー (10月19日、11月2日、16 日、12月7日)

10月12日 企画展「無言館と、かつてありし 信濃デッサン館―窪島誠一郎の眼」(~12月15 日)

〈会期中イベント〉

開幕記念講演会「絵好き・絵狂い・絵蒐め」 窪島誠一郎氏(10月12日)

講演会「あなたなら、どんな自画像を描きま すか? | 森村泰昌氏(10月19日)

対談「ふたつ美術館をつくった話」窪島誠一 郎氏、檀ふみ氏(10月26日)

演奏会「天満敦子ソロ・コンサート」天満敦 子氏(10月27日)

映画上映会 SBCスペシャル番組「生ききる」、 森内康博監督「二十歳の無言館」(10月20日、 11月16日)

学芸員によるフロアレクチャー(11月8日、 12月6日)

鼎談「戦争と食―関口清『夢の落書帳』をひ もとく」渡辺總子氏、岡田裕之氏、木下直之 (11月9日)

館長美術講座スペシャル鼎談「お手伝いは見 た、窪島誠一郎とは誰か」窪島誠一郎氏、原 田光氏、木下直之(11月17日)

11月1日 ロダンウィーク2024 (~11月4日)

〈期間中イベント〉

丘の上のロダンマルシェ (11月3日)

友の会広場(11月3日)

美術館クイズラリー(11月3日)

「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート 川 本奈緒氏、冨田愛佳氏(11月3日)

コンサート「身体、躍動、リズム!」山本晶 子氏、後藤友香理氏、長谷川慶岳氏(11月4

1月4日 収蔵品展「石崎光瑤展関連展示 第1部 異 国への眼差し」(~2月16日)

〈会期中イベント〉

ギャラリーツアー (2月1日、2月15日) 学芸員によるフロアレクチャー (2月8日、 2月11日)

1月25日 企画展「生誕140年記念 石崎光瑤」(~3月 23日)

学芸員によるフロアレクチャー(1月25日、 2月11日、3月8日、16日) 美術講座「光瑤が古画に学んだことー若冲を 中心に」石上充代(2月15日) 館長美術講座「日本画家はなぜインドをめざ すのか」木下直之(3月2日) 記念講演会「石崎光瑤 至高の花鳥画をもと めてーその生涯と画業ー」渡邊一美氏(3月 9日)

2月18日 収蔵品展「石崎光瑤展関連展示 第2部 絢 爛たる花鳥画」(~4月6日)

〈会期中イベント〉

学芸員によるフロアレクチャー (2月22日、 3月30日)

ギャラリーツアー (3月1日、15日、4月5 日)

通年 創作週間(通算61日間)

実技講座(通算8日間)

ロダン館デッサン会(通算24日間)

ちょこっと体験(通算12日間)

わくわくアトリエ (通算3日間)

夏休み子どもワークショップ (通算2日間)

ねんど開放日(通算9日18回)

えのぐ開放日 (通算5日10回)

美術館教室(通算39日間)

テオ・ヤンセン展

4月13日(土)~7月7日(日)

展示場所	資料名	制作年	寸法(m)
第1展示室	アニマリス・プラウデンス・ヴェーラ	2013	$8.6 \times 5.4 \times 3.5$
第2展示室	アニマリス・リジデ・プロペランス	1995	$2.3 \times 2.0 \times 1.7$
	「砂浜の放浪者」(「デ・フォルクスラント」紙、1990年) の複写		
	アタリ社のコンピュータ		
	アイデア・スケッチ		
	スケッチブック		
	ペットボトル		
	プラスチックチューブを使用したパーツ		
	ウレタンチューブを使用したパーツ		
第3展示室	アニマリス・アデュラリ	2012	$3.5 (4.5) \times 2.0 \times 1.7$
第4展示室	アニマリス・オルディス	2006	$4.0 \times 2.4 \times 2.4$
	クランクシャフト		
第5展示室	アニマリス・オムニア・セグンダ	2018	$12.0 \times 2.3 \times 2.5$
ラウンジ前	アニマリス・グベルナーレ(部分)	2011	
第6展示室	アニマリス・ペルシピエーレ・エクセルサス	2006	$15.5 \times 3.6 \times 3.2$
	アニマリス・ペルシピエーレ・プリムス	2006	$6.7 \times 3.7 \times 3.5$
	アニマリス・ルゴサス・セグンダス	2016	$3.3 \times 2.0 \times 1.6$
	アニマリス・カリブス	2018	$1.6 \times 0.55 \times 0.35$
企画券売横	アニマリス・ウミナミ	2017	$5.0 \times 4.5 \times 3.0$
エントランス	アニマリス・ヴェルミキュラス	2001	$4.0 \times 0.8 \times 0.4$
	アニマリス・ムルス	2017	$13.0 \times 6.0 \times 3.0$
	アニマリス・スクィーラ	2021	$17.0 \times 3.0 \times 1.5$
ロダン館	アニマリス・ミミクラエ	2019	$5.0 \times 0.8 \times 1.3$

カナレットとヴェネツィアの輝き

7月27日 (土) ~9月29日 (日)

No.	作者名(生没年)	作品名	制作年	技法•素材	サイズ (cm)	所蔵先
1	カナレット以前のヴェネツ	ィア				
1	ヤーコポ・デ・バルバリ (1460/70頃-1516以前)	ヴェネツィア鳥瞰図(第 3 版)	1500年(16 世紀後半の 刷り)	木版	133.6×277.2	新潟県立近代美術 館・万代島美術館
2	フランチェスコ・グアルディ に帰属(1712-1793)	ヴェネツィア鳥瞰図	1775年	油彩、カンヴァス	98.5×172.8	英国政府コレクショ ン
3	ネーデルラントの画家	ラグーナから見たヴェネツィア全景	1580-1600年 頃	油彩、カンヴァス	66.0×193.0	クライスト・チャー チ絵画館、オック スフォード
4	ジョヴァンニ・バッティスタ・ ティエポロ (1696-1770)	ヴィーナスによって天上に導かれる ヴェットール・ピサーニ提督	1743年頃	油彩、カンヴァス (楕円形)	41.0×72.0	国立西洋美術館
5	ジョヴァンニ・バッティスタ・ ティエポロ	アントニウスとクレオパトラの出会 い	1747年頃	油彩、カンヴァス	66.8×38.4	スコットランド国 立美術館
6	ジョヴァンニ・バッティスタ・ ティエポロ	『カプリッチ』より《腰を降ろし壺 に肘をつく若者》	1738-1739年	エッチング、紙	14.0×18.2	静岡県立美術館
7	ジョヴァンニ・バッティスタ・ ティエポロ	『カプリッチ』より《3人の兵士 と少年》	1738-1739年	エッチング、紙	14.2×17.7	静岡県立美術館
16	ジョヴァンニ・パオロ・パ ニーニ (1691-1765)	ローマ、ポルタ・サント・スピリト		ペン、黒のインク と水彩、黒と赤の チョーク、紙	35.5×25.1	スコットランド国 立美術館
2	カナレットのヴェドゥータ					
17	カナレット(1697-1768)	カナル・グランデ:パラッツォ・バ ルビから北東にリアルト橋を望む	1724年頃	油彩、カンヴァス	66.6×97.6	フェレンズ美術館 、 ハル
18	カナレット	サン・マルコ湾:北を望む	1730年頃	油彩、カンヴァス	141.3×154.0	ウェールズ国立美 術館、カーディフ
19	カナレット	サン・ヴィオ広場から見たカナル・ グランデ	1730年以降	油彩、カンヴァス	65.0×83.8	スコットランド国 立美術館
20	カナレット	カナル・グランデのレガッタ	1730-1739年 頃	油彩、カンヴァス	149.8×218.4	ボウズ美術館
23	カナレット	昇天祭、モーロ河岸に戻るブチン トーロ	1738-1742年 頃	油彩、カンヴァス	106.5×106.5	レスター伯爵およ びホウカム・エス テート管理委員会、 ノーフォーク
24	カナレット	ロンドン、北側からウェストミンス ター橋を望む、金細工師組合マス ターの行進	1750年頃	油彩、カンヴァス	44.5×74.9	個人蔵
25	カナレット	ロンドン、テムズ川、サマセット・ ハウスのテラスからロンドンのザ・ シティを遠望する	1750年頃	油彩、カンヴァス	44.5×74.9	個人蔵
26	カナレット	ロンドン、ヴォクスホール・ガーデ ンズの大歩道	1751年頃	油彩、カンヴァス	51.0×76.0	コンプトン・ヴァー ニー、 ウォリック シャー
27	カナレット	ロンドン、ラネラーのロトンダ内部	1751年頃	油彩、カンヴァス	51.0×76.0	コンプトン・ヴァーニー、ウォリック シャー
28	カナレット	ローマ、パラッツォ・デル・クイリ ナーレの広場	1750-1751年 頃	油彩、カンヴァス	39.5×68.5	東京富士美術館
29	カナレット	ナヴォナ広場の景観	1750-1751年 頃	油彩、カンヴァス	39.5×68.5	東京富士美術館
30	カナレット	昇天祭、モーロ河岸のブチントーロ	1760年	油彩、カンヴァス	58.3×101.8	ダリッジ美術館 、 ロンドン

No.	作者名(生没年)	作品名	制作年	技法•素材	サイズ (cm)	所蔵先			
3	3 カナレットの素描と版画 創造の周辺								
31	肖像部分原画:ジョヴァンニ・バッティスタ・ピアツェッタ (1682-1754) 画面構成、彫版:アントニオ・ヴィゼンティーニ (1688-1782)	カナレットとヴィゼンティーニの肖 · 像	1735年	エッチング、紙	26.6×41.6	個人蔵			
34	カナレット	ドーロ風景	1744年以降 に刊行	エッチング、紙	30.1×42.8	静岡県立美術館			
36	カナレット	ランタンのあるポルティコ	1744年以降 に刊行	エッチング、紙	29.9×42.9	静岡県立美術館			
38	カナレット	ドーロ風景	1740-1744年	ペン、インク、紙	27.6×41.6	ヴィクトリア・ア ンド・アルバート 博物館、ロンドン			
39	カナレット	サン・マルコ広場でのコメディア・ デラルテの上演	1755-1757年?	ペン、インク、淡 彩、紙	20.5×31.7	ヴィクトリア・ア ンド・アルバート 博物館、ロンドン			
40	カナレット	サン・マルコ大聖堂の内部	1766年頃	ペン、インク、赤 と黒のチョーク、 紙	36.2×30.8	ヴィクトリア・ア ンド・アルバート 博物館、ロンドン			
41	ロンドン、ジョーンズ製	レフレックス・カメラ・オブスキュ ラ	1800年頃		(W)16.8× (H)16.4× (D)29.5-49.0	東京富士美術館			
4	同時代の画家たち、後継者	着たち:カナレットに連なる系譜の展	開						
42	ミケーレ・マリエスキ (1710-1743)	リアルト橋	1740年頃	油彩、カンヴァス	62.2×96.6	ブリストル市立博 物館・美術館			
43	ベルナルド・ベロット (1722-1780)	ルッカ、サン・マルティーノ広場	1742-1746年	油彩、カンヴァス	50.8×2.0	ヨーク・ミュージ アム・トラスト (ヨーク美術館)			
44	作者不詳	カナル・グランデ:サンタ・ルチア 聖堂とスカルツィ聖堂、ヴェネツィ ア	1740-1760年 頃	油彩、カンヴァス	37.1×55.3	スコットランド国 立美術館			
49	フランチェスコ・グアルディ (1712-1793)	小さな広場と建物のあるカプリッチョ	1759年	油彩、カンヴァス	35.0×52.0	東京富士美術館			
50	フランチェスコ・グアルディ	サンタ・マリア・デッラ・サルーテ 聖堂	1770年頃	油彩、カンヴァス	50.5×40.9	スコットランド国 立美術館			
51	フランチェスコ・グアルディ	サン・ジョルジョ・マッジョーレ聖 堂	1770年頃	油彩、カンヴァス	49.5×40.0	スコットランド国 立美術館			
52	フランチェスコ・グアルディ	塔の遺構と彼方に村のある川辺の 風景	1770-1780年 頃	油彩、カンヴァス	25.2×41.2	スコットランド国 立美術館			
53	フランチェスコ・グアルディ	塔の遺構のある丘の風景	1770-1780年 頃	油彩、カンヴァス	25.2×41.2	スコットランド国 立美術館			
54	ウィリアム・ジェイムス (生没年不詳)	、スキアヴォーニ河岸、ヴェネツィア		油彩、カンヴァス	94.6×152.4	東京富士美術館			
55	ウィリアム・マーロー (1740-1813)	カプリッチョ:セント・ポール大聖 堂とヴェネツィアの運河	1795年頃?	油彩、カンヴァス	129.5×104.1	テート			
5	カナレットの遺産								
56	ウィリアム・ミラー(1796- 1882)	- ヴェネツィア 、 ピアツェッタ	1854年	エッチング (スティー ル・エングレーヴィ ング)、紙	イメージ: 29.3 ×24.0 版: 43.0×35. 5	スコットランド国 立美術館			
57	ウィリアム・ジェイムズ・ ミュラー(1812-1845)	ヴェネツィアのカナル・グランデ サンタ・マリア・デッラ・サルーテ 聖堂を望む	1837年	油彩、カンヴァス	133.0×228.0	丸紅株式会社			
58	リチャード・パークス・ポ ニントン(1802-1828)	゚ ヴェネツィア 、 カナル・グランデ	1826年	油彩、カンヴァス に貼り付けた紙	イメージ: 22.5 ×29.9 カンヴァス: 25. 4×32.5	スコットランド国 立美術館			
59	ウィリアム・エティ(1787- 1849)	溜息橋	1833-1835年	油彩、カンヴァス	80.0×50.8	ヨーク・ミュージ アム・トラスト (ヨーク美術館)			

No.	作者名(生没年)	作品名	制作年	技法・素材	サイズ (cm)	—————— 所蔵先
60	ジェイムズ・ホランド (1799-1870)	ヴェネツィアの思い出		油彩、板	41.0×29.2	テート
61	ジェイムズ・アボット・マ クニール・ホイッスラー (1834-1903)	ノクターン:青と金色――サン・ マルコ大聖堂、ヴェネツィア	1880年	油彩、カンヴァス	44.5×59.7	ウェールズ国立美 術館、カーディフ
62	ヘンリー・ウッズ(1846 - 1921)	サンティ・ジョヴァンニ・エ・パオ ロ広場、ヴェネツィア	1895年	油彩、カンヴァス	44.5×71.5	ロイヤル・アカデ ミー・オブ・アー ツ、ロンドン
63	ウォルター・リチャード・ シッカート(1860 - 1942)	サン・マルコ大聖堂の一角、ヴェ ネツィア	1901年頃	油彩、カンヴァス	45.7×38.1	スコットランド国 立美術館
64	ウォルター・リチャード・ シッカート	サンタ・マリア・デッラ・サルーテ 聖堂、ヴェネツィア	1901年頃	油彩、カンヴァス	56.0×46.0	ロイヤル・アカデ ミー・オブ・アー ツ、ロンドン
65	ウジェーヌ・ブーダン (1824-1898)	カナル・グランデ、ヴェネツィア	1895年	油彩、カンヴァス	51.0×74.5	東京富士美術館
66	ポール・シニャック(1863- 1935)	ヴェニス,サルーテ教会	1908年	油彩、カンヴァス	72.5×90.9	宮崎県立美術館
67	クロード・モネ (1840- 1926)	パラッツォ・ダーリオ、ヴェネツィ ア	1908年	油彩、カンヴァス	92.3×73.2	ウェールズ国立美 術館 、 カーディフ
68	クロード・モネ	サルーテ運河	1908年	油彩、カンヴァス	100.2×65.2	ポーラ美術館
参考 出品 2		点彩コンポート	16世紀初	宙吹き、モール装 飾、エナメル彩、 金彩	(H)13.8 (W)24.2	箱根ガラスの森美 術館
参考 出品 3		ダイヤモンド・ポイント彫りアンポ リーナ(ミサ用葡萄酒器)	16世紀末-17 世紀初	宙吹き、熔着装飾、 ダイアモンド・ポ イント彫り	(H)10.6 (W)7.8	箱根ガラスの森美 術館
参考 出品 4	. (制作地)ヴェネツィア	レース・グラスⅢ	16-17世紀	宙吹き、レース・ グラス	(H)2.1 (W)23.0	箱根ガラスの森美 術館
参考 出品 5		レース・グラス二重コンポート	17世紀	宙吹き、レース・ グラス	(H)9.5 (W)13.0	箱根ガラスの森美 術館
出品	(制作地)ヴェネツィアま たはファソン・ド・ヴニー ズ	装飾脚矢絣文ワイングラス	17世紀前半	宙吹き、熔着装飾	(H)15.9 (W)7.8	箱根ガラスの森美 術館
参考 出品 7		獅子装飾乳白瓶	18世紀	宙吹き、型押し	(H)25.9 (W)14.8	箱根ガラスの森美 術館
関連	連作品 ※静岡県立美術館で	のみ展示				
	原画:カナレット(1697- 1768) 彫版:アントニオ・ヴィゼ ンティーニ(1688-1782)	『ヴェネツィアの大運河の景観』 より《サン・ロッコ広場》	1742年初版	エッチング、紙		個人蔵
	マルコ・リッチ(1676-1730)	神殿とゴシック教会のある廃墟の 眺め	1725年頃	エッチング、紙	39.7×31.6	静岡県立美術館
	ジョヴァンニ・バッティスタ・ ピラネージ(1720-1778)	納骨堂	1742-1749年 頃	エッチング、紙	40.2×27.8	静岡県立美術館
	ジョゼフ・マロード・ウィ リアム・ターナー (1775- 1851)	パッランツァ、マッジョーレ湖	1846-1848年 頃	水彩、紙	36.8×54.0	静岡県立美術館
	ジェイムズ・アボット・マ クニール・ホイッスラー (1834-1903)	『最初のヴェネツィア・セット』よ り 《小さなヴェネツィア》	1880年	エッチング、紙	18.7×26.4	静岡県立美術館
	ポール・シニャック(1863-1935)	サン=トロペ、グリモーの古城	1899年	油彩、カンヴァス	73.0×91.7	静岡県立美術館

無言館と、かつてありし信濃デッサン館 ― 窪島誠一郎の眼

10月12日 (土) ~12月15日 (日)

No.	作者名	作品名	制作年	技法•素材	寸法 (cm)	所蔵先
	-自画像					
0-1	関根正二	自画像	1916年	インク・紙	27.0×21.4	長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション)
0-2	五十嵐弘	自画像	1933年	油彩・キャンバス	53.3×45.9	無言館
0-3	伊藤文雄	自画像	制作年不詳	油彩・板に貼った紙	41.5×27.5	無言館
0-4	伊藤守正	自画像	制作年不詳	油彩・板	33.0×23.8	無言館
0-5	鵜頭盛次	自画像	制作年不詳	油彩・板	32.9×23.9	無言館
0-6	梅澤一雄	自画像	制作年不詳	油彩・キャンバス	91.2×73.0	無言館
0-7	大倉裕美	自画像	制作年不詳	油彩・キャンバス	45.5×37.7	無言館
0-8	尾田龍馬	自画像	1940年	油彩・板	33.5×23.8	無言館
0-9	小野春男	自画像	1939年	鉛筆、色鉛筆・紙	30.9×23.3	無言館
0-10	久保克彦	自画像	制作年不詳	水彩・紙	28.5×24.0	無言館
0-11	桑田一彦	(自画像)	1940年	油彩・キャンバス	53.2×40.6	無言館
0-12	興梠武	自画像	1935年	油彩•板	45.5×37.9	無言館
0-13	椎野修	自画像	制作年不詳	油彩・キャンバス	27.5×22.6	無言館
0-14	武内秀太郎	自画像	制作年不詳	油彩•板	33.0×23.8	無言館
0-15	長岡義尚	自我像	1939年	油彩・キャンバス	45.7×38.4	無言館
0-16	芳賀準録	自画像	1943年	油彩•板	32.9×23.9	無言館
0-17	原田新	自画像	1936年	油彩・キャンバス	45.3×37.9	無言館
0-18	日高安典	自画像	制作年不詳	油彩•板	30.1×23.9	無言館
0-19	増田隆雄	自画像	1940年	油彩•板	33.0×23.6	無言館
0-20	町井邦夫	自画像	1944年	油彩・キャンバス	52.5×45.7	無言館
0-21	宮地英郎	自画像	制作年不詳	油彩・板に貼ったキャ ンバス	40.0×31.5	無言館
0-22	結城久	自画像	制作年不詳	油彩・キャンバス	45.5×38.0	無言館
0-23	吉田二三男	自画像	制作年不詳	油彩・板	45.5×37.2	無言館
0-24	渡辺武	自画像	制作年不詳	油彩・キャンバス	53.0×45.5	無言館
第1室	三一遺された絵と言葉					
1-1	佐久間修	女性像	制作年不詳	油彩・キャンバス	58.0×68.3	無言館
1-2	高橋助幹	雪の降る建物	制作年不詳	油彩·板	24.0×33.4	無言館
1-3	吉田二三男	風景·椎名町	1940年	油彩·板	23.3×33.0	無言館
1-4	大倉裕美	S嬢	制作年不詳	油彩・キャンバス	145.8×112.0	無言館
1-5	渡邉友次郎	菊	制作年不詳	油彩・キャンバス	91.0×72.7	無言館

No.	作者名	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	所蔵先		
1-6	伊藤文雄	花	制作年不詳	油彩・キャンバス	49.7×60.6	無言館		
1-7	渡辺武	人々	1941年	油彩・キャンバス	91.5×73.0	無言館		
1-8	中村良明	きょうだい	制作年不詳	油彩・キャンバス	116.5×90.6	無言館		
1-9	矢﨑博信	雷	制作年不詳	油彩・キャンバス	60.5×72.3	無言館		
1-10	関口清	おっかさん	制作年不詳	油彩・キャンバス	77.0×60.7	無言館		
1-11	関口清	風景のなかの人物	1942年	油彩・キャンバス	24.8×33.0	無言館		
第 2 室	☑─無言館の誕生							
2-1	野見山暁治	栃木	1943年	油彩・キャンバス	52.6×65.0	練馬区立美術館		
2-2	野見山暁治	骸骨	1947年	油彩・キャンバス	45.4×53.0	練馬区立美術館		
2-3	野見山暁治	肖像	1949年	油彩・キャンバス	64.8×50.0	練馬区立美術館		
D2-1		野見山暁治、宗左	近、安田武『		出版協会 1977年	個人蔵		
D2-2		『椎野修戦歿遺稿	俺はやれるの約	会の道十五年』椎野力	1990年	無言館		
D2-3		『椎野修遺作画集』]椎野力 198	6年		無言館		
D2-4		『童女 中村良明遺	作集』中村良	明遺作集頒布会 1941	年	無言館		
D2-5		『伊藤守正遺文集 春は厭はしくなりぬ』伊藤きち 1947年						
D2-6		『来年上京します 岩田良二へのレクイエム』松浦今子 1988年						
D2-7		『石井芳雄遺作集』石井常雄、鈴木壵美子、阿部万里子 1987年						
D2-8		無言館建設趣意と	ご協力のお願い)		無言館		
D2-9		野見山暁治「煉瓦	一枚のお願い_	」原稿		無言館		
D2-10		戦没画学生慰霊美	術館「無言館	」建築図面集		無言館		
D2-11		戦没画学生慰霊美	術館「無言館	」開館式典のおしらせ	1997年	無言館		
D2-12		戦没画学生慰霊美	術館「無言館	」開館記念式 〈式次〉	第〉 1997年	無言館		
D2-13		無言館開館ポスタ	_			無言館		
第 3 室	☑─最期まで描こうとし	したもの						
3-1	蜂谷清	祖母の像	制作年不詳	油彩・キャンバス	53.0×45.7	無言館		
3-2	岸二郎	(母・つねの像)	制作年不詳	油彩・キャンバス	45.5×38.2	無言館		
3-3	太田章	(弟たち)	制作年不詳	紙本着色	162.1×112.2	無言館		
3-4	原藤雄	(長女・昌子の像)	制作年不詳	油彩・キャンバス	53.0×33.6	無言館		
3-5	益田卯咲	父・柳外の像	制作年不詳	油彩・キャンバス	52.9×45.8	無言館		
3-6	桑田一彦	妹・郁子の像	制作年不詳	油彩•板	33.3×24.2	無言館		
3-7	山之井龍朗•俊朗	少女(合作)	1941年	油彩•板	33.3×24.2	無言館		
3-8	石原壽市	国江の為に	1935年	油彩·板	33.0×23.2	無言館		
3-9	原田新	妹・千枝子の像	制作年不詳	油彩・キャンバス	72.7×53.0	無言館		
3-10	福井勇	(裸婦・正面向き)	制作年不詳	水彩•紙	63.5×48.1	無言館		

No.	作者名	作品名	制作年	技法•素材	寸法 (cm)	所蔵先
3-11	興梠武	裸婦	制作年不詳	油彩・キャンバス	80.6×54.0	無言館
3-12	武内秀太郎	足を組む裸婦	制作年不詳	油彩・キャンバス	53.5×33.7	無言館
3-13	伊勢正三	数寄屋橋界隈	制作年不詳	油彩・キャンバス	46.3×53.8	無言館
3-14	片桐彰	街	制作年不詳	油彩・キャンバス	65.5×53.0	無言館
3-15	椎野修	屋根裏	1941年	油彩·板	24.3×29.3	無言館
3-16	岩田良二	故郷風景 (病床に て)	制作年不詳	水彩・紙	62.5×82.0	無言館
第 4 室		<u> </u>				
4-1	野末恒三	自画像	制作年不詳	油彩・キャンバス	447×33.7	無言館
4-2	野末恒三	人物	制作年不詳	油彩・キャンバス	116.5×91.0	無言館
4-3	野末恒三	風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	91.0×117.0	無言館
4-4	中村萬平	自画像	1941年	油彩・キャンバス	60.4×45.3	東京藝術大学
4-5	中村萬平	画室	1941年	油彩・キャンバス	145.3×112.2	東京藝術大学
4-6	中村萬平	人物(室内憩い)	制作年不詳	油彩・キャンバス	97.0×130.0	浜松市美術館
4-7	中村萬平	梅屏風	制作年不詳	油彩・キャンバス	65.0×53.2	浜松市美術館
※ 4-8	中村萬平	霜子	制作年不詳	油彩・キャンバス	89.6×64.4	無言館
4-9	桑原喜八郎	自画像	1940~1943 年	紙本着色	64.7×52.3	掛川市二の丸美術館
4-10	桑原喜八郎	春日	1942年	紙本着色	186.0×127.3	掛川市二の丸美術館
4-11	桑原喜八郎	冬の山	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	53.6×76.7	無言館
4-12	佐藤孝	林の道	制作年不詳	油彩・キャンバス	60.1×45.5	無言館
4-13	佐藤孝	山の風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	41.0×53.0	無言館
4-14	佐藤孝	民家風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	33.3×45.4	無言館
4-15	佐藤孝	少年	制作年不詳	油彩・板	33.5×23.8	無言館
4-16	曽宮俊一	建築•習作	制作年不詳	油彩・板	31.7×40.8	無言館
4-17	曽宮俊一	風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	45.2×60.0	無言館
4-18	曽宮俊一	風景•山	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.7×41.0	無言館
4-19	曽宮一念	獲物(やまどり)	1944年	油彩・キャンバス	32.5×44.6	株式会社藤枝江崎新聞店蔵 (静岡県立美術館寄託)
第5室	一戦争と向き合う					
5-1	藤田嗣治	アッツ島玉砕	1943年	油彩・キャンバス	193.5×259.5	東京国立近代美術館(米国よ り無期限貸与)
5-2	小磯良平	娘子関を征く	1941年	油彩・キャンバス	260.0×193.0	東京国立近代美術館(米国よ り無期限貸与)
5-3	椎野修	小休止	1943年	油彩・紙ボード	31.7×41.1	無言館
5-4	日高安典	八月のホロンバイル の夕暮	制作年不詳	油彩・キャンバス	14.5×32.6	無言館
5-5	前田美千雄	フィリピン島スケッ チ	1944年	水彩•紙	28.3×44.0	無言館
	丸山卓見	中国山西省太原	1942年		58.4×75.3	無言館

No.	作者名	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	所蔵先
5-7	江川信	歩哨	制作年不詳	油彩・キャンバス	53.3×33.9	無言館
5-8	原藤雄	白衣勇士	制作年不詳	油彩・キャンバス	99.9×73.0	無言館
5-9	原精一	語らい	1940年	水彩•紙	47.0×117.5	神奈川県立近代美術館 (展示期間:10/12~11/10)
5-10	石村日郎	静物	1926~1927 年	水彩•紙	31.0×37.0	無言館
5-11	靉光	眼のある風景	1938年	油彩・キャンバス	102.0×193.5	東京国立近代美術館
5-12	靉光	鷲と駝鳥	1938年	墨、色料・紙	31.7×30.3	神奈川県立近代美術館(展示 期間:11/12~12/15)
5-13	靉光	警察病院	1941年	油彩・板に紙	14.0×18.0	神奈川県立近代美術館
5-14	靉光	自画像	1944年	油彩・キャンバス	79.5×47.0	東京国立近代美術館
5-15	松本竣介	建物	1935年	油彩・板に紙	97.0×130.0	神奈川県立近代美術館
5-16	麻生三郎	女	1943年	油彩・キャンバス	80.4×53.2	神奈川県立近代美術館
5-17	鶴岡政男	死の静物(松本竣 介の死)	1948年	油彩・キャンバス	64.0×79.0	神奈川県立近代美術館
D5-1		敷島弘美智 戦 場からの絵手紙				無言館
D5-2		石井芳雄 戦場 からの絵手紙				無言館
第6室	三一窪島誠一郎の眼					
6-1	村山槐多	強盗	1911年	水彩、鉛筆・紙	74.0×57.6	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-2	村山槐多	信州風景(子守の 少年)	1913年	木炭、水彩・紙	48.0×60.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-3	村山槐多	千曲川風景	1913年	木炭・紙	45.3×60.4	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-4	村山槐多	稲生像	1913年頃	水彩•紙	22.5×16.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-5	村山槐多	尿する裸僧	1915年	油彩・キャンバス	80.3×60.6	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-6	村山槐多	猫を抱ける裸婦	1916年	木炭・紙	61.4×46.5	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-7	村山槐多	裸婦	1917年	木炭・紙	52.0×28.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-8	村山槐多	バラと少女	1917年	油彩・キャンバス	116.5×72.0	東京国立近代美術館
6-9	関根正二	三人裸像	1915年	インク・紙	28.0×22.0	長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション)
6-10	関根正二	砂町風景	1916年	インク・紙	28.0×37.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-11	靉光	少年	1937年	鉛筆・紙	17.7×10.7	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-12	靉光	無号	1940年	鉛筆・紙	11.7×31.6	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-13	靉光	男の顔	1941年	インク・紙	20.7×17.3	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-14	靉光	鳥	1942年	墨•紙	41.7×28.5	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-15	野田英夫	初冬	1932年	油彩・キャンバス	40.5×51.2	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-16	野田英夫	手紙を書く女	1933年	インク、鉛筆、 色鉛筆・紙	20.9×25.6	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-17	野田英夫	野尻の花	1938年	油彩・ボード	33.0×24.0	長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション)
6-18	松本竣介	ニコライ堂	1941年頃	鉛筆、木炭・紙	38.0×45.4	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)

No.	作者名	作品名	制作年	技法•素材	寸法 (cm)	所蔵先
6-19	松本竣介	少女	1941年	墨・紙	16.0×12.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-20	松本竣介	婦人像	1942年頃	墨・紙	35.5×27.0	長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション)
6-21	戸張孤雁	玉のり	制作年不詳	鉛筆・紙	29.1×25.1	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-22	戸張孤雁	足芸	制作年不詳	鉛筆・紙	22.0×15.5	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-23	戸張孤雁	芸人	制作年不詳	鉛筆・紙	20.0×15.2	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-24	吉岡憲	笛吹き	1943年	油彩・キャンバス	100.0×40.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-25	吉岡憲	裸婦二態	1947年	水彩・紙	25.4×15.2	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-26	吉岡憲	人物	制作年不詳	油彩・キャンバス	35.4×26.1	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-27	広幡憲	無題	1935年頃	水彩・紙	27.2×24.1	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-28	広幡憲	案内せざる案内人	1935年頃	墨・紙	20.0×18.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-29	広幡憲	演説する人	制作年不詳	水彩・紙	23.4×18.8	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-30	古茂田守介	少年	1955年	インク・紙	36.0×25.0	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-31	古茂田守介	裸婦	1957年	コロタイプ・紙	27.5×39.4	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-32	古茂田守介	カレイ	1958年	油彩・キャンバス	24.2×33.3	長野県立美術館(信濃デッサ ン館コレクション)
6-33	村山槐多	手	制作年不詳	鉛筆・紙	26.2×37.7	KAITA EPITAPH 残照館
D6-1		「信濃デッサン館」 概要				長野県立美術館
D6-2		信濃デッサン館 開館展ポスター				長野県立美術館
D6-3		『デフォルマシォン』 出版部 1977~1985		ッド・アイラック・コレク	7シォン・ギャルリィ	長野県立美術館

生誕140年記念 石崎光瑤

前期: 1月25日(土)~2月24日(月·振休) 後期: 2月26日(水)~3月23日(日)

No.	作品名	制作年	技法•素材	員数	所蔵先	展示替え
第1章	画学修業と登山					
1	虫類写生	明治29~36年 (1896~1903)	紙、鉛筆・着色	1巻	京都市立芸術大学芸 術資料館	巻替え
2	麦穂	明治32~35年 (1899~1902)頃	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
3	富山湾真景図	明治31年(1898)頃	紙本着色	6曲1双	南砺市立福光美術館	
4	笠置応召図	明治35年(1902)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
5	立山登山 高山植物	明治39年(1906)	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
6	立山写生 巻一	明治40年(1907)	紙本着色	1 巻	富山県美術館	巻替え
7	立山写生 巻二	明治41年(1908)	紙本着色	1 巻	高岡市美術館	巻替え
8	高嶺百花譜	明治41年(1908)	絹本着色	2 1111	南砺市立福光美術館	頁替え
9	白山の霊華	明治43年(1910)頃	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
10	信州槍岳之図	大正元年(1912)頃	絹本墨画	1幅	南砺市立福光美術館	
11	筧	大正 3 年(1914)	絹本着色	2曲1双	南砺市立福光美術館	
12	森の藤	大正 4 年(1915)	絹本着色	6曲1隻	南砺市立福光美術館	
13	麗日孔雀之図	大正 5 年(1916)	絹本着色	1幅	富山市郷土博物館	後期
第2章	インドへの旅、新しい日本画	i^				
14	大極楽鳥 紅極楽鳥生態写 生	大正 5 年(1916)	紙本着色	35枚のうち	南砺市立福光美術館	
15	カシミヤ州の雀	大正 6 年(1917)	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
16	インコ(ラブバード)	大正6年(1917)頃	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
17	第一次印度旅行 六 カシミール洲 水郷	大正 6年(1917)	紙本着色	1 巻	南砺市立福光美術館	巻替え
18	第一次印度旅行 八 石楠花 シシヤナーグ谿谷	大正 6 年(1917)	紙本着色	1 巻	南砺市立福光美術館	巻替え
19	ヒマラヤスケッチ帖	大正 6 年(1917)	紙、鉛筆・着色	3 ⊞	高岡市美術館	頁替え
20	雪山夜色之図	大正7年(1918)	絹本墨画	1幅	南砺市立福光美術館	
22	燦雨	大正 8 年(1919)	絹本着色	6曲1双	南砺市立福光美術館	
23	インコ	大正8年(1919)頃	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
24	急雨孔雀	大正8年(1919)	絹本着色	1幅	高岡市美術館	前期
25	緑蔭	大正 9 年(1920)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
26	写生帖《外遊写生 船、 花》	大正12年(1923)	紙、鉛筆・着色	1 ∰	京都市立芸術大学芸 術資料館	
27	雪	大正 9 年(1920)	画布着色	2曲1双	南砺市立福光美術館	
28	白孔雀	大正11年(1922)	絹本着色	6曲1双	大阪中之島美術館	

No.	作品名	制作年	技法・素材	員数	所蔵先	展示替え
第3章	深まる絵画表現					
29	写生帖《外遊写生 風景、 ダイコン》	大正12年(1923)	紙、鉛筆・着色	1 1111	京都市立芸術大学芸 術資料館	頁替え
30	写生帖《外遊写生 ルーブル》	大正12年(1923)	紙、鉛筆・着色	1 ∰	京都市立芸術大学芸 術資料館	頁替え
31	写生帖《外遊紀行文 欧州》	大正12年(1923)	紙、鉛筆・着色	1 ∰	京都市立芸術大学芸 術資料館	
32	写生帖《渡欧写生》	大正12年(1923)	紙、鉛筆・着色	1 ∰	南砺市立福光美術館	頁替え
33	麗日風鳥	大正13年(1924)	絹本着色	2幅	南砺市立福光美術館	
34	秋光	大正14年(1925)頃	絹本着色	2曲1双	南砺市立福光美術館	
35	鶏之図(若冲の模写)	大正15年(1926)	絹本着色	2幅	富山市郷土博物館	前期 左幅 後期 右幅
37	瑞兆	昭和 3 年(1928)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
38	寂光	昭和 4年(1929)	絹本着色	2曲1隻	南砺市立福光美術館	
39	藤花孔雀之図	昭和 4 年(1929)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
40	豊穣	昭和5年(1930)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
41	笹百合	昭和5年(1930)	絹本着色	2曲1隻	南砺市立福光美術館	
42	藤花文禽	昭和5年(1930)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
43	紅楓	昭和6年(1931)	絹本着色	6曲1隻	南砺市立福光美術館	
44	惜春	昭和6年(1931)	紙本着色	2曲1隻	南砺市立福光美術館	
45	写生帖《印度再遊 九 曼草 無憂樹 雪山》	昭和8年(1933)	紙、鉛筆・着色	1 ⊞	高岡市美術館	頁替え
46	写生帖《印度再遊 十一雪山》	昭和8年(1933)	紙、鉛筆・着色	1 冊	高岡市美術館	頁替え
47	《雪山花信》下絵 綬鶏	昭和8年(1933)頃	紙本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
48	奥殿襖絵《虹雉》	昭和9年(1934)	紙本着色	12面	金剛峯寺	前期
49	奥殿襖絵《雪嶺》	昭和10年(1935)	紙本着色	8面	金剛峯寺	後期
50	ヤマドリ雄《春律》下絵	昭和 3 年(1928)頃	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	前期
51	ヤマドリ雌《春律》下絵	昭和 3 年(1928)頃	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	前期
52	カラス《惜春》下絵	昭和6年(1931)頃	紙本墨画	1面	南砺市立福光美術館	
53	カラス(羽部分)《惜春》下絵	昭和6年(1931)頃	紙本墨画	1面	南砺市立福光美術館	
第4章	静謐なる境地へ					
54	花鳥之図	昭和10年(1935)	絹本着色	1面	富山県水墨美術館	後期
55	罌粟	昭和11年(1936)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館 寄託	
56	奔湍	昭和11年(1936)	絹本着色	6曲1双	南砺市立福光美術館	
57	霜月	昭和13年(1938)	絹本着色	1面	東京藝術大学	前期
58	霜月	昭和17年(1942)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
59	黄菊白菊	昭和14年(1939)	絹本着色	2幅	永青文庫	後期
60	遅日	昭和14年(1939)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	

No.	作品名	制作年	技法•素材	員数	所蔵先	展示替え
61	晨朝	昭和14年(1939)	絹本着色	1面	富山県美術館	
62	隆冬	昭和15年(1940)	絹本着色	6曲1隻	南砺市立福光美術館	
63	襲	昭和17年(1942)	絹本着色	1面		
64	清夏	昭和18年(1943)頃	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
65	後圃	昭和18年(1943)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
66	聚芳	昭和19年(1944)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
67	遊兎	昭和21年(1946)	絹本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
68	鶏頭習作	制作年不詳	紙本着色	1面	富山県美術館	
69	コサギ《襲》下絵	昭和17年(1942)頃	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
70	アオバト	昭和18年(1943)頃	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
71	ハナショウブ	制作年不詳	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
72	スイフヨウ	昭和20年(1945)	紙本着色	1幅	南砺市立福光美術館	
73	アワの穂	昭和21年(1946)	紙本着色	1面	南砺市立福光美術館	
74	小下絵画巻(大正時代)	大正 5~11年 (1916~1922)頃	紙本着色	1 巻	南砺市立福光美術館	巻替え
75	小下絵画巻(昭和時代)	昭和 2~17年 (1927~1942)頃	紙本着色	1 巻	南砺市立福光美術館	巻替え
76	写生帖《博物館 平家納経》	大正~昭和時代前期	紙、鉛筆・着色	1 ∰	京都市立芸術大学芸 術資料館	頁替え
77	写生帖《禅林寺 智恩院》	大正~昭和時代前期	紙、鉛筆・着色	1 ##	京都市立芸術大学芸 術資料館	頁替え
78	写生帖《若冲 赤坂ノ松 雉 中国画》	大正~昭和時代前 期	紙、鉛筆・着色	1 ∰	京都市立芸術大学芸 術資料館	頁替え
79	写生帖《サセックス》	大正~昭和時代前 期	紙、鉛筆・着色	1 冊	京都市立芸術大学芸 術資料館	前期
80	写生帖《虫 黒部 ナナカマ ド》	大正~昭和時代前 期	紙、鉛筆・着色	1 ∰	京都市立芸術大学芸 術資料館	後期
81	写生帖《青鸞》	大正~昭和時代前 期	紙、鉛筆・着色	1 ∰	京都市立芸術大学芸 術資料館	頁替え
82	写生帖《白孔雀》	大正~昭和時代前 期	紙、鉛筆・着色	1 冊	京都市立芸術大学芸 術資料館	頁替え
資料1	雅号証	明治30年(1897)			南砺市立福光美術館	
資料2	石崎光瑤宛 内畠暁園葉書	大正 3 年(1914)			南砺市立福光美術館	
資料3	石崎光瑤使用 登山用帽子 (ピスヘルメット)				南砺市立福光美術館	
資料4	石崎光瑤画伯画会人名簿	大正 4 年(1915)			南砺市立福光美術館	
資料5	光瑤渡印百画会 金銭出納 簿	大正 4年(1915)			南砺市立福光美術館	
資料6	インドからの光瑤絵葉書アル バム	大正 5 ~ 6 年 (1916~1917)			南砺市立福光美術館	頁替え
資料7	『印度窟院精華 附記行』	大正 8 年(1919)			南砺市立福光美術館	
資料8	石崎光瑤宛 土田麦僊葉書	大正 9 年(1920)			南砺市立福光美術館	
資料9	石崎光瑤宛 吹田草牧葉書	大正11年(1922)			南砺市立福光美術館	

No.	作品名	制作年	技法•素材	員数	所蔵先	展示替え
資料10	『若冲画譜』(石崎光瑤旧蔵)	明治32年(1899)			南砺市立福光美術館	
資料11	石崎光瑤自用印				南砺市立福光美術館	
資料12	石崎光瑤自用印 印譜				南砺市立福光美術館	
資料13	石崎光瑤自用印 印箋 桑名鐵城作				南砺市立福光美術館	
資料14	『林蘭居画冊』	昭和16年(1941)			南砺市立福光美術館	

収蔵品展

*は個人蔵、他はすべて当館所蔵品

	4月10日	(水)	~7月7日	(日)
--	-------	-----	-------	-----

		4月10日 (水) ~ / 月 / 日 (日)
No.	作者名	作品名
_1	中村 一美	ユガテWI(Social Semantics 16)
2	斎藤 智	Untitled 79-a
3	斎藤 智	Untitled 81-2
4	中村 宏	4 半面の反復(1)
5	中村 宏	4 半面の反復(2)
6	中村 宏	4 半面の反復(3)
7	中村 宏	4 半面の反復(5)
8	中村 宏	4 半面の反復(6)
9	中村 宏	4 半面の反復(8)
10	中村 宏	4 半面の反復(9)
11	中村 宏	4 半面の反復(10)
12	中村 宏	4 半面の反復(11)
13	中村 宏	4 半面の反復(12)
14	モーリス・ルイス	ベス・アイン
15	李 禹煥	風と共に *
16	ジョアン・ミッチェル	湖
17	中西 夏之	グレーの中の白い旋回一Ⅲ
18	川村 清雄	河田熙肖像
19	川村 清雄	松竹梅
20	川村 清雄	草紙洗小町
21	池田 桂仙	山水図屛風(林和靖·楓橋夜泊)
		4月10日(水)~5月19日(日)
22	オーギュスト・ロダン	ベローナの胸像
23	マックス・クリンガー	悲惨 (『死について 第2部』より)

26 エルンスト・バルラッ	第一日(『神の変容』より)
27 二見 彰一	遠い国
28 二見 彰一	敬虔な夜への記憶(2)
	5月21日(火)~7月7日(日)
29 長谷川 潔	南仏風景
30 長谷川 潔	南仏古村(ムーアン・サルトゥー)
31 長谷川 潔	二つのアネモネ
32 長谷川 潔	オパリンの花瓶に挿した種草
33 二見 彰一	とぎれたフーガ

カナレットとヴェネツィアの輝き展

関連展示 ピラネージとローマの景観

7月18日(木) ~10月6日(日)

		77110日(水) 10710日(日)
No.	作者名	作品名
1	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	扉絵(『ローマの景観』より)
2	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	第二扉絵(『ローマの景観』より)
3	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サン・ピエトロ大聖堂、広場と柱 廊(『ローマの景観』より)
4	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サンタ・マリア・マッジョーレ聖 堂(『ローマの景観』より)
5	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ポポロ広場(『ローマの景観』よ り)
6	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	クイリナーレ広場(『ローマの景 観』より)
7	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ナヴォナ広場(『ローマの景観』 より)
8	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ロトンダ広場(『ローマの景観』 より)
9	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	トレヴィの泉(『ローマの景観』 より)
10	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ガイウス・ケスティウスのピラミッドとサン・パオロ門(『ローマの 景観』より)
11	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	カンピドーリオ広場とサンタ・マ リア・ダラコエリ聖堂(『ローマ の景観』より)
12	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	フォロ・ロマーノ、カンピドーリ オから望む(『ローマの景観』よ り)
13	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	コンスタンティヌス凱旋門とコロッ セウム(『ローマの景観』より)
14	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サン・ピエトロ大聖堂、身廊内 部(『ローマの景観』より)
15	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ウェヌスとローマの神殿(『ローマ の景観』より)

25 ケーテ・コルヴィッツ 虐げられた人たち

24 マックス・クリンガー 誘惑(『死について 第2部』より)

-	16 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	トラヤヌス記念柱(『ローマの景 観』より)		ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	X(『牢獄』第2版より)
	17 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	マルクス・アウレリウスの記念柱 (『ローマの景観』より)		ジョヴァンニ・バッティ	
	18 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サン・パオロ・フオーリ・レ・ムー ラ聖堂(『ローマの景観』より)		スタ・ピラネージ	XI(『牢獄』第2版より)
	19 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サン・ジョヴァンニ・イン・ラテ ラーノ聖堂(『ローマの景観』よ り)		ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	XII(『牢獄』第2版より)
	20 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サンタ・コスタンツァ廟(『ローマ の景観』より)		ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	XIII(『牢獄』第2版より)
	21 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	フォロ・ロマーノの一角(『ロー マの景観』より)	/16	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	XVI(『牢獄』第2版より)
	22 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	コンスタンティヌスのバジリカ (『ローマの景観』より)		ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	XV(『牢獄』第2版より)
	23 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	アントニヌスとファウスティーナ の神殿(『ローマの景観』より)		ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	XVI(『牢獄』第2版より)
	ジョヴァンニ・バッティ 24 スタ・ピラネージ	サン・ジョヴァンニ・イン・ラテ ラー/広場のオベリスク(『ローマ	/14	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サン・パオロ門近く、ガイウス・ ケスティウスのピラミッド
	ショヴァンニ・バッティ	の景観』より) セプティミウス・セウェルス凱旋	50	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ピラネージ作品のカタログ
	ジュヴァンニ・バッティ	門(『ローマの景観』より) サンティ・ジョヴァンニ・エ・パ	\\h_1	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	イクノグラフィア(古代ローマの カンプス・マルティウスのプラン)
	³⁶ スタ・ピラネージ	オロ聖堂のクラウディウス神殿遺構(『ローマの景観』より)		ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ローマおよびカンポ・マルツィオ の地図
	27 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	船着場リペッタ(『ローマの景観』 より)	53 -3	ヤン・ボト	ポンテ・モッレ(『ローマ周辺の 眺め』より)
4	28 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	サン・ピエトロ大聖堂、サグレス ティア広場から望む(『ローマの 景観』より)		イスラエル・シルヴェ ストル	カエキリア・メテッラの墓(『古 今のローマの景観』より)
		スペイン広場(『ローマの景観』より)	99	イスラエル・シルヴェ ストル	シビラ神殿、ティヴォリ(『古今 のローマの景観』より)
-	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	サンタンジェロ橋とカステル・サ ンタンジェロ(『ローマの景観』		イスラエル・シルヴェ ストル	パラティーノの丘の皇帝宮殿 (『古今のローマの景観』より)
_		より)		イスラエル・シルヴェ ストル	ミネルウァ・メディカの神殿 (『古今のローマの景観』より)
_	31 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	通称フォルトゥーナ・ウィリリスの神殿(『ローマの景観』より)		イスラエル・シルヴェ ストル	コンスタンティヌスのバシリカ (『古今のローマの景観』より)
_	32 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ 29 ジョヴァンニ・バッティ	オクタウィアのポーティコ、外観(『ローマの景観』より)	59	イスラエル・シルヴェ ストル	ルカーノ橋とプラウティウス家の 墓、ティヴォリ(『古今のローマ の景観』より)
_	スタ・ピラネージ	I(『牢獄』第2版より)		イスラエル・シルヴェ	サント・ステファノ・ロトンド教会近辺(『古今のローマの景観』
ć	34 ジョヴァンニ・バッティ 34 スタ・ピラネージ	II(『牢獄』第2版より)		ストル イスラエル・シルヴェ	より) / / / / / / / / / / / / / / / / / / /
-	35 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	III(『牢獄』第2版より)		ストル	の景観』より)
_				イスラエル・シルヴェ ストル	ウェスタ神殿(『古今のローマの 景観』より)
;	36 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	IV (『牢獄』第2版より)	h.s	イスラエル・シルヴェ ストル	コンスタンティヌス凱旋門(『古 今のローマの景観』より)
-	37 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	V (『牢獄』第2版より)		ストル	フラミニア街道の遺構(『古今のローマの景観』より)
_				イスラエル・シルヴェ ストル	古港(『古今のローマの景観』より)
_	38 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	VI(『牢獄』第 2 版より)			
	39 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	VII(『牢獄』第2版より)	石崎光 ———	瑶展関連展示 第1部	3 異国への眼差し
	40 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	VIII(『牢獄』第2版より)	No.	作者名	作品名 1月4日(土) ~ 2月16日(日)
	11 ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	IX(『牢獄』第2版より)	1	守野永納	蘭亭曲水図屛風
_					

2	狩野永岳	四季耕作図屏風
6	伊藤若冲	白象群獣図 *
7	宋紫石	富嶽図 *
8	司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図
9	司馬江漢	七里ケ浜図 *
10	大久保一丘	富嶽明暁図
17	椿椿山	山海奇賞図巻
18	岡田半江	洋人富士山遠望図屛風 *
19	狩野(勝川院)雅信	伊豆浦黒船来港図 *
20	菊池容斎	蒙古襲来之図
		1月4日(土)~1月23日(木)
3	平井顕斎	耕織図
4	山本琹谷	無逸図
11	歌川広重	東海道五拾三次(保永堂版): 品川 日之出
12	歌川広重	東海道五拾三次(保永堂版): 戸塚 元町別道
13	歌川広重	東海道五拾三次(保永堂版): 平塚 縄手道
		1月24日(金) ~ 2月16日(日)
5	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風
14	歌川広重	東海道五拾三次(保永堂版): 御油 旅人留女
15	歌川広重	東海道五拾三次(保永堂版): 鳴海 名物有松絞
16	歌川広重	東海道五拾三次(保永堂版): 関 本陣早立

石崎光瑤展関連展示	第2部	絢爛たる花鳥画

2月18日(火) ~4月6日(日)

No.	作者名	作品名	
1	狩野探幽	白鷴図	
2	土佐光起	秋草鶉図	
3	狩野周信	蓮池鷺図	
4	狩野寛信	柳に鶯図	*
5	狩野雅信	花鳥図	
6	狩野安信・常信・益 信・探信・探雪	名画集	
7	狩野栄信・養信	唐画流書手鑑	

8 石田幽汀	群鶴図屏風
9 伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風 (3月23日(日) までの展示)
10 呉春	水禽孔雀図屏風(3月25日(火) _* からの展示)
11 長沢蘆雪	牡丹孔雀図
12 山口素絢	春秋草花図屏風
13 谷文晁	雪中枯木鵲図 *
14 金子金陵	雪中芭蕉鶴図 *
15 椿椿山	花卉図
16 山本梅逸	花卉竹石図
17 岡本秋暉	孔雀図屛風 *
18 岡本秋暉	群鳥図 *

5品:	コーナー	-	
No.	作者	名	作品名
			4月10日(水)~5月19日(日)
1	横山	大観	日出処日本
2	チャーン	-ルズ・ワーグマ	富士遠望図
3	山口	長男	裂
			5月21日(火)~7月7日(日
1	石川	欽一郎	駿河湾
2	ヨーハョンキ	ンシベルトールト・	オンフルール近郊の街道
3	吉仲	太造	赤い電話
			7月18日(火)~10月6日(木
1	野口	謙蔵	虹の風景
2	ユベー	・ル・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォー リ
3	李昂	导 煥	照応
			10月9日(水)~12月15日(日
1	東山	魁夷	秋富士
2	アシル ロン	ニエトナ・ミシャ	廃墟となった墓を見つめる羊飼い
3	加藤	泉	無題

			2025年1月4日(土) ~ 1月21日(火)
1	秋野	不矩	廻廊
2	須田	国太郎	筆石村
3	伊藤	隆史	壁ノ鳥
			1月23日(木) ~ 2月16日(日)
1	淀井	敏夫	野の兎
2	須田	国太郎	筆石村
3	伊藤	隆史	壁ノ鳥
			2月18日(火)~4月6日(日)
1	淀井	敏夫	野の兎
2	五姓日	田 義松	富士

ロダン館開館30周年記念 《地獄の門》ができるまで:素描、試作から完成へ

10月9日(水)~12月15日(日)

- 〇会期中の展示替えは下記のとおり。No. 1、15、20:10月 9日(水) ~11月10日(日)。No. 2、16、21、27:11月12日(火) ~12月15日(日)。
- ○所蔵者の記入がない作品は、静岡県立美術館所蔵。*印のついた作品は、フランスのロダン美術館所蔵のオリジナル作品 から精巧に作成されたファクシミリ。
- ○ウェルギリウス、メルクリウスの表記は下記を参照し、これらの異なる表記はご所蔵者に従った。 1994. 黒江光彦監『西洋絵画作品名辞典』三省堂 2003. 三省堂編修所編『コンサイス外国人名事典』(第3版)三省堂

No.	作者名/写真家名	生没年	作品名	制作年/撮影年	材質・技法	サイズcm (平面:タテ×ヨコ、 立体:高さ×幅× 奥行)	所蔵者
1	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	門扉下絵	不詳	鉛筆、紙	19.2×14.5	個人
2	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	門扉下絵	不詳	鉛筆、インク、紙	19.2×14.9	個人
3	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	パネルを分割した 門の草案 *	1880	黒鉛筆、グアッシュ と褐色インクの淡 彩、ペンと褐色イ ンク、厚紙の上に ヴェラム紙	19.1×15	
4	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	《地獄の門》のための構想*	1880	黒鉛筆、ペンとインク、透写紙(紙に貼付)	19.3×14.9	
5	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	考える人(小型)	1880(鋳造1920 以前)	ブロンズ	$37.2 \times 28.6 \times 23.6$	
6	ヴィクトル・パヌリエ	1840 — 1907以 降	《地獄の門》の枠 前の《考える人》 *	1882	鶏卵紙、彫刻頭部 に鉛筆の加筆	24×11.5	
7	ヴィクトル・パヌリエ	1840-1907以 降	足場の上の《考え る人》、《地獄の 門》の骨組みの前 で*	1882	鶏卵紙	14.5×10	
8	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	接吻	(原型)1886 (鋳造1918以前)	ブロンズ	$73.0 \times 44.0 \times 45.0$	東京富士美術館
9	ウジェーヌ・ドリュエ	1867 – 1916	《接吻》*	1898頃	ゼラチン・シルバー・ プリント	39.3×30	
10	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	3 人の子どもに囲 まれたウゴリーノ*	1880頃	黒鉛筆、インクの 淡彩、ペンと褐色・ 赤インク、グアッシュ のハイライト、ヴェ ラム紙	17.3×13.7	
11	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	獄中のウゴリーノ *	1880頃	黒鉛筆、褐色インクの淡彩、ペンと黒インク、グアッシュのハイライト、紙	16.4×11.7	
12	E・フルーレ	?-1909以降	ウゴリーノのトルソ の習作 *	1881頃	鶏卵紙、褐色イン クの加筆	17×12.9	
13	E・フルーレ	?-1909以降	ウゴリーノのトルソ の習作 *	1881頃	鶏卵紙、ペン・褐 色インクの加筆と 記銘	14.5×10	
14	オーギュスト・ロダン	1840 – 1917	《考える人》、ア ダムとイヴを伴う 《地獄の門》の構 想*	1880	ペンと褐色インク 、 紙	16.5×11.2	
15	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	ダンテとヴェルギリ ウス	19世紀	インク、紙	17.0 x 12.0	国立西洋美 術館
16	オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	ダンテとウェルギリ ウス、「より空想的 な馬」*	1880頃	黒鉛筆、褐色インクの淡彩、ペンと 褐色インク、ヴェ ラム紙	16.4×12.7	
17	オーギュスト・ロダン	1840 – 1917	ミノス、地獄への 影の到着*	1880頃	インクの淡彩、ペ ンと褐色インク、 黒鉛筆、紙	8.5×11.4	

18 オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	横たわり、抱き合 う二人、パオロと フランチェスカの習 作?*	1880-1882頃	グアッシュ、ペンと 褐色インク、 賽の 目入りの紙	10.9×17	
19 オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	二人の女性を抱擁 するケンタウロス*	1880	黒・褐色インク、 白のグアッシュ、 紙	15×19.5	
20 オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	ケンタウロス	不詳	淡彩、インク、方 眼紙	18.2×13.9	個人
21 オーギュスト・ロダン	1840-1917	半人半馬と人	不詳	淡彩、インク、紙	16.9×11.9	個人
22 オーギュスト・ロダン	1840 – 1917	抱き合う二人、ま たは愛欲の圏*	1880-1884頃	褐色インクの淡彩、ペンと黒インク、 黒鉛筆、罫紙	16.2×10.5	
23 オーギュスト・ロダン	1840-1917	私は美しい	1885頃(原型)	ブロンズ	$70 \times 32 \times 33$	国立西洋美 術館
24 オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	両腕で女性を持ち 上げる男性*	1880-1884頃	黒鉛筆、褐色イン クの淡彩、筆とイ ンク、ペンと褐色 インク、ヴェラム紙	17.3×19.5	
25 オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	死の舞踏 *	1888以前	黒鉛筆、ペンと黒 インク、透かし入 り紙の上に糊つき 罫紙	13.9×9.1	
26 オーギュスト・ロダン	1840-1917	中空の悪魔*	1880 — 1889	黒インク、墨、ヴェ ラム紙の上に切り 抜き	13×3.8	
27 オーギュスト・ロダン	1840 - 1917	メルキュール	不詳	淡彩、インク、紙	8.9×5.5	個人
28 オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	ネレイスたち	1887以前	ブロンズ	$43 \times 47 \times 35$	国立西洋美 術館
29 ウジェーヌ・ドリュエ	1867 – 1916	《地獄の門》 *	1898頃	ゼラチン・シルバー・ プリント	40×30	
30 ウジェーヌ・ドリュエ	1867 — 1916	アルマのパヴィリオ ンの 《地獄の門》 *	1900	ゼラチン・シルバー・ プリント	26.9×20.8	
31 ジャック=エルネスト・ ビュローズ	1858 — 1942	《石を持つカリア ティード》*	1903以降	ゼラチン・シルバー・ プリント	36.5×27	
32 ジャック=エルネスト・ ビュローズ	1858 — 1942	ムードンの庭園の 《大きい影》*	1903以降?	ゼラチン・シルバー・ プリント	35.6×25.3	
33 ジャン=フランソワ・ リメ	1855 — 1941	《大きい影》*	1904頃	重クロム酸ゴム・プ リント	39×25.6	
34 エドワード・スタイケ ン	1879 – 1973	ロダン、《考える 人》*	1902	重クロム酸ゴム•プ リント	26×32.2	
スティーヴン・ホーイ 35 ス ヘンリー・コールズ	1878 — 1969 1875 — ?	《考える人》*	1903-1904	カーボン・プリント	22.8×16.8	
36 ジャン=フランソワ・ リメ	1855 — 1941	《考える人》*	1904	重クロム酸ゴム・プ リント	40.7×25.3	
37 ジャック=エルネスト・ ビュローズ	1858 — 1942	国民美術協会サロンの《シベール》 *	1905	カーボン・プリント	35.5×25.5	
38 ジャック=エルネスト・ ビュローズ	1858 — 1942	国民美術協会サロンの《シベール》 *	1905?	カーボン・プリント	34.5×25	
39 クロード・モネ	1840 — 1926	ルーアンのセーヌ川	1872	油彩、キャンヴァ ス	49.2×76.2	
40 カミーユ・ピサロ	1830-1903	ライ麦畑、グラット=コックの丘、 ポントワーズ	1877	油彩、キャンヴァ ス	60.3×73.7	
41 オーギュスト・ロダン	1840 — 1917	世界を導くキュー ピッドたち	1881	ドライポイント 、 和 紙	20.1×25.2	
$42 \begin{array}{c} \ddot{y}_{\tau} \gamma = 7 \\ \ddot{z}_{\tau} \gamma = $	1850 — 1924	オーギュスト・ロダ ン、習作		エッチング、ドライ ポイント、紙	12.1×8.5	
43 ト・ルノワール	1841 – 1919	オーギュスト・ロダ ンの肖像	1914頃	リトグラフ、紙	64.3×48.5 (紙寸)	

移動美術展

「リレーション 奥中章人/堀園実 二人展」

(会場:島田市金谷生きがいセンター 夢づくり会館 ホール 会期:令和6年9月14日(土)~9月29日(日))

No.	作者名	作品名	素材・技法	制作年	寸法 (縦×横×奥行cm)
1	奥中章人	INTER-WORLD/SPHERE: Relation of Air, Water, Light and Us	空気、水、光、石油由来 フィルム(PET、PO)、ファ ン、LED	2022	5×15×15 m (可変)
2	堀園実	土地をみる	ジェスモナイト、鏡、椅子、 ビデオインスタレーション	2024	サイズ可変
3	堀園実	川を狩る	焼成前粘土、布	2024	$120 \times 300 \times 120$

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年 3 月29日条例第43号 平成3年3月19日条例第2号 平成4年3月25日条例第14号 平成8年3月28日条例第11号 平成11年3月19日条例第16号 平成13年7月24日条例第45号 平成15年3月12日条例第2号 平成17年7月15日条例第49号 平成22年3月26日条例第23号 平成24年3月23日条例第1号 平成26年3月28日条例第29号 平成31年3月26日条例第18号 令和5年3月29日条例第14号 令和7年3月27日条例第19号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例を ここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 (趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び 使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もつて県民の文化の発展に 寄与するため、静岡県立美術館(以下「美術館」とい う。)を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようと する者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなけれ ばならない。

(特別観覧)

- 第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品につい て学術研究等のために必要があると認めるときは、当 該美術品の模写、模造、撮影等(以下「特別観覧」と いう。)をしようとする者に対して、当該特別観覧を 承認することができる。
- 2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度 において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定め る額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂(以下「県民ギャラリー

- 等」という。)を使用しようとする者は、知事の承認を 受けなければならない。
- 2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために 必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

- 第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民 ギャラリー等の使用を承認しないことができる。
 - (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認 めるとき。
 - (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
 - (3) その他その使用を不適当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

- 第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者(以下 「使用者」という。)が次の各号の一に該当するときは、 その承認を取り消し、又は使用を制限することができ る。
 - (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
 - (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反し たとき。
 - (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けた とき。
- 2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることが あつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

- 第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別 表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。 (観覧料等の減免)
- 第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観 覧料、特別観覧料又は使用料(以下「観覧料等」とい う。)を減免することができる。

(観覧料等の不環付)

- 第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が 特別の理由があると認めるときは、この限りでない。 (職員)
- 第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。 (協議会の設置)
- 第13条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の 規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会(以下 「協議会」という。)を置く。

(一部改正〔令和5年条例4号〕)

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員(以下「委員」という。)の任 命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教 育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある 者の中から任命することとする。

(追加〔平成24年条例第1号〕)

(協議会の委員)

第14条 委員の定数は、15人以内とする。

- 2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(一部改正〔平成24年条例第1号〕)

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号·17年49号〕)

附則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、 第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行 する。

附 則(平成元年3月29日条例第43号)

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用 に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、 管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわ らず、なお従前の例による。

附 則(平成3年3月19日条例第2号)

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則(平成4年3月25日条例第14号)

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用 に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、 管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわ らず、なお従前の例による。

附 則(平成8年3月28日条例第11号)

(平成24年3月23日条例第1号)

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用 に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、 管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわ らず、なお従前の例による。

附 則(平成11年3月19日条例第16号)

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用 に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、 管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわ らず、なお従前の例による。

附 則(平成13年7月24日条例第45号)

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成15年3月12日条例第2号)

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則(平成17年7月15日条例第49号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成22年3月26日条例第23号)

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月23日条例第1号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月23日条例第29号)

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用 に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、 管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわ らず、なお従前の例による。

附 則(平成31年3月26日条例第18号)

- 1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用 に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、 管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわ らず、なお従前の例による。

附 則(令和5年3月29日条例第14号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和7年3月27日条例第19号)

この条例は、令和7年4月1日から施行する。

別表第1(第3条関係)

(一部改正〔平成22年条例第23号(一部改正〔平成22年 条例第23号•令和7年条例第19号〕)))

(1) 常設展示

利	用	区	分	観	覧	料
個		,	人		300円	
寸		1	体	1	人につき	200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、 高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ず る者以外のものをいう。

- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の 常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とする ことができる。

(2) 企画展示

所要経費等を勘案して知事がその都度定める額

別表第2(第5条関係)

利用	区 分	特	別	観	覧	料
模	写	1 y	点1日は	こつき	2,00	0円
模	造	1,	点1日は	こつき	2,00	0円
撮	影	1,	点1回に	こつき	4,00	0円
熟	覧	1,	点1日は	こつき	1,00	0円
原板	使 用	1,	点1回は	こつき	3 ,00	0円

別表第3(第9条関係)

(一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・ 11年16号 • 13年45号 • 15年2号 • 31年18号)

(1) 県民ギャラリー

利用	区 分	使用料
作		10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
八物付で似収りる場合 	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
八場件を倒収しない場合	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講堂

	使		用		
午	前	午	後	全	日
10時から12	時30分まで	13時から1	7時30分まで	10時から17	'時30分まで
7,750円		14,050円		21,8	800円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 施行規則

平成7年3月26日 規則第24号

改正 平成5年3月25日規則第13号 平成6年3月10日規則第5号 平成9年3月28日規則第51号 平成12年3月31日規則第17号 平成13年7月24日規則第59号 平成20年3月31日規則第19号 令和元年7月1日規則第4号 令和3年3月26日規則第5号 令和7年3月27日規則第16号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施 行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び 使用料に関する条例(昭和60年静岡県条例第38号。以 下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定める ものとする。

(開館時間及び休館日)

- 第2条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の開 館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美 術館の長(以下「館長」という。)が特に必要と認める 場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、 若しくは休館日以外の日に休館することができる。
 - (1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただ し、入館時間は、午後5時までとする。
 - (2) 休館日

- ア 月曜日 (その日が国民の祝日に関する法律(昭 和23年法律第178号)に規定する休日に当たるとき は、その翌日以降の最初の休日でない日)
- イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

(一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕)

(観覧手続)

- 第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、 条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付 を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体 については、観覧後に観覧料を納めることができる。 (特別観覧手続)
- 第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしよう とする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧 承認申請書を館長に提出しなければならない。
- 2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認 書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

- 第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等 を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号に よる県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出し なければならない。
- 2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、 県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交 付するものとする。

(使用の制限)

- 第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対 して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。
 - (1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷 するおそれのある者
 - (2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があ ると認められる者
 - (3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承 認を受けた者(以下「使用権利者」という。)は、その 権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(原状回復)

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速 やかに、県民ギャラリー等を原状に復しなければなら ない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取 消し等の処分を受けたときも、同様とする。

(損害賠償)

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由 により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美 術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害 を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次 の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、そ の減免する額は、当該各号に定める額とする。

- (1) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉 手帳若しくは難病の患者に対する医療等に関する 法律(平成26年法律第50号)第7条第4項に規定 する医療受給者証の交付又は同法第28条第2項の 規定による指定難病にかかっている旨の証明を受 けている者(以下「障害者」という。)が常設展示 又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (2) 障害者が常設展示又は企画展示を観覧するときに 現に付き添って介護をしている者(障害者1人に つき1人に限る。)が常設展示又は企画展示を観覧 する場合 観覧料の全額
- (3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料 (団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該 観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料(小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校 及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。)をいう。)の2分の1の額(当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額)
- (5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動(これらに準ずるものを含む。) として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を 引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の 全額
- (6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動(これらに準ずるものを含む。)として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額
- (7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館 長が別に定める額
- 2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、 様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、 その承認を受けなければならない。ただし、前項第1 号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企 画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場 合であって館長がその必要がないと認めるときは、こ の限りでない。
- 3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料 等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとす る。

(一部改正〔平成 5 年規則13号・9 年51号・12年17号・ 20年19号・令和 7 年16号〕)

(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

- (1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用 者の責めに帰することができない理由により観覧、 特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなく なったとき。
- (2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。
- 2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は 様式第4号による特別観覧料(使用料)還付申請書を 館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号 に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラ リー等使用料の還付については、この限りでない。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 即

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則(平成5年3月25日規則第13号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月10日規則第5号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月28日規則第51号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月31日規則第17号)

- 1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、 管理及び使用料に関する条例施行規則の様式(以下 「旧様式」という。)により提出されている申請書は、 改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関 する条例施行規則の相当する様式により提出された申 請書とみなす。
- 3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用 紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則(平成13年7月24日規則第59号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日規則第19号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(令和元年7月1日規則第4号)

- 1 この規則は、不正競争防止法等の一部を改正する法律(平成30年法律第33号)の施行の日(令和元年7月1日)から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の 様式により提出されている申請書等は、改正後のそれ ぞれの規則の相当する様式により提出された申請書等 とみなす。
- 3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の 様式により作成されている用紙は、当分の間、調整し て使用することができる。

附 則(令和3年3月26日規則第5号)

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の規定及び様式により提出されている申請書等は、改正

後のそれぞれの規則の相当する規定及び様式により提出 されたものとみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の 様式により作成されている用紙は、当分の間、調整し て使用することができる。

附 則(令和7年3月27日規則第16号)

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

様式第1号(第4条関係)

(用紙 日本産業規格A4 縦型)

(一部改正〔平成 6 年規則 5 号·12年17号·令和元年 4 号〕)

特別観覧承認申請書

月 \exists

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品	美術品の名称				作者	名	点	数
特別観覧 の 目 的								
区分	ħ.	莫写	ŧ	莫造	撮影	熟覧	原板使	i用
日時			年年	月月	日日	時から 時から		まで まで
	模	写		点	日	円	合	計
	模	造		点	H	円		н
内訳	撮	影		点	П	円		
	熟	覧		点	日	円		
	原板	使用		点	П	円		円
備考								

様式第2号(第5条関係)

(用紙 日本産業規格A4 縦型)

(一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12年17号・令和元年 4 号〕)

県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 \Box

静岡県立美術館長 様

(法人にあっては、その 主たる事務所の所在地) 住所

氏名 (法人にあっては、その) 名称及び代表者の氏名

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称											
展覧	ī会 、 講	演等の	内容								
使	用	区	分	県」	旲ギ.	ャラ	リー	(A	• B)	講堂
使	用	期	間				日日)	時 時 日間	分から 分まで
入場	料等の	徴収の	有無	有•	無						円
主	催	者	名								
連絡	責任者	香及び	電話								
後	援	者	名								

(注)展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号(第10条関係)

(用紙 日本産業規格A4 縦型)

(一部改正〔平成6年規則5号・令和元年4号・3年5号〕)

観覧料等減免申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 (法人にあっては、その) 主たる事務所の所在地

氏名 (法人にあっては、その) 名称及び代表者の氏名)

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日時	年	月日()月日()	時 分から 時 分まで
観 覧 人 員			人
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員			人
責任者氏名			
責任者電話番号			
観 覧 料 等			円
減 免 申 請 額			円

様式第4号(第11条関係)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

(一部改正〔平成6年規則5号・令和元年4号・3年5号〕)

特別観覧料 還付申請書

使 用 料

年 月 \exists

静岡県立美術館長 様

住所「法人にあっては、その 主たる事務所の所在地

氏名

(法人にあっては、その 名称及び代表者の氏名)

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。 使 用 料

特別観覧承認書等の 年月日及び文書番号	
還付を受けようと する理由	
還付を受けようと する金額	円

(静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について)

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則(平成3年静岡県規則第24号)第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びそ の他の研究者が学術研究のために特別観 覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育 諸学校の教諭が教科研究のために特別観 覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行う ために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行う ために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1 に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める 額

附則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

(目的)

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施 行規則(平成3年静岡県規則第24号)第5条及び第12 条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、 次のとおりこの規程を定める。

(利用範囲)

- 第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催 する場合に利用できる。
- 2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする 場合は利用できない。

(使用期間)

- 第3条 使用期間は、原則として1週間(月曜日13時~ 翌週月曜日12時30分)を単位とし、引き続き使用する 場合は最大4週間とする。
- 2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分まで とする。

(申込期間)

- 第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1から 15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合 は、翌月使用の申込とする。
- 2 優先予約を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日~10月15日	前年9月1日~9月15日
5月	前年11月1日~11月15日	前年10月1日~10月15日
6月	前年12月1日~12月15日	前年11月1日~11月15日
7月	1月1日~1月15日	前年12月1日~12月15日
8月	2月1日~2月15日	1月1日~1月15日
9月	3月1日~3月15日	2月1日~2月15日
10月	4月1日~4月15日	3月1日~3月15日
11月	5月1日~5月15日	4月1日~4月15日
12月	6月1日~6月15日	5月1日~5月15日
1月	7月1日~7月15日	6月1日~6月15日
2月	8月1日~8月15日	7月1日~7月15日
3月	9月1日~9月15日	8月1日~8月15日

(申込方法)

- 第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、 静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。 (設備取り付け等)
- 第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、 備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要と する。

(物品等の販売)

- 第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。
- 2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催 者が責任を持って行うものとする。

(現状回復義務)

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると 共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受け なければならない。残留された物品等に関しては、美 術館職員は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員 が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、令和元年12月25日から施行する。

■静岡県立美術館講堂利用規程

(目的)

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則(平成3年静岡県規則第24号)第5条及び第12

条に基づき、講堂の管理を適正に行うため、次のとお りこの規定を定める。

(利用範囲)

- 第2条 講堂は、芸術文化の発表と普及の目的以外での 使用は認めない。
- 2 芸術文化の発表の目的で使用する場合であっても、 入場料を徴収する場合は利用できない。

(使用期間)

- 第3条 使用期間は、1日もしくは半日とする。
- 2 使用時間は、1日の場合は午前10時から17時30分ま でとし、半日の場合、午前は、10時から12時30分まで、 午後は、13時から17時30分までとする。

(申込期間)

- 第4条 申込期間は、使用希望する月の6ヶ月前の1日 から15日とする。
- 2 県民ギャラリーにおいて優先予約を申請する場合の み、講堂の優先予約を認めるものとする。なお、優先 予約の申込期間は、使用希望する月の7ヶ月前の1日 から15日とする。

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、 静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込 む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、 備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要と する。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許 可を必要とする。

(備品の管理)

第8条 使用中の備品等の管理については、主催者が責 任を持って行うものとする。

(原状回復義務)

第9条 退出時には施設等を原状に復し、美術館の点検 を受けなければならない。残留された物品に関しては、 美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員 が貸出施設に立ち入ることができる。

附則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の美 術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館 に静岡県立美術館専門委員(以下「委員」という。)を 置く。

(職務)

- 第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。
 - (1) 美術品の選定に関すること。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関すること。 (組織)
- 第3条 委員は6名以内とする。
- 2 特別の事項を調査する必要のあるときは、美術館長 は臨時委員を委嘱することができる。
- 3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委 員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を 有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

- 第5条 委員の任期は2年とする。
- 2 委員は再任することができる。
- 3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退 任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要 な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱(昭和57年9月1日施 行)及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱(昭和 57年9月1日施行)は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美 術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長 に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協 議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議会の委員)

- 第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校 教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する 活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事 が任命する。
- 2 委員の定数は、15人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠 けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任 期間とする。
- 4 委員は、再任することができる。

(協議会の会長等)

- 第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。
- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、 又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 会長及び副会長にともに事故があるとき、又は会長

及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が 指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、 可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。 (その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものと みなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附則

1 この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長にはスポーツ・文化観光部長、副会長には、部長代理をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して 物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告する ものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に 関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附貝

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附即

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成11年4月1日から施行する。

附 目

この改正は、平成12年4月1日から施行する。

附則

この改正は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和2年4月1日から施行する。 別表

スポーツ・文化観光部長 部長代理 文化局長 文化政策課長 美術館副館長

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

- 1 傍聴する場合の手続
- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。
- 2 傍聴に当たって守るべき事項 傍聴者は次の事項を守ってください。
 - (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手 その他の方法による可否の表明等をしないこと。
 - (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
 - (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。
- 3 秩序の維持
- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

110 令和6年度静岡県立美術館年報

■静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)では、 より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の 効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う 自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ 継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価 及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する 「静岡県立美術館第三者評価委員会」(以下「委員会」 という。)を設置する。

(所掌事務)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。
 - (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
 - (2) 県庁の支援体制等に関する評価
 - (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改 善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること (委員)
- 第3条 委員は、知事が委嘱する。
- 2 委員の人数は、10名以内とする。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠け た場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期 間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

- 第4条 委員会に、委員長1人を置く。
- 2 委員長は、知事が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。 (会議)
- 第5条 委員会は、委員長が招集する。
- 2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、 別に定める。
- 3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科 会を置くことができる。
- 4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求め ることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県 スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に 必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

- 1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。
- 2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3 条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日まで とする。

(最終改正 令和2年9月30日)

■静岡県立美術館第三者評価委員会運営要領

(趣旨)

- 第1 この要領は、「静岡県立美術館第三者評価委員会」 (以下「委員会」という。) の運営に関し、静岡県立美 術館第三者評価委員会設置要綱(以下「要綱」という。) に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。 (報償費及び旅費)
- 第2 委員会及び要綱第5条の委員会及び分科会へ出席 した委員には、次のとおり報償費及び旅費を支給する。

(1) 報償費

委員長 12.000円

その他の委員 11.100円

会議に出席した者 11,100円

(2) 旅費

県の旅費計算方法に準じて計算した額

要綱第5条第4項の規定に基づき

- 2 前項に規定するもののほか、委員会及び分科会にお ける検討に必要な作業、打合せ等を行った委員には、 別に定める報償費及び旅費を支給することができる。 (文書等の記号及び番号)
- 第3 施行する文書等には、次に定めるところにより、 記号及び番号を付するものとする。
 - (1) 記号は「三評」とする。
 - (2) 番号は、別紙文書収発簿により付するものとする。 ただし、軽易な文書等については番号を省略し、号 外で処理することができる。

(雑則)

第4 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関 し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成18年9月21日から施行する。

(最終改正 平成24年5月31日)

組織•名簿

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	10人	19人
非常勤	1人			5人	6人

■美術館協議会委員

日比野 秀 男 掛川市二の丸美術館館長

掛川市ステンドグラス美術館館長

堀 切 正 人 常葉大学教育学部教授

常葉ギャラリー館長

松 永 由弥子 静岡産業大学スポーツ科学部教授 石 川 善太郎 (株)静岡新聞社執行役員編集局長

加 藤 種 男 静岡文化財団アーツカウンシルしずお

か アーツカウンシル長

入 口 強 志 静岡市校長会図工·美術部部長(静

岡市立田町小学校校長)

鬼 頭 宏 静岡県文化協会会長

曽根正弘 静岡県立美術館友の会会長

富 沢 壽 勇 地域連携機関(ムセイオン)代表

(静岡県立大学副学長)

本郷 徹志 全国報道機関代表(NHK静岡放送局

長)

冨 澤 か な 東京大学大学院人文社会系研究科准

教授

鈴 木 雅 道 高等学校美術・工芸教育研究会会長

(県立横須賀高等学校校長)

望月宏明(社)静岡県観光協会専務理事

■専門委員

榊 原 悟 岡崎市美術博物館館長・おかざき世

界子ども美術博物館特任館長

群馬県立女子大学名誉教授

栗 田 秀 法 跡見学園女子大学文学部教授

潮 江 宏 三 京都市立芸術大学名誉教授

建 畠 哲 埼玉県立近代美術館館長

京都芸術センター館長

山 梨 絵美子 千葉市美術館長

■資料評価委員

都 築 直 哉 静岡県スポーツ文化・観光部長

平 塚 晴 利 静岡県スポーツ文化・観光部部長代

理

松 田 有 紀 静岡県スポーツ文化・観光部文化局

長

鈴 木 亜紀子 静岡県文化政策課長

和 田 誉 雄 静岡県立美術館副館長

■職 員

長 木下直之 館 長 館 田誉雄 副 和 葉 寿 久 企画総務課長 稲 \equiv 桂 企画総務班長 輪 主 幹 後藤 文 彦 主幹兼総括主査 後 藤 健 志 主 任 伊 藤 圭 主 事 深澤史 織 主 査 條 直 子 主 任 落 合 芳 彦 学芸課長 上 充 代 石 上席学芸員 南 美 幸 上席学芸員 新 田建 史 上席学芸員 谷 承 子 Ш 上席学芸員 喜 夛 孝 臣 上席学芸員 植松 篤 上席学芸員 家 映 子 貴 主任学芸員 浦 澤 倫太郎 主任学芸員 薄田大輔

■会計年度任用職員

任

主

中島友絵

山本勇実

馬場夢乃

岡 崎 あさ乃 (R6.7.16~)

中 村 紀代美

太 田 佳 成 (~R6.10.31)

川 島 芳 博 (R6.11.5~)

歳入・歳出決算

■歳入決算

(単位:千円)

項目	金 額
美術館観覧料	21,895
共催展収入	36,178
県民ギャラリー等使用料	3,649
財産売払・貸付・運用収入	5,922
助成金等	2,000
その他	2,169
クラウドファンディング寄附金	10,609
企業寄附金	2,700
計	85,122

■歳出決算

■歳出決算	(単位:千円)
項目	金 額
管理費	283,384
運営費	51,912
施設管理費	231,472
事業費	100,797
企画展事業費	74,606
常設展事業費	7,513
資料•普及事業費	18,678
館蔵品取得費	1,100
プロムナード魅力回復事業費	10,908
施設整備費	149,677
基金積立	2,375
計	548,241

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本館	ロ ダ ン 館
所 在 地	静岡市駿河区谷田53番2号	同左
敷 地	県文化センター内(約130,000㎡)	同左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、2階建
	建築面積:6,624.07㎡	建築面積:2,391.25 ㎡
	延床面積:9,238.51㎡	延床面積:3,024.36㎡
仕 上	外壁:湿式磁器炉器質無釉タイル貼	外壁:花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、タ
	屋根:緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水	イル打込PC板、吹付タイル
	床 :花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、	屋根:カラーステンレス葺、トップライト(アルミ、
	長尺塩化ビニールシート貼、フローリング	複層ガラス)
	壁 :安山岩「由良赤石」半磨仕上	床 :タイルカーペット
		壁 :大理石、インド砂岩、クロス貼
		天井:石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工期	昭和59年3月~昭和60年8月	平成4年3月~平成5年11月

■設備概要

■設備機	t 发				
区	分		本館		ロ ダ ン 館
電気	設 備	受変電設備	受電電圧6,600V60Hz 変圧器1 ϕ 300KVA、3 ϕ 400KVAモールド型	受変電設備	受電電圧6,600V60Hz 変圧器1 ϕ 280K VA、3 ϕ 350KVA 契約電力620KW
		発電設備	ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力375KVA3φ3W6,600V	発電設備	ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力225KVA3 φ 3W220V
		太陽光発電設備	10KW×2台		
		蓄電池設備	キュービクル式直流電源装置、充電 サイリスタ全自動整流器	蓄電池設備	屋外キュービクル式直流電源装置
		弱電設備	舞台調光、舞台音響、ITV監視、入 館者表示、映像資料(ビデオ)、電 話、放送、電気時計、テレビ共聴	弱電設備	ITV監視、入館者表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴
		防災、防犯設備	警備センター集中監視複合盤(自火報、防排煙)、防犯非常錠制御盤、防災アンプ(360W)、ITV監視装置、地図式表示版	防災、防犯設備	同 左
空気調	和設備	熱源機器	直焚吸収冷温水発生機 (150USRT、40USRT)、温水焚吸収冷温水機(30USRT)、空気熱源回収型スクリュー式ヒートポンプ冷凍機(100USRT)、プレート式熱交換機(396,300Kcal/h)		直焚吸収冷温水発生機 (80USRT) 2 基、蒸気ボイラー (250Kg/h) 2 基、 空冷チラーユニット (3.77USRT) プ レート式熱交換機 (86,000Kcal/h)
		蓄熱層	冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用 20㎡		
		ソーラーパネル		ete es auto 1616	
		空気調和機	収蔵庫3糸統、展示至2糸統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及び パッケージ型1台、ファンコイルユニッ ト46台、他空冷ヒートポンプパッケー ジエアコン、ルームエアコン	空気調和機	収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交換機(3台)
衛生	設 備	排煙機給水設備	ロビー系統他3系統3台 受水槽30㎡(二槽式)、高架水槽12㎡ (二槽式)		メイン展示室他2系統4台 空調用自動給水装置受水槽 5㎡
		排水設備消火設備	公共下水道に放流 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋内消火栓		公共下水道に放流 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その 他屋外消火栓
昇降材	幾 設 備	乗 用 荷 物 用	ロープ式11人乗750kg 油圧式3,000kg	乗用	油圧式23人乗1,500kg

■建設工事費

Z	分	本館	ロダン館
建	築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外	構	397,162	_
プロムナ	ード	173,300	_
周辺環境	整備	_	268,509
合	計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

• 本館

実技室(114 m²)

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、 通年毎週3~4日の自由工房と不定期に行う技法セミナー や実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室(約20席)

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを 一般の人々にも利用していただこうと設けられたもので ある。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコン を使った美術鑑賞ができるようになっている。

情報コーナー (92.3㎡)

全国の美術館や、県内イベントのパンフレットを配架 している。令和6年3月より自動販売機を設置した。

レストラン (70席 198㎡)

レストラン「Rodin TERRACE」は、㈱なすびが運営し ている。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、 美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。R6年 7月より株式会社オークコーポレーションが運営している。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考え た。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、 展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることな どである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心と して配置され、機能性を重視している。

展示室 (7室 1,777㎡)

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、 一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、 自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。 また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置でき るようになっている。これにより全室ガラスケース展示が 可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展 示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部にLED照明があり、 壁ごとに調光可能となっている。

令和3年度の改修工事において、天井に配置してあるラ イティング・ダクトの位置を見直すとともに、LED照明に 更新し、より機能的な照明環境となった。

県民ギャラリー(2室 490㎡)

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に 利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パ ネルが設けられている。

講堂(262席 305㎡)

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽 会等、多目的に利用できる。

R7年2月に調光、プロジェクター、音響調整の設備を 更新した。

講座室(約30席 71㎡)

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学 芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それ に関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当 学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

画像・映像映写設備、音響設備がある。

授乳室(15.21 m²)

乳児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人 の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提 供するよう、授乳室を開設している。

授乳室 開館日全て

10:00~17:30 (夜間開館日は19時まで)

ロダン館

ロダンフロア (1,461㎡)

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光 を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場 のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差 のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能で あり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動で きるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による 暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行って いる。

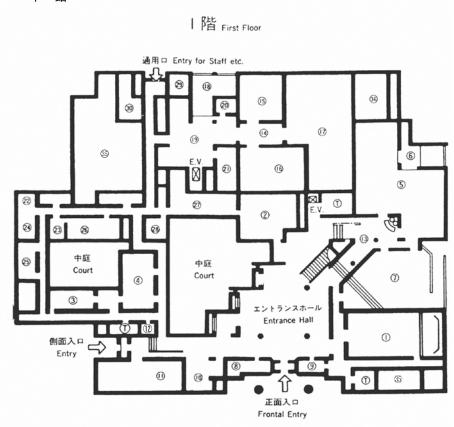
展示室(149㎡)

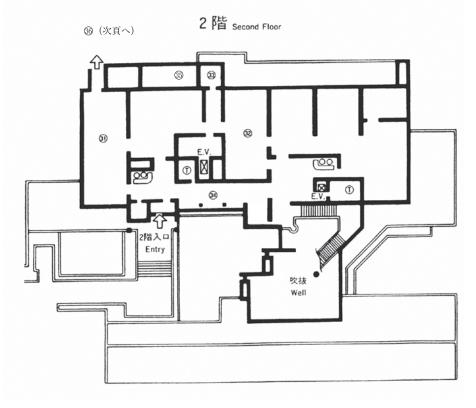
ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階 エントランスホールに設けられている。構造的には、ロダ ンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみであ る。展示室にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

ブリッジ・ギャラリー(276㎡)

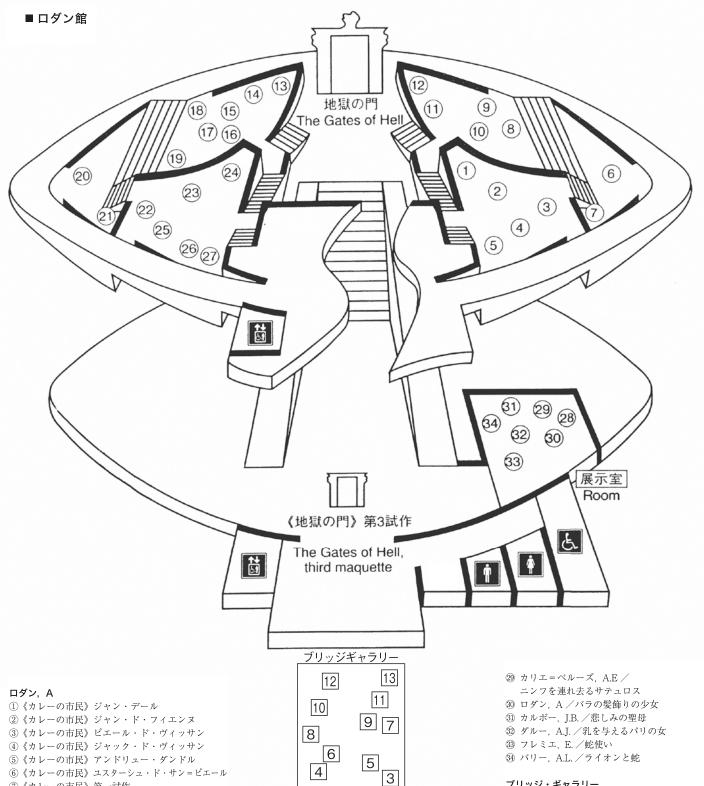
本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ 状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示さ れている。

- ■平面図
- ■本 館





- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ① 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ 情報コーナー Information Corner
- ① レストラン Restaurant
- ⑫ 授乳室 Nursing Room
- ⑬ ギャラリー前口ビー Lobby
- ④ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑤ 収蔵庫1 Storage (1)
- 16 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入□ Delivery Room
- 19 荷受室 Packing Room
- ② 燻蒸室 Fumigation Room
- ② 写真撮影室 Photo Studio
- ② 館長室 Derector's Room
- ② 副館長室 Vice-Director's Room
- 24 応接室 Reception Room
- ② 会議室 Council Room
- 26 事務室 General Affairs Section
- ② 学芸員室 Curatorial Section
- 28 修復室 Restoration Room
- 29 警備員室 Guards Room
- ③ 中央監視室 Central Monitor Room
- ③ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ③② 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ③ ラウンジ Lounge
- ③ ミュージアムショップ Museum Shop
- ③ 機械室 Machinery Room
- 36 ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ① トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator



- ⑦《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ① 永遠の休息の精
- ②《永遠の休息の精》のトルソ
- ③《影》のトルソ
- ④ パオロとフランチェスカ
- ⑤ フギット・アモール
- 16《影》の頭部
- ⑰ 壷をもつカリアティード
- 18 シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者 女のケンタウロスと女のトルソ 女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- 20 考える人

- ② バッカス祭
- ②《ラ・フランス》習作

2

- ② バスティアン=ルパージュ
- ② ヴィクトリア・アンド・アルバートと 呼ばれる女のトルソ

1

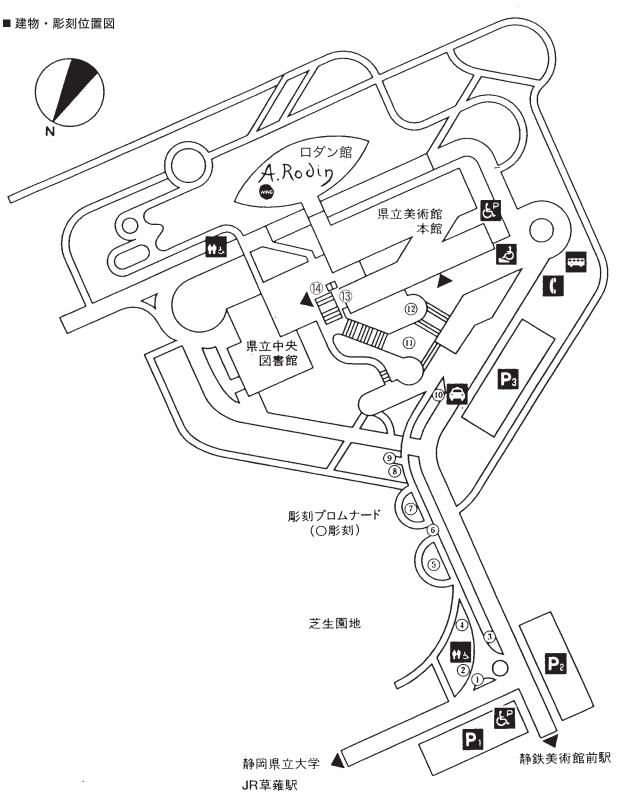
- 25 クロード・ロラン
- ②6 ボードレールの頭部
- ② 花子のマスク

展示室

28 カルボー, J.B. /ナポリの漁師の少年

ブリッジ・ギャラリー

- □ ゴーギャン, P. /オヴィリ
- ② バルラッハ, E. /読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア、H. /横たわる人体
- ④ レームブルック, W. /女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. /横たわる女
- ⑥ アーキペンコ, A. / 《化粧する女》習作
- $\boxed{7}$ ブランクーシ、C. /ポガニー嬢 \blacksquare
- 8 リプシッツ, J./母と子
- 9 ロッソ, M. /病める男
- 10 ブールデル, E.A. /アポロンの首
- □ ブールデル, E.A. /ロダンの肖像
- \square マイヨール、A. / 《イル・ド・フランス》 のトルソ
- 13 クローデル, C./波



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V-相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- T. スミス《アマリリス》
- ② G. リッキー《四つの旋回する斜線-菱形II》
- ③ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間 午前10時~午後5時30分

(展示室への入室は午後5時まで)

[夜間開館] 5月4日(土)、5日(日)、6月29日(土)、

7月6日(土)は午後7時まで開館(入室

は午後6時30分まで)

毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休 ■休館日

日の場合は開館し、翌日休館。4月30日

(火)、8月13日(火)は開館。)

年末・年始、その他館内整備等のための休

館日

■収蔵品展観覧料

一般300円 (団体200円)

大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上	高校・大学生
テオ・ヤンセン展	1,500円	800円	800円
	<1,300円>	<700円>	<700円>
カナレットとヴェネ	1,500円	800円	800円
ツ ィ ア の 輝 き	<1,300円>	<700円>	<700円>
無言館と、かつてありし信濃	1,200円	600円	無料
デッサン館一窪島誠一郎の眼	<1,000円>	<500円>	
生 誕 140 年 記 念	1,400円	700円	無料
石 崎 光 瑤	<1,200円>	<600円>	

- *< >内は前売及び20名以上の団体料金
- *身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交 付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧い ただけます。

■施設利用料

(1) 県民ギャラリー

利用区分		使 用 料
		10時~17時30分
入場料を 徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を 徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講 堂

	使 用 料	
午 前	午 後	全 日
10時~12時30分	13時~17時30分	10時~17時30分
7,750円	14,050円	21,800円

交通案内 JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス 「県立美術館行き」で約6分

> 静鉄「県立美術館前駅」から徒歩で約15分ま たは静鉄バスで約3分

> JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分ま たは北口から静鉄バスで約30分

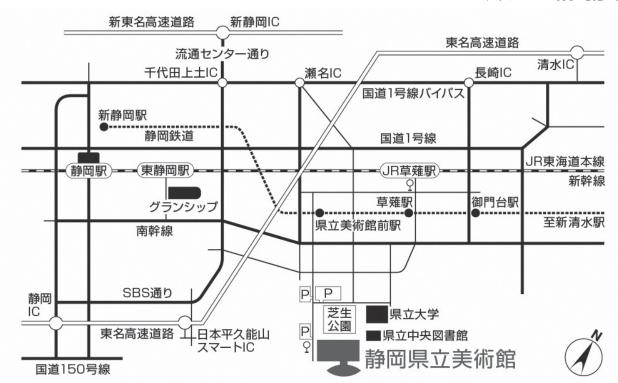
東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25 分、日本平久能山スマートICから車で15分、 新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 企画総務課(TEL) 054 - 263 - 5755 '' (FAX) 054 - 263 - 5767

学芸課 (TEL) 054 - 263 - 5857 054 - 263 - 5742 '' (FAX) 美術館友の会事務局 054 - 264 - 0897

ミュージアムショップ 054 - 262 - 1960



令和6年度 静岡県立美術館年報

編集·発行:静岡県立美術館©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印 刷:有限会社橋本印刷所

〒422-8046 静岡県静岡市駿河区中島390

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2024

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art © Printed by HASHIMOTO Printing Co., Ltd., Shizuoka Printed in Japan 2025